

ところで、1980年にCRIES(Sistema Comprensivo para el Inventario y la Evaluacion de Recursos)が行った森林調査では残存する森林は、7,000平方キロ未満となっている。しかし、この調査は樹冠被度が75%以上に限定して森林を規定しているため、大部分のマツ林は森林の範疇から除外されている。森林の定義が不明確による結果であるが、これまで同国で実施された他機関による森林調査の結果を参考までに併記した(表1-1)。

表1-1 ドミニカ共和国における主なタイプ^oの森林の面積

森林タイプ ^o	未発表		OEA(1967)		FAO(1973)		CRIES(1980)	
	Km2	(%)	Km2	(%)	Km2	(%)	Km2	(%)
マツ林	2,800a	(5.8)	2,155	(4.5)	1,962	(4.1)	311	(0.6)
マツ-広葉樹混交	4,800a	(9.9)	835	(1.7)	1,385	(2.9)		
広葉樹湿潤林	29,378b	(61)	1,890	(3.9)	4,135	(8.5)	6,518	(13.5)
広葉樹湿潤林	10,963c	(23)	690	(1.4)	3,382	(7.0)		
マングローブ林	102	(0.2)	-	-	102	(0.2)		
その他 (湖など)	399	(0.8)						
合 計	48,442	(100)	5,570	(11.5)	10,966	(22.6)	6,829	(14.1)

a:FAO(1973)の航空写真解析に基づく数値；b:1.0以下のETP値を有する全ての生活帯、マツ及びマツ-広葉樹でFAOの数値以下の地域を含む；c:ETP比1.0以上のすべての生活帯を含む

出所：G.Marthorn et al.1981.La Republica Dominicana.Perfil Ambiental del Pais.Un Estudio de Campo.

1-2. 社会・経済

(1) 歴史

1) 独立以前

1492年12月5日、Cristobal Colónによってイスパニオラ島がヨーロッパ人によって初めて発見され、1946年彼の弟であるBartolome Colónによって島南部のOsama川河口にSanto Domingoが建設されて、この町は新大陸最古の都市となった。そして、スペインの統治する最初の植民地として本国の行政・経済制度そして宗教が導入され、なかでもエンコミエンダ制度によって原住民を金銀の採掘に酷使した結果、〔発見〕当時60万人いたといわれるカリブ族は、16世紀始めには3,000人にまで激減してしまった。

その後、金鉱脈の枯渇に伴って、16世紀初頭に新大陸で初めてのサトウキビ栽培が開始され、原住民に代わる労働力としてアフリカ人奴隷の輸入が実施されることとなり(これも新大陸で最初)、現在の製糖業の基礎がこの時期に早くも築かれた。

17世紀初頭頃から、バカニアと呼ばれる海賊達が島の西部に定住を始めた。1697年にスペインはリスウィック条約によって島西部をフランスに割譲することとなり、同島はサント・

ドミンゴとサント・ドマングに分かれた。1821年にサント・ドミンゴはスペインからの分離・独立を宣言したが、間もなくフランスから独立したハイチ（1804年）の侵入を受けたために、1844年までハイチ人による占領が続いた。しかし、同年、Juan Pablo Duarte の指導する革命運動によってハイチ人が駆逐され、名実ともに独立を果たしてドミニカ共和国が建国に至った。

2) 独立以後

1862年にラテン・アメリカ再征服を企てるスペインの支配下に置かれたが、1865年の民衆蜂起によってスペイン軍は撃退され再び共和制に復帰した。

20世紀に入ると、同国を資本と商品の輸出の市場とするアメリカが権益保護の口実で、1916年に海兵隊を派兵して占領するという状態が1924年まで続いた。1930年から1961年の暗殺までこの勢力の支援を受けたトルヒーヨ大統領の独裁体制が敷かれた。その後、1966年頃まで政治的不安定状況が続いたが、同年、総選挙が実施されて改革党の Joaquin Balaguer が選ばれ、以後3期12年間政権を担当した。しかし、石油ショック以後経済的不振の責任を問われ、4期目の総選挙では敗北を喫した。

その後、Fuzman, Mafuruta, Blancoの3大統領が選ばれたが、財政の逼迫、ハリケーンによる被害等で、経済的にも政治的にも極めて低迷な状態が続いた。

そして、1986年5月の総選挙では、Balaguer元大統領が返り咲き、大統領に就任したが、経済状態は現在もなお厳しい。

(2) 政治・行政

1844年の建国以来共和制をとり、現在の政体は米国の政治機構を範とした三権分立主義に基づいている。現在の憲法は1966年11月に発効したもので、元首は大統領で、任期が4年、行政権行使の最高責任者で、閣僚の任命権や国軍の指揮権を有する。

国会は上下二院制で、上院の定数は29名、下院は120名で、任期はいずれも4年である。政党は、現与党のキリスト教社会改革党（PRSC中道右派）や前与党のドミニカ革命党（PRD中道左派）のほか保守、中道、革新諸政党が乱立している。

ドミニカ共和国の政情は、30年間のトルヒーヨ元帥による独裁政治の後、度重なるクーデターで政局は混迷を極めたが、1960年の総選挙で J. Balaguer が当選してからは、政権交替も一応民主的ルールに則って実施され、現在は、1986年8月より Balaguer が再び政権を担当している。アメリカからの至近距離にあることから、一度政治的不安定状態が生ずると、それが直接・間接にアメリカの安全保障上の関心事とならざるを得ない。

現在の行政区分は、1959年9月に制定された法では、Distrito Nacional(首都圏)と23Provincia(県)となっているが、その後法の手直しが行われて27Provincia に増え、さらに1986年の行政区画に関する法の改正によって2 Provincia 追加された(図1-7)。

(3) 人種・人口

1) 人種

1950年の国勢調査によれば、住民は白人 28.14%、黒人 11.47%、混血 60.36%、黄色

0.03%という割合で、混血が圧倒的に優勢である。ところでここでいう黄色は、1492年のコロンブスによるイスパニオラ島発見当時60万人いたというタイプ、ルカーヨ、シグアイ、カリブなどの原住民でなく、彼らはスペイン統治時代に絶滅してしまっているため、東洋系移民（日系人も含む）を指す。こうした人種構成はカリブ諸国のスペイン植民地に共通しており、黒人の比率の高いフランス領（隣接するハイチは90%）や旧イギリス領のカリブ海植民地（小アンティール諸島にあるドミニカ国は人口の90%以上がアフリカ系黒人）の人種構成とは好対照をなしている。

2) 人口

1985年の推計では、ドミニカ共和国の現在の人口は約642万人となっているが、米国本土への出稼ぎ人口が相当な数にのぼるため（表1-2）、実際の定住人口はもっと少ない。同国における人口の趨勢を見ると（表1-3）、1920年の約90万人の状態が、高い増加率により、55年後の1958年には早くも642万人と、実に7倍以上にもなっている。人口密度でも122人/平方キロと、比較的高い水準となっている（Demographic Yearbook 1982, 1983）。従って、80年代初めまでは、経済成長は目ざましかったが（ちなみにInternational Development Bankの統計によると、1970-80年の国内総生産平均成長率は6.2%であった）、一人当りの国民所得はさほどではなかったのである。このような人口動態は都市人口の急激な増大と結び付いていることは、表から一目瞭然である。1920年には、人口の大半が農村部に分布していたが、農村部の人口増加率が年々低下したのとは対照的に、都市部では急激な上昇率をみせ、1981年には遂に都市部で農村部の人口を凌駕することになった。なかでも、首都における人口の伸長はすさまじく、都市部全人口の半数以上を占め、この傾向は加速されて首都圏への人口集中に拍車をかけている。

また、年齢構成で14歳以下の人口が40.7%（1981年国勢調査）にも達しているのは、被扶養者比率が高いことを意味し、同国の経済活動にも少なからず影響を及ぼしていることは間違いない。

(4) 言語・宗教

C. Colónによるイスパニオラ島発見当時カリブ海諸国に広く定住していた先住民には、アラワク語やカリブ語が存在したが、部族の絶滅とともに消滅し、いくつかの単語を残すのみである。

これに対し、植民地時代以後人間と共に到来したスペイン語が、今日の公用語となっている。

また、宗教面でも旧スペイン領植民型の典型としてカトリック教徒が95%を占め、その他に少数のプロテスタント、ユダヤ教徒がおり、信仰の自由が認められている。

(5) 経済

1) 経済の発展過程

ドミニカ共和国の経済発展の過程は、多くの中・南米諸国が経験してきたものと共通性が高い。すなわち、次の4つの時期—一次産品輸出経済期、消費財輸入代替期、対外債務の拡大期、それに近年の経済危機の時期—toに区分できる（細野ほか、1986）。ただ、同国の場合には輸入代替開始が1960年代半ば以後と、他の中米諸国より遅かった。

表1-2 アメリカへのマイグレーションによる入国

(1,000人)

	1970	1979	1970-79
全世界からの総数 (100万人)	4,432	7,060	68,745
カリブ諸国	529.6	547.1	5,984.4
アンキラ	-	1.5	3.6
アンティグア	20.7	6.6	122.6
バルバドス	101.7	74.3	887.3
バハマ	11.6	10.7	144.4
ベリーズ	4.4	6.3	62.3
バーミュータ	14.3	17.6	199.6
英領バミューダ諸島	9.6	11.1	85.5
トミニカ国	7.6	1.7	58.2
トミニカ共和国	105.2	134.5	1,372.1
ガイアナ	12.7	12.1	134.4
ハイティ	24.5	37.4	413.4
ジャマイカ	81.7	98.5	1,168.4
オランダ領アンティル	11.2	12.9	145.6
セント・クリストファー・ネイビス	27.4	6.4	134.7
セント・ルシア	8.7	3.0	47.4
トリニダード・トバゴ	41.8	41.9	473.1
その他	46.7	70.7	531.3

出所: Robert A. Pastor, ed., Migration and Development in the Caribbean: The Unexplored Connection, Boulder, Westview Press, 1985

表1-3 ドミニカ共和国の人口の推移

西暦年	全 国	都 市 人 口	農 村 人 口	首 都
1920	894,665 (3.41)	148,894 (3.96)	745,711 (3.30)	
1935	1,479,417 (2.48)	266,565 (4.40)	1,212,852 (1.98)	
1950	2,135,872 (3.62)	508,408 (6.13)	1,627,464 (2.70)	
1960	3,047,070 (2.78)	922,090 (5.62)	2,124,980 (1.29)	
1970	4,009,458 (3.16)	1,593,299 (5.71)	2,416,159 (1.06)	813,420
1981	5,647,977	2,935,860	2,712,117	1,550,739
1985*	6,416,000			1,956,000
1990*	7,17,000			2,412,000

* 予測値、() は年平均増加率(%)、1970は国勢調査、単位=人

出所: Republica Dominicana en Cifras 1985.

このようにみると、経済発展の第一期は、1960年代半ばまでのトルヒーヨ独裁制およびその後の政治的混迷期である。サトウキビ等の一次産品輸出を中心としており、成長率も低かった（表1-4）。第二期は、1966年に総選挙によって選出されて以来、12年間にわたってJ. Baraguer現大統領が政権を担当した。このうち1968-74年の期間は、国内総生産の成長率が11%と高成長が達成されたが、これは砂糖輸出の拡大と輸入代替工業化の進展の二つの基本的要因によって実現したものである。第三期は、二度にわたる石油危機によって石油輸入代金が激増した時期で、1981年にはそれが輸入全体の約34%に達したこと、砂糖などの一次産品輸出価格の大幅変動・低迷など、国際経済環境が悪化し、これを対外債務に拡大することによって対処（1973年に4億3,000万ドルの累積債務は1982年には21億ドルに達した）して、比較的低い経済成長率（4%）で経済発展が継続した時期である。第四期は、1982年以後の厳しい緊縮政策を迫られている時期である。この経済危機は、砂糖価格の低下による交易条件の一層の悪化と対外債務の利子率の上昇によって生じている。すなわち、1981年に11億9,000万ドルあった輸出額が1983年には7億7,000万ドルに減少したのに対し、輸入額は同時期14億5,000万ドルから13億ドルの低下にとどまった。一方、債務の利子支払い額が1983年には3億ドル（商品・サービス輸出の8.8%）に達して、多額の経常収支赤字が生じた（表1-5）

2) 社会経済構造

ドミニカ共和国の経済構造は、前述の工業化によって、1981-83年には農業の国内総生産に占める割合が約17%に低下する一方（表1-6）、製造業は18%前後に達し、この国の最も重要な生産部門となった。しかし、就業構造で見ると、農業が労働人口の41.3%と製造業（20.3%）の2倍以上の値を占めており（IDB, 1986）、農業国としての性格が強く、しかも生産性は低い。農業生産中、砂糖・コーヒー等の輸出農産物の生産は70年代に拡大したが、食糧生産は停滞しており、食料品についてはかなりの額の輸入を余儀なくされている（表1-7）。

島国で山岳地帯の多いことから、今後耕地を拡大する可能性は制約されており、灌漑施設の拡充、農業の近代化等による土地生産性の向上が課題となっている。しかし、政府による主要農産物の買い上げや流通が行われているので、価格政策や輸入政策が国内の農業生産に及ぼす影響は大きい。

土地所有の状況に関しては5ヘクタール未満の零細規模の農場の率が高くなっており、1981年には82%を占める一方、全農地面積の12.2%、50ヘクタール以上の土地を保有する農場は2.0%であるが、全農地面積の55.2%を占めている（表1-8）。こうした状況に対し、1962年に制定された農地改革法により国有地や大農園主から買収した土地への入植が実施されている。

一方、同国の工業化は1968年に制定された工業振興法により、各種の税の減免や開発投資基金の適用等の育成策が実施されて、非耐久消費財を中心とした輸入代替産業の生産が拡大し、また消費財や工業・建設材料の一部国産化も実現している。さらに、1970年代には、4ヶ所に輸出加工区が設けられた。

以上記述した農業と工業の構造の下で、農村から都市への人口の集中が加速され、失業率も高まっている。ちなみに、1983年の首都における失業率は21.4%に達したといわれる。

表1-4 国内総生産成長率

	国内総生産成長率 (GDP)			1人当たり 国内総生産 (GDP)の成長率
	1960-70	1970-80	1980-80	1960-80
パナマ	n.a.	6.2*	6.2*	3.6*
パラグアイ	6.2	1.6	3.9	3.2
コスタリカ	5.9	5.6	5.8	3.1
トニカ共和国	5.1	6.9	6.0	3.5
エルサルバドル	5.6	3.2	4.4	1.7
グアテマラ	5.5	5.7	5.6	2.6
ハイチ	3.4	1.7	2.6	1.2
ホンジュラス	0.8	4.7	2.7	1.0
ペルー	5.0	4.8	4.9	1.7
プエルトリコ	5.4	-0.9	2.2	1.0
ニカラガ	6.9	0.3	3.6	0.5
パナマ	7.9	5.5	6.7	4.2
スリナム	n.a.	0.7*	0.7*	0.2*
トリニダード・トバゴ	4.2	4.8	4.5	3.1

*:1975-80年

出所:IDB,Economic and Social Progress in Latin America,1986 Report,1986.

表1-5 トニカ共和国の貿易・国際収支・対外債務の推移

(単位:百万ドル)

	1981	1982	1983	1984	1985
経常収支	-389.0	-442.0	-421.0	-163.0	-149.0
貿易収支	-264.0	-461.0	-497.0	-389.0	-547.0
輸出(FOB)	1,180.0	723.02	785.0	868.0	738.1
輸入(FOB)	1,452.0	1,185.0	1,282.0	1,257.0	1,285.0
資本収支	429.0	279.5	265.1	231.6	180.0
公的対外債務	1,408.0	1,660.0	2,214.0	2,388.0	2,500.0
GDP成長率(市場価格)	4.1	1.7	3.9	0.4	-2.2
中央政府財政収支(対GDP質)	-1.8	-3.0	-2.5	-0.7	-1.4
(マイナスは赤字)					
公定為替レート (IUSTドルに対する国内通貨)	1.00	1.00	1.00	1.00	3.11
実質為替レート (1980=100)	100.6	102.5	109.7	148.7	143.4
利子支払い比率 (商品・サービス輸出に対する)	8.0	10.0	8.8	7.9	11.0

出所:IDB,Economic and Social Progress in Latin America,1986 Report,1986.

表1-6 国内総生産（名目）の分野別構成

（単位：100万ハソ）

分 野	1981	1982	1983
農 業	951.6 (13.1)	952.0 (11.9)	976.7 (11.4)
牧 畜	352.9 (4.9)	410.5 (5.2)	461.7 (5.4)
林業・漁業	45.0 (0.6)	49.4 (0.5)	50.0 (0.6)
鉱 業	270.6 (3.7)	193.5 (2.4)	185.3 (2.2)
工 業	1,133.1 (15.6)	1,454.9 (18.2)	1,527.5 (17.8)
建 築	537.1 (7.4)	557.0 (7.0)	648.8 (7.6)
高 速	1,197.6 (16.8)	1,348.9 (16.9)	1,449.3 (16.9)
運 輸	345.2 (4.5)	359.9 (4.5)	371.4 (4.3)
通 信	63.2 (0.9)	63.3 (0.9)	77.2 (0.9)
電 気	66.8 (1.0)	82.4 (1.0)	77.5 (0.9)
金 融	236.8 (4.2)	335.8 (4.2)	367.6 (4.3)
不 動 産	681.2 (8.7)	693.5 (8.7)	750.5 (8.7)
政 府	607.9 (8.3)	663.3 (8.3)	704.2 (8.2)
その他のサービス	727.8 (10.2)	810.9 (10.2)	927.1 (10.8)
合 計	7,266.9(100.0)	7,981.3(100.0)	8,574.8(100.0)
名目成長率%	9.6	9.8	7.4
実質成長率%	4.1	1.6	3.9

出所：ドミニカ共和国中央銀行月報、1986。

() 内数字%

表1-7 ドミニカ共和国における主要輸入産品

（単位：100万ハソ）

	燃 料	基礎食料品	その他	合 計
1980	449 (30.0)	88 (5.9)	962 (64.2)	1,499 (100.0)
1981	497 (34.3)	101 (7.0)	852 (58.8)	1,450 (100.0)
1982	452 (33.0)	54 (4.3)	750 (59.7)	1,256 (100.0)
1983	461 (36.0)	63 (4.9)	755 (59.0)	1,279 (100.0)
1984	511 (40.7)	78 (6.2)	668 (53.0)	1,257 (100.0)
1985	465 (40.5)	60 (5.2)	624 (51.3)	1,149 (100.0)

出所：ドミニカ共和国中央銀行月報、1986。

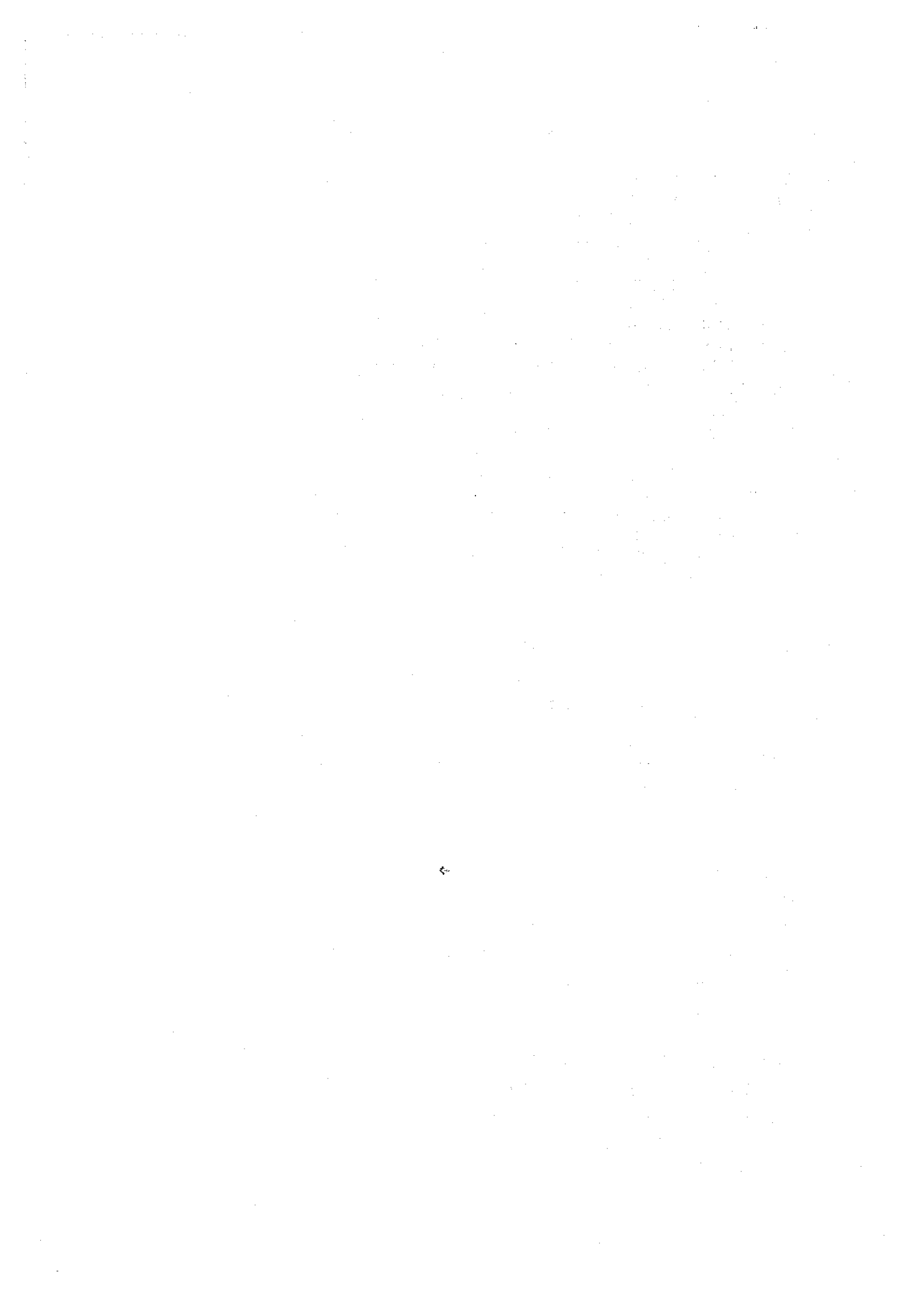
表1-8 ドミニカ共和国の農地保有状況

農地規模 (ヘクタール)*	1971		1981	
	農家戸数	面積	農家戸数	面積
8 以下	49,651 (16.3)	194,112 (0.4)	61,670 (16.0)	199,440 (0.5)
8 - 79	185,292 (60.7)	5,400,268 (12.4)	252,995 (65.7)	4,986,559 (11.7)
80 - 159	33,803 (11.1)	3,678,882 (8.5)	32,543 (8.3)	3,686,128 (8.7)
160 - 799	23,987 (9.5)	9,346,640 (21.5)	30,815 (8.0)	10,183,748 (23.9)
800 -1,599	3,974 (1.3)	4,269,453 (9.8)	4,081 (1.1)	4,322,463 (10.1)
1,600 -3,199	1,791 (0.6)	3,955,923 (9.1)	1,825 (0.5)	3,994,062 (9.4)
3,200 -7,999	884 (0.3)	4,261,609 (9.8)	786 (0.2)	3,682,805 (8.7)
8,000-15,999	222 (0.1)	2,349,770 (5.4)	184 (0.1)	1,929,199 (4.5)
16,000 以上	216 (0.1)	10,052,231 (23.1)	161 (0.1)	9,575,235 (22.5)
合 計	304,820(100.0)	43,508,888(100.0)	385,060(100.0)	42,559,639(100.0)

出所: Censo Nacional Agropecuario, 1971, 1981. *1ヘクタール=629 m², ()内数字%
 (Republica Dominicana en Cifras, 1985)
 (表11-6 参照)

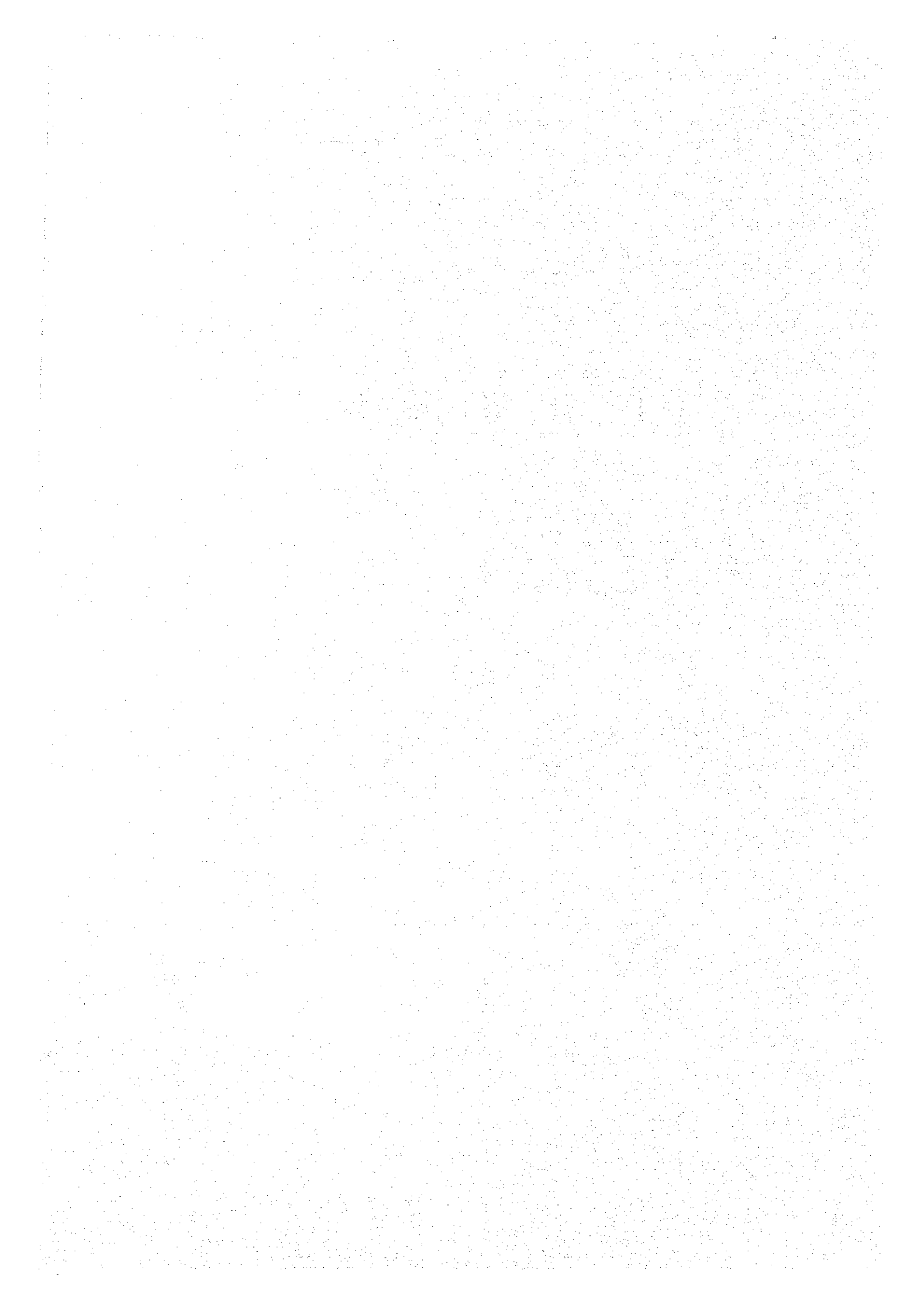
3. 参考文献

1. Brooks, J. ed. 1987. The 1987 South American Handbook.
2. Harthorn, G. et al. 1981. La Republica Dominicana. Perfil Ambiental del Pais. Un estudio de Campo.
3. 細野昭雄ほか. 1987. 中米・カリブ危機の構図—政治・経済・国際関係. 有斐閣.
4. International Development Bank, 1986. Economic and Social Progress in Latin America, 1986 Report.
5. 加茂雄三編. 1985. ラテン・アメリカハンドブック. 講談社.
6. 国際協力事業団. 1980. ドミニカ共和国アグリボ地域農業開発計画事前調査報告書 (第二部資料編).
7. 国際協力事業団ドミニカ共和国事務所. 1986. ドミニカ共和国事情と事業実績.
8. ラテン・アメリカ協会編. 1986. ラテン・アメリカ事典. ラテン・アメリカ協会.
9. Oficina Nacional de Estadística. 1986. República Dominicana en Cifras 1986. Vol. XIII.
10. ONAPLAN. 1983. Lineamientos de Política Económica y Social y Programa de Inversiones Públicas 1983-1985. Vol. I.
11. 大貫良夫監修. 1987. ラテン・アメリカ事典. 平凡社.
12. 蠟山芳郎編. 1986. 最新世界現勢 (1986). 平凡社.
13. SEA. 1986. Resultados Agropecuarios 1985.



II. 農 業 概 況

鈴木 俊



II. 農業概況

1. 国民経済と農業

1974年当時のドミニカ共和国経済は、石油危機・投資の抑制・主要輸出品（砂糖・コーヒー・ココア）価格の下落等の影響により低迷を続けていた。その後、1975年の砂糖価格の急騰により国際収支の改善等がなされたが、それも一時的なもので、1978年の政府の財政赤字は、GDP比の2%をこえる1億ドル以上の赤字となった。しかし、その後、比較的高い成長率で推移した同国経済は、砂糖価格の急落や、他の輸出品の下落、輸入品の高騰により、低迷することとなり、1982年にはGDPは、1.6%の伸にとどまった。政府は、輸入制限・賃金や基幹物資の価格の凍結等を実施しその解決に努めたが、1984年のGDPの実質成長率は83年の3.5%よりさらに減少し、0.6%となっている¹⁾。同国の主要経済指標をあげると次のとおりである²⁾。

国民総生産	:	87.72	億ドル (1983年)
一人当たり	:	1,400	ドル
主要産業	:	農業 (砂糖・コーヒー・カカオ・バナナ・タバコ)	
		同国輸出額の31%	
		鉱業 (ニッケル)	
貿易	:	輸出額	7.92 億ドル
		輸入額	12.50 億ドル
財政支出	:	9.2	億ドル
外貨準備高	:	3.1	億ドル
対外債務	:	22.58	億ドル
経済成長率	:	3.9	%

ところで、表II-1は同国の国内総生産額と各部門別のシェアを示すものであるが、この表から、農業部門の占める比率が最も高く、19.2%を占めている。また表II-2は同国の就業人口に占める農業就業人口を示すが、この表から、農業就業人口比は減少しつつあるとはいえ、41.2%という高率を示しており、さらに表II-3は同国の輸出入額を示すものであるが、同表から、輸出総額8.72億ドル中5.67億ドル、すなわち65%を農産品が占めている(1984)。また、表II-4に示すとおり、国内生産では不足するため輸入している農産物として、コメ・フリホール(frijol, インゲンマメの一種)・トゥモロコシ(トゥモロコシは必要量の1/3しか生産されていない)・ダイズ・コムギがある。このことから、同国経済にとって農業部門が如何に重要であるかがわかれ、加えて、近代的産業が未発達で、また、20%を越える失業者の吸収などを考えあわせると農業が如何に期待される部門であるかが理解されよう。

1)2): 中南米農業共同プロジェクト・ファイナンス調査報告書(ドミニカおよびホンジュラス国) 1981. JICA 及びドミニカ共和国任国情報 1987. JICA による。

表 II - 1 産業別国内総生産のシェア

	生産額(100万ドル) (1970年 価格)			構 成 比 (%)			成 長 率			
	1981	1982	1983 ^a	1970	1980	1983 ^a	1980	1981	1982	1983 ^a
国内総生産 ^b	3099	3148	3271	100.0	100.0	100.0	6.1	4.1	1.6	3.9
農 業	581	602	625	25.8	18.6	19.2	4.9	5.5	3.6	3.8
鉱 業	153	110	143	1.7	4.8	4.4	-15.0	7.1	-28.1	29.9
製 造 業	502	528	537	16.7	16.5	16.5	5.0	2.7	5.2	1.7
建 設 業	229	218	249	5.5	7.7	7.6	7.7	0.6	-4.9	14.5
電気, ガス, 水道	61	56	58	1.3	1.9	1.8	12.1	8.9	-9.3	4.4
運輸, コミュニケーション等	275	288	291	8.5	8.8	8.9	2.8	5.2	4.7	1.0
商 業 ^c	416	431	438	12.7	13.4	13.4	4.8	4.4	3.6	1.7
賃 貸 業	229	227	238	7.6	7.7	7.3	6.5	0.4	-0.9	5.0
公共サービス	989	1034	1050	31.7	31.5	32.1	36.4	11.9	9.1	3.1

Source: ECLAC, on the basis of data supplied by the Central Bank of the Dominican Republic.
^a Preliminary figures. ^b At factor cost. As the individual activities and the totals were calculated independently, the sum of the former does not correspond exactly with the latter.
^c Includes financial institutions, insurance and estate.

出 所 : Economic Survey of Latin America and the Caribbean 1983, United Nations, p606

Table 3 より作成

(表 I - 6 参 照)

表 II - 2 ドミニカにおける人口及び就業人口の推移

年	人口 (千人)		就業人口 (千人)		
	総人口	農家人口	総人口	農業就業人口	%
1965	3729	2208	1031	610	59.2
70	4289	2349	1157	633	54.8
75	4945	2428	1340	673	50.2
80	5558	2540	1571	718	45.7
85	6243	2574	1862	768	41.2

出所 : IAO Production year Book Vol. 39, 1985 より作成
(表 I - 3 参 照)

表II-3 ドミニカ共和国の過去6年間の輸出入の推移

(1,000ドル)

	輸 入						輸 出					
	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1979	1980	1981	1982	1983	1984
総取引額	1,080,433	1,498,397	1,450,169	1,255,817	1,278,125	1,233,800	876,797	963,309	1,198,738	791,365	787,710	872,373
農産物総額	164,668	217,082	240,024	183,297	175,208	165,663	530,556	515,137	786,223	517,757	490,661	567,211
食糧と畜産品	92,830	148,909	174,687	104,989	122,102	104,655	472,231	478,827	714,213	489,266	461,566	518,376
生体	1,531	2,049	1,518	2,972	3,702	859	32	35	40	43	24	64
肉および肉製品	4,129	17,781	15,038	11,823	7,364	2,280	3,502	2,886	8,564	8,838	6,718	897
酪農製品および卵	10,436	15,370	13,740	8,618	15,239	16,755	178	20		82	64	
穀類とその製品	44,625	75,157	104,551	52,623	66,000	58,801	710	889	1,510	1,026	675	777
果物・野菜	10,208	9,836	5,725	4,805	4,350	4,178	20,758	26,648	30,016	29,979	32,240	39,634
サトウとハチミツ	2,228	2,895	3,042	2,401	3,396	1,769	206,603	307,540	538,028	283,587	275,722	302,162
コヒー、茶・カカオ・ゴム	952	591	410	645	867	727	234,753	133,485	126,061	156,128	136,818	172,165
飲料	2,208	10,714	14,147	12,908	16,585	14,778	1,035	1,642	1,876	1,063	1,822	1,402
その他	10,513	14,516	16,496	8,194	4,599	4,510	4,660	5,682	8,118	8,520	7,463	1,275
飲料・タバコ	11,054	6,366	7,539	5,816	3,591	3,357	53,973	34,374	67,675	24,571	24,524	33,820
飲料	3,692	2,298	2,428	2,178	1,031	1,670	100	275	368	193	384	2,948
タバコ	7,362	4,068	5,111	3,638	2,560	1,687	53,873	34,099	67,309	24,378	24,140	30,872
原料類	6,551	16,289	14,430	9,460	7,894	9,810	1,007	1,243	1,655	1,702	2,301	1,854
皮革	1,747	1,331	454				81	74	89	89	24	24
油料種子	401	10,327	9,890	5,959	4,544	6,060	4	23	45	4	23	2
天然ゴム	207	129	266	254	317	477						
繊維類	1,430	1,287	943	678	299	273						352
その他	2,766	3,215	2,877	2,569	2,734	3,000	922	1,146	1,521	1,609	1,637	1,500
動物・植物油	54,231	45,518	43,388	63,032	41,821	47,841	3,345	693	2,680	2,218	2,290	13,16
脂肪	10,470	9,988	10,963	14,172	8,068	13,706						
植物油	40,549	30,290	26,032	46,994	28,218	33,109	2,559		1,800	1,517	1,600	12,500
加工油	3,212	5,240	6,393	1,866	5,395	1,026	786	693	880	701	690	681
魚・畜業製品	19,958	24,205	19,027	16,847	15,984	8,360	913	1,098	1,271	1,287	1,442	3,720
林産物	46,832	71,392	73,145	62,290	58,834	58,834	10,973	19,701	15,750	7,597	1,812	6,147
農業資材	38,015	71,495	56,621	37,654	34,290	33,775						
肥料原料	2	12	1,113	3	43	112						
化学肥料	21,111	37,401	25,865	18,780	14,595	14,430	10,891	19,638	15,705	7,569	1,790	6,129
殺虫剤	9,076	13,693	16,265	11,042	13,345	11,476	65	55	36	7	12	10
農業機械	7,826	20,389	13,378	7,829	6,307	7,757	17	1	9	21	9	8

出 所 : FAD Trade Yearbook 1985, Vol. 39 より作成
(表 I-5 参照)

表Ⅱ-4 農産物輸入状況 (千トン)

	1982	1983	1984	1985	1986
コメ	-	-	-	10.5	56.9
フリホール	-	-	-	4.5	2.4
トウモロコシ	75.5	101.7	125.1	125.1	130.3
ダイズ	-	-	23.5	6.9	18.2
コムギ	76.5	84.1	80.5	104.4	107.2

出所: Resultados Agropecuarias-Plan Operatio 1987 より作成

2. 農業生産と地域的分析

ドミニカ共和国の農用地面積は約 350万haといわれ、国土の72%を占めており、この中には、牧草地・サトウキビ畑・コーヒー・カカオ・果樹園・その他のあらゆる他年生作物を含んでいる。この内、灌漑等のインフラストラクチャーの整備されている面積は18万haといわれる。ところで、表Ⅱ-5はドミニカ共和国の土地利用状況について示すものであるが、ここ数年耕地面積は僅かながら増加を示している一方、森林および林地面積が減少している点がかがわれる。総農家戸数は表Ⅱ-6に示すとおり38.5万といわれるが、この中5ha未満の零細規模農家の占める比率が81.7%と多い。しかしながら、土地所有面積についてみると、80%を占めている零細農(5ha未満)の面積比率は僅かに13.4%を占めるに過ぎず、逆に、200ha以上の規模の農家が29.7%を占めることとなる。また、50ha以上を所有する農家数と面積についてみると、実に全体の1.6%に相当する農家が全農地の50%を所有するということとなり、農地所有上の不平等がかがわれ、加えて、これらの大土地所有者は概して水利・交通等営農上便利な平野部を占有し、一方、零細農民は不便な土地を耕しているという傾向がみられるといわれている点は特筆すべきであろう。

表Ⅱ-5 土地利用の推移 (単位: 1,000ha)

	1974		1980年		1982年		1984年	
	~76年	%		%		%		%
I 全土地面積	4,838	100	4,838	100	4,838	100	4,838	100
II 耕地・永年作物地	1,263	26.1	1,420	29.4	1,450	30.0	1,470	30.4
1) 耕地	930	19.2	1,070	22.1	1,100	22.7	1,120	23.2
2) 永年作物地	333	6.9	350	7.2	350	7.2	350	7.2
III 永年草地	20.92	43.2	2,092	43.2	2,092	43.2	2,092	43.2
IV 森林および林地	645	13.3	635	13.1	631	13.0	627	13.0
V その他	838	17.3	691	14.3	665	13.7	649	13.4
(付) 灌漑地および灌漑率	140	(11.1)	165	(11.6)	176	(12.1)	180	(12.2)

出所: FAO, Production Yearbook, 1985, Vol.39 より作成

表Ⅱ-6 ドミニカにおける規模別農家数

規 模	農家戸数 (%)	面 積 ha (%)
0.5ha未満	61,670 (16.0)	199,440 (0.5)
0.5 ~ 5 "	252,995 (65.7)	4,986,559 (12.9)
5 ~ 9 "	32,543 (8.1)	3,686,128 (9.5)
9 ~ 50 "	30,815 (8.0)	10,183,748 (26.3)
50 ~ 100 "	4,081 (1.0)	4,322,436 (11.2)
100 ~ 200 "	1,825 (0.5)	3,994,062 (10.3)
200 ~ 1,000 "	184 (0.05)	1,929,199 (5.0)
1,000 以上	164 (0.04)	9,575,235 (24.7)
Total	385,060	38,696,834

出 所 : SEA 資料 (1987年) より作成 (表 I - 8 参照)

次に同国の主要農産物をあげると、表Ⅱ-7に示すとおり、輸出作物としては、サトウキビ・タバコ・コーヒー・カカオが、また内需用としては、コメ・バナナ（料理用バナナ・生食用バナナを含む）・トウモロコシ・フリホール（豆）・キャッサバ（ユカ）等があげられる。またこれらに関する生産の傾向を見ると、前者については、サトウキビ・タバコが減少傾向を示すのに対し、コーヒー・カカオは増加を示している。一方後者については、コメ・トウモロコシ・フリホール（豆）・キャッサバなどの主食となる農産物がのきなみ増加傾向を示し、特にトウモロコシおよびフリホール（豆）の増産は著しい。

表Ⅱ-7 農産物の年次別生産状況

農産物	単位	年次別			
		1981	1982	1983	1984
主要輸出農産物					
サトウキビ	(t)	10,275,339	11,804,602	11,519,730	10,271,447
タバコ	(t)	55,894	34,184	33,569	27,907
コーヒー	(t)	109,660	126,984	136,054	144,218
カカオ	(t)	31,818	34,921	32,896	34,541
内需用農産物					
コメ	(t)	400,460	446,913	500,543	506,550
トウモロコシ	(t)	62,896	49,254	55,102	83,810
ラッカセイ	(t)	28,209	30,780	33,550	34,557
ワタ	(t)	6,090	6,358	6,835	6,165
フリール (豆)	(t)	52,387	58,673	61,139	67,253
ジャガイモ (Guandul) ¹⁾	(t)	24,008	23,873	24,468	25,748
ジャマモ	(t)	16,463	15,806	16,802	16,600
サツマイモ	(t)	71,348	59,215	60,577	68,452
キャッサバ	(t)	125,688	109,397	111,541	123,811
ナマメ (Name)	(t)	17,045	19,909	17,315	16,667
ヤウモウア (Yautia) ²⁾	(t)	50,308	56,027	48,743	50,546
タマネギ	(t)	14,331	17,143	16,714	17,717
バナナ (ギネオ) ³⁾	1,000 racimo	18,478	19,716	18,951	19,141
オレンジ	1,000	241,451	249,902	254,476	257,401
グァバ	1,000	370,303	384,004	384,184	383,365
マングローブ	1,000	681,318	690,175	696,086	.. .
ココヤシ	1,000	98,376	100,540	101,587	.. .
アサキ	1,000	7,883	8,167	8,105	.. .
ココシヨウ	(t)	15,560	16,584	16,692	17,276
バナナ	(t)	1,255,219	1,212,750	1,101,383	1,124,437
トマ	1,000	155,442	160,783	164,788	162,294
ニンニク	(t)	2,449	2,780	2,618	2,775

資料 : Banco Central de la República Dominicana.

出所 : República Dominicana en Cifras 1986 Vol. XIII. Oficina Nacional de Estadística

- 1) : グアンド豆
- 2) : タロイモの1種か
- 3) : 料理用バナナで実は小さい
- 4) : 料理用バナナ・生食用バナナを含む

また、これらの主要作物の作付分布については表Ⅱ-8に示すとおりである。すなわち、同国農務省は行政上全国を7区分し(図1)、①南部 (Region Sur)、②南西部 (Region Suroeste)、③北西部 (Region Noroeste)、④北部 (Region Norte)、⑤北東部 (Region Nordeste)、⑥中央北部 (Region Norcentral)、⑦中央部 (Region Central)、⑧東部 (Region Este)としており、それぞれの地域の主要作物は、①においては、バナナおよびサトウキビが、②においてはコメ、フリール (豆)、ラッカセイ、および牧畜が、③においてはコメ・ラッカセイ、④においてはコメの他、コーヒー、カカオ、タバコ等が、⑤においてはコメ、カカオ、コーヒーが、⑥においてはコーヒー、コメおよびバナナが、⑦においてはコメ、コーヒー、カカオ、ジャガイモ、クマネギ、サトウキビが、⑧においてはサトウキビおよび牧畜が主として営まれている (なお、地区別の作物別作付面積については資料の入手が不可能であった) 一方、牧畜に関しては、肉牛が主たるもので、過去5年間の飼養頭数は、1982年からそれぞれ180万頭、277万頭、286万頭、297万頭、そし

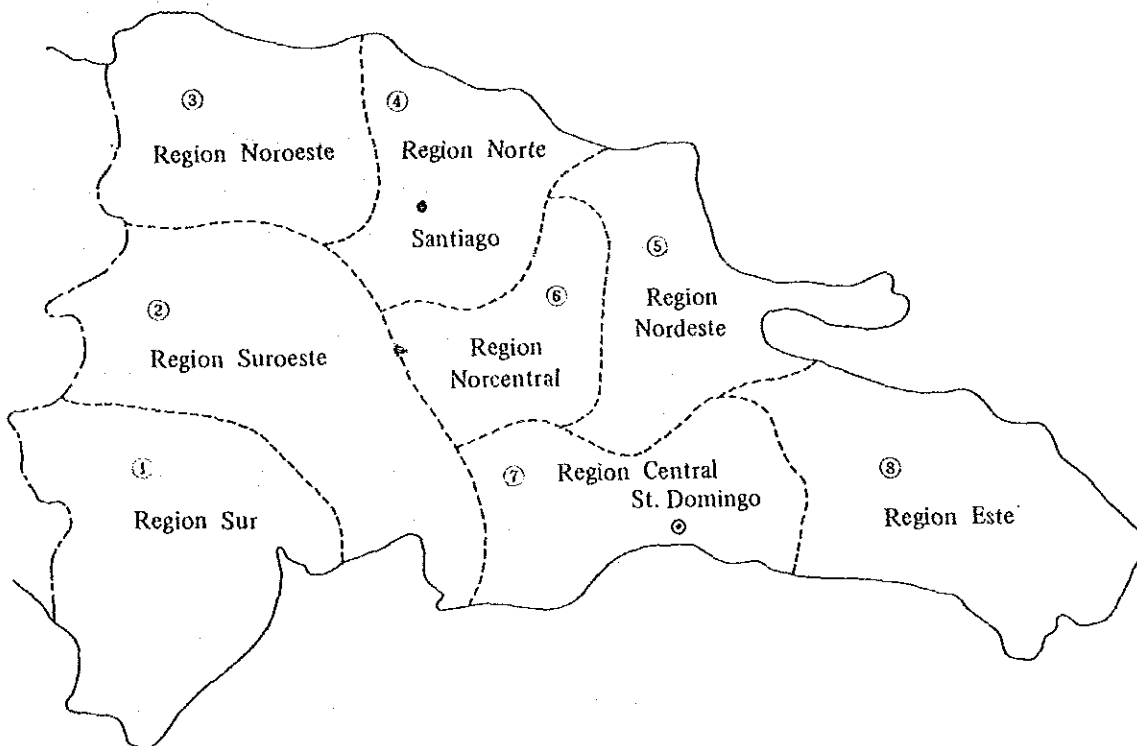
て1986年には 307万頭と年々増加を示している。

豚に関しては1983年の数字のみ得られたが、2万頭と少い。なお、乳牛に関するデータは入手不可能であったが、高地の一部で飼育されているものと考えられる。（数量的には肉牛の比ではなかろう）。

表Ⅱ-8 ドミニカの地域別主要農産物

地 域	主 作 物
①南 部	バナナ, サトウキビ, コーヒー, ラッカセイ
②南 西 部	コメ, フリホール(豆), ラッカセイ, トウモロコシ, 牧畜
③北 西 部	コメ, ラッカセイ
④北 部	コメ, トウモロコシ, カカオ, コーヒー, タバコ, 牧畜
⑤北 東 部	コメ, カカオ, コーヒー, ラッカセイ, 牧畜
⑥中央北部	コメ, コーヒー, バナナ, 牧畜
⑦中 央 部	コメ, コーヒー, カカオ, ジャガイモ, タマネギ, サトウキビ
⑧東 部	サトウキビ, カカオ, ラッカセイ, 牧畜

出 所 : IDA 資料より作成



図Ⅱ-1 農務省による地域区分

3. 農業構造

ドミニカ農業の構造的特色としては、大資本と近代的技術を有する大規模農業経営と、前近代的で、自給農業に近い零細規模農民による二重構造があげられる。そこでまず土地保有制度について述べると、大土地所有 (LATIFUNDIO) と零細土地所有 (MINIFUNDIO) ということになるが、経営規模および農家数については表Ⅱ-6 に示したとおりであり、決して望ましい形態であるとは言えない。したがって政府は1962年農地改革法を制定し、農地庁 (INSTITUTO DE AGRARIO DOMINICANO) を創設し、農地改革を進めている。すなわち、①国有地の分与、②大土地所有者からの土地の買収と農民への土地および施設の提供、③無断入植者と地主間で起るトラブルの調整、④入植者の募集選定等々を行なっている。この実績としては、1981年2月までに分配された件数400件、面積37万ha、受益者5.9万戸、38.2万人といわれる³⁾。

しかしながら1977~1981年に入植の対象とされた土地のほとんどは、国有地であり、大土地所有者の土地は6%のみであった。したがって同国の農地改革は、社会政策としての意味より農村の労働力により未利用の国有地を開拓するという意味合いが強いという見方もあるが⁴⁾、一方ではLATIFUNDISMOの堅固である点もうかがわれる。

一方大規模農場は、北部・中央部・東部に多く、砂糖キビ・牧畜等輸出品生産が行われており、これに対し小規模農場ではコメ・フリホール・トウモロコシ・キャッサバ・ラッカセイ・料理用バナナを生産しているが、大規模農場の解体すなわち輸出品の減産につながるため、むしろ、これらに期待をしなければならない一面もあり、したがって、農地改革は同国の農業開発の一大課題となっている。

次に、農業労働力について述べると、現在同国から米国向け労働者はかなりの数にのぼるといわれるが、その反面、国内では、隣国のハイチから、砂糖キビ農場へかなりの労働者の流入があると聞く。しかしながら農村にはまだかなりの潜在失業者も存在していると考えられる。

農業金融に関しては、同国では農業銀行 (BANCO AGRICOLA) が当たっている。融資については、一般的には70~80%まで融資を受けることが可能とされているが、特別に銀行がリコメンドする作目については、100%の融資を行なっている。一方利率は11%といわれ、融資期間は作目により一様でなく、例えば、バナナは15ヶ月というふうに、栽培期間が目安になっている。また銀行は技術者を抱えており、現場指導に当たっている。(例えば、肥料を購入するための融資を受けた農民がいるとすると、技術者が現場を見、必要と認めた場合はサインを与え、農民はその証明書を持って肥料商に行き肥料を受取り、銀行は代金を肥料商に送るというシステムをとっている)

次に、農業共同組合に関しては、組合化の推進機関として共同組合開発公社 (IDPCOOP) があるが、ここ数年目立った成果は挙げていないと言われる。その理由は、この組織が農民の必要性やメンバーの自覚により創設されたものではなく、国家から法律により与えられたものであるからと言われる。(詳しいデータは入手不可能であった。)

3) ドミニカアグリボ地区農業開発計画調査主報告書、昭和57年、JICA

4) 海外農林業開発協力国別 (地域別) 方針基礎調査報告書、アルゼンチン・韓国・ドミニカ共和国・ボリビア、昭和58年、国際開発センター

このほか、農産物の出荷システムに関しては、大規模農場は別として一般的には、農産物の一次加工・貯蔵・保管施設、輸送手段等が不備である、特に農家の出荷段階での効果的調整策が無い。このため農民は仲買人に不利な条件で農産物を売り渡さざるを得ない場合が多いといわれる。(ちなみにジャガイモの例を見ると、農民は輸送手段を持たないため、トラックを所有する仲買人に1キントール(45kg)12ペソで売り渡す。これを仲買人は市場へ持って行き60ペソで卸すと言われ、このため、現在農務省はトラックを動員し、農民のジャガイモを集め、主要都市で直売している。この場合の価格は1キントール30ペソであると言われる。――筆者等も調査期間中、農務省の前でこの光景に出合った)

4. 農業開発のための問題点

以上の把握から同国農業に関する問題点をあげると、次のとおりである。

- (1) 土地の配分と所有に関する不平等 (MINI FUNDIO と LATIFUNDIO)
- (2) 農業金融が不十分であり、かつ手続きが複雑
- (3) 農産物のマーケティング政策が不十分 (出荷手段を持たない農民は仲買人に買い叩かれる)
- (4) 技術支援態勢が不十分
- (5) 灌漑・交通・貯蔵・通信等のインフラストラクチャーの不備
- (6) 農民組織の未熟
- (7) モノカルチャー的農業構造

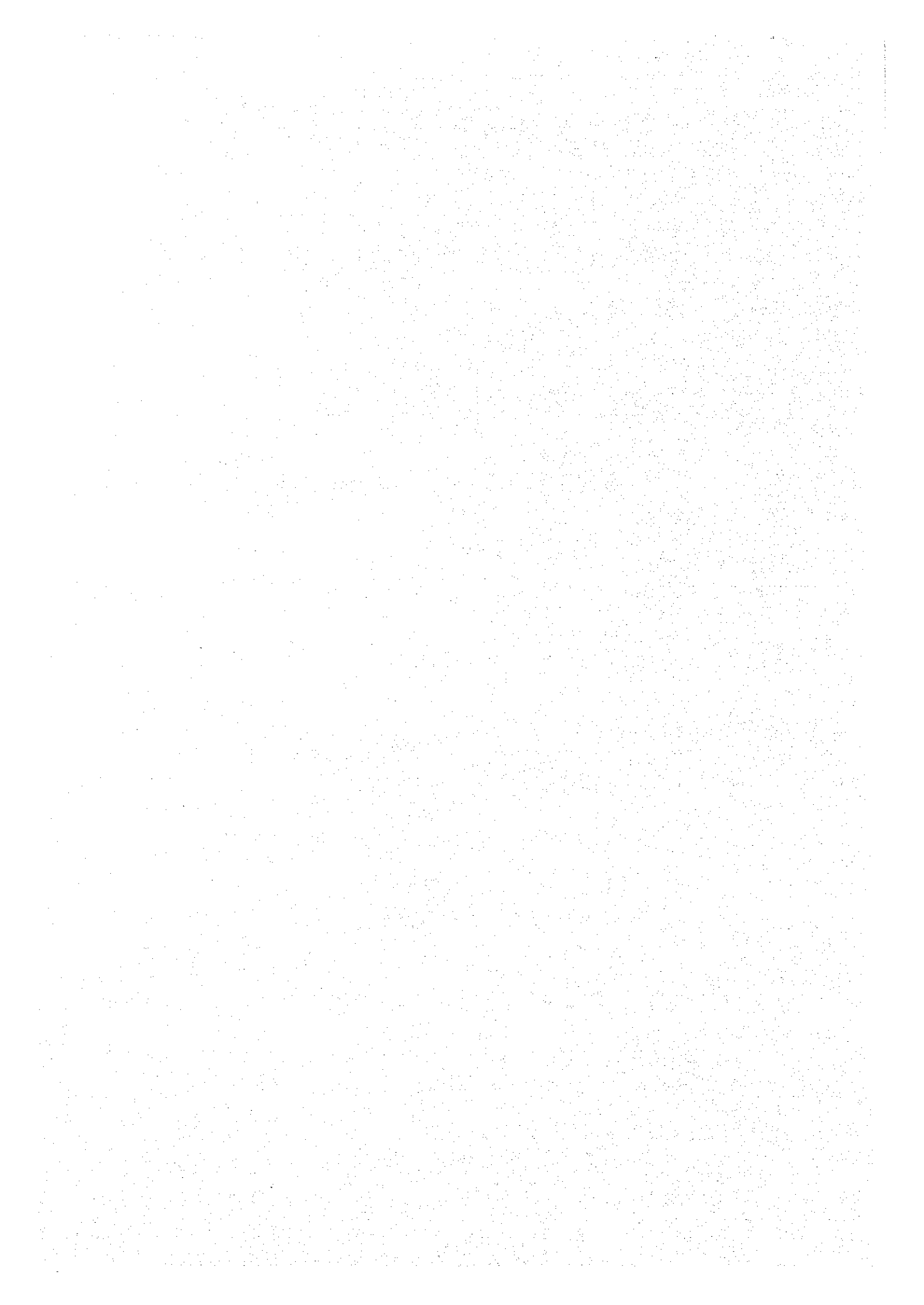
5. 参 考 文 献

1. 国際協力事業団. 1980. ドミニカ共和国アグリボ地域農業開発計画事前調査報告書
2. 国際協力事業団. 1981. 中南米農業協力プロジェクト・ファインディング調査報告書
(ドミニカ国およびホンジュラス国)
3. 国際協力事業団. 1982. ドミニカ共和国アグリボ (エルボソ) 地域農業開発計画調査主報告書
4. 国際開発センター. 1983. 海外農林業開発協力国別 (地域別) 方針基礎調査報告書
アルゼンチン・韓国・ドミニカ共和国・ボリビア
5. 国際協力事業団. 1984. 中南米農林業協力プロジェクトファインディング調査報告書
(ドミニカ共和国).
6. United Nations. 1983. Economic Survey of Latin America and the Caribbean 1983, Volume 11. The Caribbean Economies; Structural Characteristics Economic Evolution of The Individual Countries
7. The World Bank. 1986. World Development Report 1985.

8. FAO, 1985. Production Yearbook vol. 39.
9. Secretaría de Técnico de la Presidencia, Oficina Nacional de Estadística República Dominicana en Cifras 1986
10. Dirección General de Ganadería, Diagnóstico y Estrategia Sector Agropecuario 1976-1986.

III. 教 育 制 度

岸田 博



Ⅲ. 教育制度

1. 教育の概況

(1) 教育の可能性

1) 学制改革以前

1986年発行の統計(Republica Dominicana en Cifras 1986)によると、1985年から1988年までの推定人口動態が載っている。そのうち、24才までの動きを見ると、表Ⅲ-1のようにまとめることができる。この表では、各年度とも人口増加率を2.25%として計算している。即ち、1985年では0才から4才までの男子は473,452人、女子は457,176人で、合計930,628人であったものが、1988年では毎年2.25%増加率であることから、男子が489,673人、女子が472,640人で、合計962,313人になっており、3年間の推定増加者は男女合計31,685人であることがわかる。同様に5才から9才以下、20才から24才までを考えてみると、大学教育が一応終了すると見られる24才までの人口は、1985年の合計が3,961,729人であるのに比べ、1988年では4,114,507人と、1985年から3年目の1988年には、152,778人も増加していると推定されている。

1981年現在ドミニカ共和国の5才以上の人口の識字率の内訳を示したものが表Ⅲ-2である。その総人口4,850,202人のうち、5才から9才までの男子では字を読めたり書けたりできる者が全体(381,974人)の41.90%で、読めたり書けたりできない者が58.10%、女子では全体(373,032人)の45.11%が読書きでき、そうでない者は54.89%を示し、全体として43.49%が読み書き可能、56.51%が不可能であることがわかる。年令を追って識字率の変化をみると、10才から14才は全体の82.64%、15才から19才は全体の84.01%、20才から24才は全体の80.71%と、1957年以降に誕生した者たちは、平均して約73%の識字率であることが知られる。5才から9才の初期段階を除くと約83%の識字率になる。しかし、年令を増すごとにその識字率の数値は低下し、65才以上では36.93%という合計欄の数値が示すようになってしまう。25才から39才までの平均75.98%、40才台67.13%、50才台55.35%、60才台以上40.71%が示すように、識字率は年令層によって大幅に違っていることがわかる。この結果を踏まえて識字率の全体平均を見ると、69.40%であることが理解されよう。

文字を知るためには、一般に学校へ通うことが必要であると考えたとき、どの程度の人口が学校教育を受けたかを実際にみるのが大切になってくる。表Ⅲ-3、Ⅲ-4、Ⅲ-5は5才以上の人口が通学の経験をどの程度有しているかを見たものである。

表Ⅲ-3の男子をみると、通学している者は総数75,135人のうち20,621人で27.44%、少し通った者は311人で0.41%、通っていない者は54,221人で72.15%であることが分かる。6才の者は総数のうち39.29%が通学しており59.69%の者が通学していない。しかし、11.85%の通学増加率がみられる。7才になるとこの数値は通学している者53.64%になり、初めて半数以上の子どもが学校へ通うようになっていることが分かる。

この数値は16才まで上昇ないし維持の形で70%台を示すが、17才から下降し、29才で通学している者は20.73%と減少している。24才までは30%台を示していることが注目されよう。表Ⅲ-4は女子についての傾向が示されている。男子との比較でみると、5才は29.96%

表Ⅲ-1 1985~88までの推定人口構成

項目	7月1日の推定人口													
	1985				1986				1987				1988	
	年令	性別	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
0-4			930,628	473,452	457,176	941,190	478,859	462,331	951,753	484,268	467,485	962,313	489,673	472,640
5-9			828,085	420,553	407,532	844,655	429,016	415,639	861,516	437,646	423,870	878,743	446,446	432,297
10-14			786,371	398,784	387,587	793,109	402,316	390,793	799,765	405,805	393,980	806,330	409,247	397,083
15-19			751,307	381,427	369,881	755,388	383,568	371,820	759,269	385,612	373,656	762,980	384,554	375,426
20-24			665,338	338,756	326,581	678,026	345,250	332,776	690,979	351,864	339,115	704,141	358,601	345,540
合計			3,961,729	2,012,972	1,948,757	4,012,368	2,039,009	1,937,359	4,063,302	2,065,195	1,998,106	4,114,507	2,09,152	2,025,986

注 : 人口増加率は2.25%弱で推計してある。

出所 : Republica Dominicana en Cifras 1986 ; Secretariado Tecnico de la Presidencia Oficina Nacional de Estadistica ; Sant Domingo, D.N.

の者が通学していて同年令の男子より2.52%高い数値を示している。この傾向は6才以降も続き15才までは高率である。16才以降通学率は低下するが、男子よりも高率の年令が多く、29才でも3.34%と高い。30才以降の男子と女子とを比較しても類似の傾向が認められ、全体としての男子の通学率 39.40%よりもやや多い 40.78%という数値を女子が示していることは興味深い。

どのような学校へ通ったかをみると、表Ⅲ-3でみる男子は、5才児の 51.47%がPublica(国立)、48.53%が Privada(私立)であることがわかる。後述のようにこの国の教育制度からは6才から通学することになっているので、ここは幼稚園であることがわかる。6才以降私立通学の数値は減少し、9才以降29才までいずれも10%台を示している。しかも6才(33.94%)、7才(25.93%)、8才(20.78%)、というようになりに急激に通学率が減少していることから、私立の教育に何か特色があることがうかがえる。9才以降はその数値が安定していることがそれを示している。

表Ⅲ-4の女子でこの傾向をみると、5才児の 46.35%が私立へ通学(園)しており、6才(31.95%)、7才(27.42%)、8才(20.63%)、と通学率が減少している。このことは男子と同傾向である。しかし、それ以降の数値には若干であるが女子の方が高率で、15%未満は12才(14.41%)、13才(14.46%)だけであとは15%以上を示している。特に18才以降は20%台が殆どで、男子の傾向とかなり違っている。この国でも男子は公(国)立、女子は私立という傾向がみられる。この傾向はそれ以降の年令層にも共通したものと示されている。

男子、女子双方の傾向を合わせたものが表Ⅲ-5である。5才では全体(152,879人)のうち43,910人(28.72%)が通学(園)し、728人(0.48%)が通学(園)したことがあり、108,241人(70.80%)が通学(園)していない。6才の児童は40.51%が通学しており、58.51%が通学していない。7才児からあとは半数以上の児童が通学をするようになっている。15才までの通学率は平均72.58%であり、16才から24才までの通学率平均は47.58%と低くなる。その後この数値は減少し続け、29才では22.37%を示している。大学を終了する年令よりも高令であると考えるとき、この国の学校教育に何か特色がありそうだとすることが考えられる。

通学(園)学校種別をみると、5才児のうち52.63%は公(国)立、47.37%は私立であることが分かる。6才児以降29才までの傾向は表Ⅲ-3、Ⅲ-4は酷似しているので省略するが、13.55%までの割合、平均18.69%の割合で私学へ通学(園)していることがわかる。

前述の15才までの通学率の平均72.58%を考えた時、平均27.62%の者が通学していないこと、それを14才まででみると、表Ⅲ-6のように31.57%にも達していることが分かるから、ドミニカ共和国の教育、特に日本の義務教育に相当する年令層の教育に大きな力が必要になっていることが理解できる。1981年の集計ではあるが実数で474,571人もいることを考える時、967,628人(64.74%)が通学しているのであるから、この数値を上昇させる努力が続けられるであろう。

1981年度に各教育段階に在籍している学生、児童生徒数を示したものが表Ⅲ-7に示してある。学校制度の箇所では後述するが、1986年に学校制度が変革され、IntermedioのレベルがPrimariaのレベルに吸収されてしまったので、実際にはこの表と若干異なっているのである。

表三 2 5万以上の人口の性別・年齢別にみたアルファベットに関する調査1981

年 令	アルファベット										
	文字が読めたり書けたり					文字が読めなく、書けない					
	合 計	男 性	女 性	合 計	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性
5-9 %	755,006 100.00	381,974 100.00	373,032 100.00	528,317 43.49	160,052 41.90	168,392 45.11	221,922 58.10	204,767 54.89	426,689 56.51	221,922 58.10	204,767 54.89
10-14 %	742,310 100.00	381,974 100.00	370,604 100.00	613,429 82.64	299,452 81.57	313,977 84.81	72,214 19.43	56,667 15.19	128,881 17.36	72,214 19.43	56,667 15.19
15-19 %	707,854 100.00	344,053 100.00	363,801 100.00	594,666 84.01	282,255 82.04	312,411 85.88	61,798 17.96	51,390 14.12	113,188 15.99	61,798 17.96	51,390 14.12
20-24 %	563,712 100.00	275,887 100.00	287,835 100.00	454,966 80.71	220,414 79.89	234,582 81.50	55,473 20.11	53,243 18.50	108,716 19.29	55,473 20.11	53,243 18.50
25-29 %	429,247 100.00	211,647 100.00	217,600 100.00	333,674 77.74	164,788 77.86	168,886 77.61	46,859 22.14	48,714 22.39	95,573 22.26	46,859 22.14	48,714 22.39
30-34 %	340,631 100.00	170,967 100.00	169,664 100.00	261,149 76.67	132,014 77.22	129,014 76.11	79,482 23.33	40,529 23.89	79,482 23.33	79,482 23.33	40,529 23.89
35-39 %	274,489 100.00	135,625 100.00	138,864 100.00	201,805 73.52	100,494 74.10	101,311 72.96	72,684 26.48	37,553 27.04	72,684 26.48	72,684 26.48	37,553 27.04
40-44 %	235,365 100.00	119,662 100.00	115,703 100.00	161,988 68.82	86,100 71.95	75,888 65.59	33,562 28.05	39,815 34.41	73,377 31.18	33,562 28.05	39,815 34.41
45-49 %	195,157 100.00	99,212 100.00	95,945 100.00	127,735 65.45	69,262 69.01	58,473 60.94	29,950 30.19	37,472 39.06	67,422 34.55	29,950 30.19	37,472 39.06
50-54 %	182,535 100.00	96,212 100.00	86,499 100.00	105,510 57.80	59,615 62.08	45,895 53.06	36,421 37.92	40,604 46.94	77,025 42.20	36,421 37.92	40,604 46.94
55-59 %	115,600 100.00	60,873 100.00	54,727 100.00	61,158 52.90	34,723 57.04	26,435 48.51	26,150 42.96	28,292 51.69	54,442 47.10	26,150 42.96	28,292 51.69
60-64 %	105,830 100.00	54,858 100.00	48,972 100.00	46,197 44.49	26,500 48.51	19,697 40.22	28,358 51.69	29,275 59.78	57,633 55.51	28,358 51.69	29,275 59.78
65 y mas %	204,466 100.00	103,689 100.00	100,777 100.00	75,508 36.93	41,071 39.61	34,437 34.17	62,618 60.39	66,340 65.83	128,958 63.07	62,618 60.39	66,340 65.83
Total %	1,850,202 100.00	2,426,149 100.00	2,424,053 100.00	5,366,132 69.40	1,676,740 69.12	1,689,392 69.69	749,409 30.88	734,661 30.51	1,484,070 30.60	749,409 30.88	734,661 30.51

出所：表三 1に同じ

表Ⅲ-3 5才以上の人口の学校への通学 男子 1981

5才以上の人口の学校への通学											
学校への通学											
	TOTAL		TIPO DE ESCUELA				通学したことあり		通学せず		
	TOTAL	%	PUBLICA		PRIVADA		%	%	TOTAL	%	
			人数	%	人数	%					
5	75,153	20.621	27.44	10,614	51.47	10,007	48.53	311	0.41	54,221	72.15
6	77,949	30,629	39.29	20,235	66.06	10,394	33.94	791	1.01	46,529	59.69
7	79,149	42,455	53.64	31,447	74.07	11,008	25.93	1,335	1.69	35,359	44.67
8	77,142	48,082	62.33	38,092	79.22	9,990	20.78	1,985	2.57	27,075	35.10
9	725,581	49,946	68.81	41,211	82.51	8,735	17.49	2,154	2.97	20,481	28.22
10	75,025	54,330	72.42	45,426	83.61	8,904	16.39	2,884	3.84	17,811	23.74
11	81,001	62,461	77.11	54,011	86.47	8,450	13.53	2,955	3.65	15,585	19.24
12	75,203	58,029	77.16	50,701	87.37	7,328	12.63	3,422	4.55	1,375	18.29
13	71,319	56,353	79.02	48,746	86.50	7,607	13.50	4,158	5.83	10,808	14.17
14	19,118	52,342	75.73	45,448	86.83	6,894	13.17	5,809	8.40	10,967	15.87
15	68,285	49,247	72.12	42,098	85.48	7,149	14.52	7,890	11.55	11,148	16.33
16	73,642	51,617	70.09	43,716	84.69	7,901	15.31	10,649	14.46	11,376	15.45
17	64,197	40,184	62.59	34,581	86.06	5,603	13.94	13,001	20.25	11,012	17.15
18	79,350	45,116	56.86	38,285	84.86	6,831	15.14	20,157	25.40	14,077	17.74
19	58,579	29,674	50.66	24,823	83.65	4,851	16.35	18,291	31.22	10,614	18.12
20	61,633	27,914	45.29	23,428	83.93	4,486	16.07	22,365	36.29	11,354	18.42
21	56,886	23,272	40.91	19,355	83.17	3,917	16.83	21,856	38.42	11,758	20.67
22	58,002	21,731	37.47	18,111	83.34	3,620	16.66	25,590	44.12	10,681	18.41
23	50,366	17,571	34.89	14,224	80.95	3,347	19.05	22,987	45.64	9,808	19.47
24	49,000	15,906	32.46	12,953	81.43	2,953	18.57	23,099	47.14	9,995	20.40
25	47,501	13,147	27.68	10,932	83.15	2,215	16.85	23,852	50.21	10,502	22.11
26	44,235	11,988	27.10	9,341	82.09	2,147	17.91	22,613	51.12	9,634	21.78
27	42,485	11,417	26.87	9,496	83.17	1,921	16.83	22,815	53.70	8,253	19.43
28	38,424	9,054	23.56	7,403	81.75	1,651	18.24	21,144	55.03	8,226	21.41
29	39,002	8,087	20.73	6,994	86.48	1,093	13.52	22,439	57.53	8,476	21.72
Total	1,585,277	851,173	53.69	702,173	82.49	149,002	17.51	324,552	20.47	409,502	25.83
5~9	381,974	191,733	50.20	141,599	73.85	50,134	26.15	6,576	1.72	183,665	48.08
10~14	371,666	283,515	76.28	244,332	86.18	39,183	13.82	19,228	5.17	68,923	18.54
15~19	344,053	215,838	62.73	183,503	85.02	32,335	14.98	69,988	20.34	58,227	16.92
20~24	275,887	106,394	38.56	88,071	82.78	18,323	17.22	115,897	42.01	53,596	19.43
25~29	211,647	53,693	25.37	44,666	83.19	9,027	16.81	112,563	53.30	45,091	21.30
30~34	170,967	30,196	17.66	26,628	88.18	3,568	11.82	103,065	60.28	37,705	22.05
35~39	135,625	20,249	14.93	18,670	92.20	1,579	7.80	81,441	60.05	33,935	25.02
40~44	119,662	15,761	13.17	14,758	93.64	1,003	6.36	71,393	59.66	32,506	27.17
45~49	99,212	12,006	12.10	11,426	95.17	580	4.83	58,034	58.49	29,172	29.40
50~54	96,036	10,210	10.63	9,678	94.79	532	5.21	50,977	52.14	35,749	37.22
55~59	60,873	5,844	9.60	5,453	93.31	391	6.69	29,072	47.76	25,957	42.64
60~64	54,358	3,873	7.06	3,571	92.20	302	7.80	22,615	41.22	28,370	51.72
65~	103,689	5,324	5.58	5,047	88.61	277	11.39	34,101	32.39	62,764	60.53
Total	2,426,149	956,136	39.40	798,402	83.50	157,734	16.50	774,351	31.92	695,662	28.67

出 所 : 表Ⅲ-1に同じ

表Ⅲ-4 5才以上の人口の学校への通学 女子 1981

	5才以上の人口の学校への通学											
	学校への通学											
	TOTAL	TOTAL		TIPO DE ESCUELA				通学したことあり		通学せず		
				PUBLICA		PRIVADA						
5	77.726	23.284	29.96	12.494	53.65	10.795	46.35	417	0.54	54.020	69.50	
6	74.186	31.024	41.82	21.111	68.04	9.913	31.95	681	0.92	42.481	57.26	
7	76.882	44.616	58.03	33.382	72.58	12.234	27.42	1.184	1.54	31.082	40.43	
8	74.569	49.015	65.73	38.902	79.37	10.113	20.63	2.101	2.82	23.453	31.45	
9	69.669	50.527	72.52	41.245	81.63	9.282	18.37	2.233	3.21	16.909	24.27	
10	70.192	53.609	76.37	44.239	82.52	9.370	17.48	2.377	3.39	14.206	19.98	
11	79.084	63.005	79.67	53.515	84.93	9.490	15.06	3.753	4.75	12.326	15.59	
12	75.869	61.872	81.55	52.959	85.59	8.913	14.41	3.969	5.23	10.028	13.22	
13	74.914	60.232	80.40	51.522	85.54	8.710	14.46	5.296	7.07	9.386	12.53	
14	70.585	55.191	78.19	46.610	84.45	8.581	15.55	7.302	10.34	8.092	11.46	
15	73.176	55.564	75.93	45.638	82.14	9.926	17.86	9.061	12.38	8.551	11.69	
16	80.720	55.069	68.22	44.870	81.48	10.199	18.52	15.560	19.28	10.091	12.50	
17	66.672	42.934	64.40	34.883	81.25	8.051	18.75	1.462	21.92	9.126	13.69	
18	80.796	46.274	57.27	96.323	78.50	9.951	21.05	22.685	28.08	11.837	14.65	
19	62.437	31.759	50.87	24.715	77.82	7.044	22.18	21.138	33.85	9.540	15.28	
20	63.411	26.836	42.32	21.948	81.79	4.888	18.21	25.029	39.47	11.546	18.21	
21	58.951	23.920	40.58	18.807	78.62	5.113	21.38	25.091	42.56	9.940	16.86	
22	61.016	22.806	37.38	17.909	78.53	4.397	21.47	27.564	45.18	10.646	17.45	
23	53.872	18.202	33.79	13.919	76.47	4.283	23.53	25.750	47.80	9.920	18.41	
24	50.575	15.120	29.90	11.640	76.98	3.480	23.02	26.110	51.63	9.345	18.48	
25	51.268	14.644	28.56	11.688	79.81	2.956	20.19	25.945	50.61	10.679	20.83	
26	44.628	12.087	27.08	9.478	78.41	2.609	21.59	23.619	52.92	8.922	19.99	
27	44.212	10.977	24.83	8.702	79.27	2.275	20.73	24.169	54.67	9.066	20.51	
28	40.212	9.691	24.10	8.057	83.14	1.634	16.86	21.137	52.56	9.384	23.34	
29	37.280	8.975	24.07	7.616	84.86	1.359	12.14	20.388	54.69	7.917	21.24	
Total	1.693.932	878.238	54.75	711.172	80.98	176.066	20.05	357.181	22.27	368.763	22.99	
5~9	364.032	189.471	52.05	146.134	77.13	52.337	27.62	6.616	1.82	167.945	46.13	
10~14	370.664	293.909	79.29	248.845	84.67	45.064	15.32	22.697	6.12	54.038	14.58	
15~19	363.801	231.600	63.66	186.429	80.50	45.171	19.50	83.056	22.83	49.145	13.51	
20~24	287.835	106.884	37.13	84.223	78.80	22.661	21.20	129.354	45.01	51.397	17.86	
25~29	217.600	56.374	25.91	45.541	80.78	10.833	19.22	115.258	52.97	45.968	21.13	
30~34	169.664	30.780	18.14	26.124	84.87	4.656	12.13	100.145	59.03	38.739	22.83	
35~39	138.864	20.612	14.84	18.410	89.32	2.202	10.68	82.529	59.43	35.723	25.73	
40~44	115.703	13.399	11.58	12.545	93.60	857	6.40	64.011	55.32	38.293	33.10	
45~49	95.945	10.062	10.49	9.556	94.97	506	5.02	50.634	52.77	35.249	36.74	
50~54	88.499	8.582	9.99	8.033	93.60	549	6.40	39.506	45.67	38.411	44.41	
55~59	54.727	4.125	7.54	3.767	91.32	358	8.68	23.241	42.47	27.361	50.00	
60~64	48.972	3.996	8.16	3.616	90.49	380	9.51	16.280	33.24	28.695	58.60	
65~	100.777	6.190	6.14	5.520	89.18	670	10.82	28.509	22.29	66.078	65.57	
Total	2.415.083	984.984	40.78	798.740	81.09	186.214	18.91	762.026	31.55	677.043	28.03	

出 所 : 表Ⅲ-1に同じ

表Ⅲ-5 5才以上の人口の学校への通学 男女合計 1981

	5才以上の人口の学校への通学										
	学校への通学										
	通学										
	TOTAL	TOTAL	TIPO DE ESCUELA				通学したことあり		通学せず		
PUBLICA			PRIVADA								
5	152,879	43,910	28.72	23,108	52.37	20,802	47.37	728	0.48	108,241	70.80
6	152,135	61,653	40.51	41,346	67.06	26,307	32.94	1,472	9.73	89,010	58.51
7	156,031	87,071	55.77	63,829	73.31	232,241	28.69	2,519	1.61	66,441	42.58
8	151,711	97,097	64.00	76,994	79.30	20,103	20.70	4,086	2.69	50,528	33.31
9	142,250	100,473	70.63	82,456	82.07	18,017	17.93	4,387	3.08	37,390	26.28
10	145,217	107,939	74.33	89,665	83.07	18,274	16.93	5,261	9.62	32,017	22.05
11	160,085	125,466	78.37	107,526	85.70	17,948	14.30	6,708	4.19	27,911	17.44
12	151,072	119,901	79.37	103,660	86.45	16,241	13.55	7,391	4.89	23,780	15.74
13	146,233	116,585	79.73	100,268	86.00	16,317	13.99	9,454	6.47	20,194	13.90
14	139,703	107,533	76.77	92,058	85.66	15,475	14.39	13,111	9.38	19,059	13.46
15	141,461	104,811	74.09	87,736	83.71	17,075	16.29	16,951	11.98	19,699	13.93
16	154,362	106,686	69.11	88,586	83.03	18,100	16.97	26,209	16.98	21,467	13.91
17	130,869	83,118	63.51	69,464	83.57	13,654	16.43	27,613	21.10	20,138	15.39
18	160,146	913,390	57.07	74,608	81.64	16,782	18.36	42,842	26.75	25,914	16.18
19	121,016	61,433	50.78	49,538	80.64	11,895	19.36	39,429	32.58	20,154	16.65
20	124,044	54,750	44.14	45,376	82.88	9,374	17.12	47,394	38.21	22,900	18.46
21	115,837	47,192	40.74	38,162	80.87	9,030	19.13	46,947	40.53	21,698	18.73
22	119,018	44,537	37.42	36,020	80.88	8,517	19.12	53,154	44.66	21,327	17.92
23	104,238	35,773	34.31	28,143	78.67	7,630	21.33	48,737	46.76	19,728	18.93
24	99,575	31,026	31.16	24,593	79.27	6,433	20.73	49,209	49.42	19,340	19.42
25	98,769	27,791	28.14	22,620	81.39	5,171	18.51	49,797	50.42	21,181	21.44
26	38,863	24,075	27.09	19,319	80.25	4,756	19.75	46,232	52.03	18,536	20.88
27	86,697	27,394	25.20	18,198	81.26	4,196	18.74	46,984	48.59	17,319	19.98
28	78,636	18,745	23.84	15,460	82.48	3,285	17.52	42,281	53.77	17,610	22.39
29	76,282	17,062	22.37	14,610	85.63	2,452	14.37	42,827	56.14	16,393	21.49
Total	3,198,129	1,738,411	54.36	1,413,343	81.30	325,068	18.69	681,723	21.32	777,995	24.33
5~9	755,006	990,204	51.68	287,733	73.74	102,471	26.26	13,192	1.74	351,610	46.57
10~14	742,310	577,424	77.79	493,177	85.41	84,247	14.59	41,925	5.65	122,961	16.56
15~19	707,854	447,438	63.21	369,932	82.68	77,506	17.32	153,044	21.62	107,372	15.17
20~24	563,712	213,278	37.83	172,294	80.78	40,984	19.21	245,441	43.54	104,993	18.63
25~29	429,247	110,067	25.64	90,207	81.96	19,860	18.04	228,121	53.14	91,059	21.21
30~34	340,631	60,976	17.90	52,752	86.51	8,224	13.49	203,211	59.66	76,444	22.14
35~39	274,489	40,861	14.89	37,080	90.75	3,781	9.25	163,970	59.74	69,658	25.38
40~44	235,365	29,160	12.39	27,300	93.62	1,860	6.38	135,404	57.53	70,301	30.08
45~49	195,157	22,068	11.31	20,982	95.08	1,086	4.92	108,668	55.68	64,421	33.01
50~54	182,535	18,792	10.30	17,711	94.25	1,081	5.75	39,583	49.08	74,160	40.83
55~59	115,600	9,969	8.62	9,220	92.49	749	7.51	52,313	45.25	53,318	46.12
60~64	103,830	7,369	7.13	7,187	91.33	682	8.67	38,395	37.46	57,066	54.96
65~	204,466	13,014	6.36	11,567	88.88	1,447	11.12	62,610	30.62	128,842	63.01
Total	4,850,202	1,941,120	40.02	1,597,142	82.28	343,378	17.72	1,536,377	31.58	1,372,705	28.30

出 所 : 表Ⅲ-1と同じ

凡 例 %

表Ⅲ-6 (5才以上の人口の学校への通学について)(両性)＜部分＞

5才以上の人口		学校への通学									
年令	合計	通学		Asiste		通学したことがある		通学したことがない			
		合計	学校の種類		私立	通学したことがある	通学したことがない				
			国立	私立							
5	152,879	43,910	28.72%	23,108	52.63%	20,802	47.37%	728	0.48%	10,284	70.80%
6	152,135	61,653	40.51%	41,346	67.06%	20,307	32.94%	1,472	9.73%	89,010	58.51%
7	156,036	61,635	55.77%	63,829	73.31%	23,241	26.69%	2,519	1.61%	66,441	42.58%
8	151,711	97,097	64.00%	76,994	79.30%	20,103	20.70%	4,086	2.69%	50,528	33.31%
9	142,250	100,473	74.33%	82,456	82.07%	18,017	17.93%	4,387	3.08%	37,390	26.28%
10	145,217	107,939	74.33%	89,665	83.07%	18,274	16.93%	5,261	9.62%	32,017	22.05%
11	160,085	125,466	78.37%	107,526	85.70%	17,940	14.30%	6,708	4.19%	27,911	17.44%
12	151,072	119,901	79.37%	103,660	86.45%	16,241	13.55%	7,391	4.89%	23,780	15.74%
13	146,233	116,585	79.73%	100,268	86.00%	16,317	13.99%	9,454	6.47%	20,194	13.90%
14	139,703	107,553	76.97%	92,058	85.60%	15,475	14.39%	13,111	9.38%	19,059	13.64%
1,497,316		967,628	64.74%	780,910	79.58%	186,718	20.43%	51,117	3.70%	474,571	31.57%

出所：Republica Dominicana en Cifras 1986; Secretariado Técnico de la Presidencia Oficina Nacional de Estadística; Santo Domingo. 1981

表Ⅲ-7 5才以上の人口が通学していることに関する教育を受けた程度を性別・年齢別にみたもの

性・年齢	学校へ通学している5才以上の人口					
	合計	幼稚園	小学校	中間高校	中学高校	高等教育機関
両性	1,941,120	95,491 (4.92%)	1,200,448 (61.84%)	260,834 (13.44%)	281,209 (14.49%)	103,138 (5.31%)
5	43,910	43,910				
6	61,653	27,048	34,605			
7	87,071	24,533	62,538			
8	97,097		97,097			
9	100,473		100,473			
10	107,939		107,939			
11	125,466		121,653	3,813		
12	119,901		109,197	10,704		
13	116,585		93,957	19,706	2,922	
14	107,533		74,271	24,995	8,267	
15	104,811		57,924	30,385	16,502	
16	106,686		47,416	30,592	28,422	256
17	83,118		28,864	23,175	29,964	1,115
18	91,390		26,875	22,290	38,421	3,806
19	61,433		15,928	12,394	27,527	5,584
20	54,750		13,581	10,127	22,988	8,054
21	47,192		11,898	7,574	18,945	8,775
22	44,537		11,418	7,255	15,835	10,030
23	35,773		9,362	5,545	10,544	10,322
24	31,026		8,051	4,640	9,433	8,902
25	27,791		8,450	3,948	7,498	7,904
26	24,075		7,739	3,731	5,909	6,696
27	22,394		7,560	3,929	5,332	5,573
28	18,745		7,436	3,179	3,958	4,172
29	17,062		7,243	2,390	3,858	3,571
30 y mas	202,7		128,975	30,46	24,894	18,378

出所：表Ⅲ-1と同じ

1,941,120名の人口(5才から30才までの学校へ通学している者)のうち、幼稚園(Pre-Escolar)に通っている者は7才までで、総数95,941名、全体の4.92%を占めている。小学校(Primaria)は総数1,200,448名、全体の61.84%である。ここへ中間学校(Intermedio)の数値を合わせると1,461,282名となり、全体の75.28%に達する。即ち、4人に3人はこのレベルの教育を受けていることが分かる。中学校(Secundario)へ通学している者は全体14.49%でその数は281,209名に達する。Secundarioは13才から在籍していることがこの表から分かる。高等教育(Superior)を受けている者は16才からで、総数103,138名、全体の5.31%になっている。16才からSuperiorの教育を受けるということは、この年齢層が日本の高等学校年齢であることを考える時、Superiorの教育に特別な意味があるように思われるし、全体の94.69%がSecundarioのレベルで教育を終了していることは、とても大きな意味を示しているように思われる。

このような事柄を基盤にして表Ⅲ-8を見ると、次のことが分かる。男女労働者がそれぞれ1,264,671名、519,486名いることがわかる。女子労働者の男子労働者に比べてその比率は41.08%、10対4の比率であることが理解できる。

労働分野をみると、最も多いものが特殊な才能の必要でない活動(Actividades No Bien Especificadas)であり総数が421,628名、24.11%になっている。即ち4人に1人は何ら特殊な能力を必要としない職業についている。次で、農、林、漁業関係労働者(Agricultura, Silvicultura, Caza y Pesca)でその総数は420,463名、23.56%、第3位が、誰にも可能な、また社会的な、私的なサービス業関係者で(Servicios comunales, sociales y personales)で総数363,125名、20.03%になっている。この3種類の労働者の総数は1,205,216名、67.70%に達する。次で製造業労働者(Industrias Manufactureras)が224,437名、12.57%存在していることを考える時、合計の80.27%の労働者が、常識的に高度の学問的素養が不要であるといわれる労働に従事していることが、表Ⅲ-6、Ⅲ-7などとともに浮かびあがってくる。この中に指導者層が含まれていることは考えられても、農夫として労働に従事している者が学問や知識に無縁の生活を送りがちであることは、Zona Ruralの農林漁業従事者数の合計が350,623名で、全労働者数の44.63%を占め、次で特殊な能力を必要としない労働従事者数の223,649名、28.58%を加えるとそれだけで73.21%になってしまうことから推測されよう。農業人口は都会では少ないものの農業はこの国の基幹産業であることが理解でき、同時に農夫への教育、特に中年以降の人口の教育の必要性が叫ばれても当然という推定が成立する。

表Ⅲ-9はとにかく学校へ通った人口も含めて、学校のレベルでどこまで達したかを表わしたものである。正確性に疑問は残るが、Primaria, Secundaria, Universidadの3種のレベルに直して表わしてみると、凡その傾向がわかる。即ち、前表の上位4位までの人口層が所属するとみられるのは、合計欄の数値Primariaの示す79.45%によってあらわされている。しかも男性が80.51%、女性が78.45%であることや、学校へ行ったことがある(Asisto)欄の数値はその90%以上がPrimariaだけで終わっている。このことから、たとえ1981年度であっても基幹産業に従事している人口の教育程度が判明する。将来性があるという見方は表Ⅲ-1から表Ⅲ-6までに示されているPrimariaレベルの通学率の高さであろう。

一方、大学まで進む者は5才以上の全人口の約5%であり、この数値から大学生になりそ

表Ⅲ-8 地域別・性別にみた10才以上の産業活動の内容 (1981)

活動分野	10才以上の人口の産業活動状況				10才以上の人口の産業界活動状況				
	全 国		都 市		農 村		農 村		
	合 計	男	女	合 計	男	女	合 計	男	女
合 計	1,784,157	1,264,671	519,486	998,534	647,463	351,071	785,623	617,208	168,415
農・林・狩魚	420,463	378,274	42,189	70,144	62,363	7,781	350,319	315,911	34,408
鉱 業	4,743	4,304	439	3,156	2,946	210	1,587	1,358	229
産業・製造	224,437	166,748	57,689	158,055	110,853	47,202	66,382	55,895	10,487
電機・水道・ガス	13,891	12,090	1,801	11,724	9,981	1,743	2,167	2,109	58
建 設	80,850	77,880	2,970	61,570	58,883	2,687	19,280	18,997	283
レストラン・ホテル等商業	192,181	131,643	60,547	154,716	104,848	49,868	37,465	26,786	10,679
交通・運輸	40,470	36,577	3,893	32,767	29,182	3,585	7,703	7,395	308
不動産・賃貸業	22,369	14,944	7,425	20,811	13,600	7,211	1,558	1,344	214
サービス業	363,125	157,398	205,727	287,612	125,327	162,285	75,513	32,071	43,442
特定できない活動分野	421,628	284,822	136,806	197,979	129,480	68,499	223,649	155,342	68,307

出 所 : Republica Dominicana en Cifras 1986 ; Secretariado Tecnico de la Presidencia Oficina Nacional de Estadistica ; Sant Domingo

表三-9 学校へ通学しない通学している5才以上の人口(1981)

水準	性別				地域				
	合計		通学している		合計		通学をしたことがある		
	男性	女性	男性	女性	合計	男性	女性		
小学校	1,922,875	946,599	976,276	1,553,410	992,576	1,071,093	1,270,552	887,653	773,827
%	79.45	80.51	78.45	74.10	74.56	75.69	91.98	93.04	92.72
中学校	388,611	174,959	213,672	397,233	231,334	259,281	97,877	57,243	53,751
%	16.59	14.88	17.17	18.95	17.38	18.32	7.09	6.00	6.44
大学	108,648	54,187	54,461	145,510	107,326	84,647	12,915	9,217	7,021
%	4.49	4.61	4.38	6.94	8.06	5.98	0.93	0.97	0.84
合計	2,420,134	1,175,725	1,244,409	2,096,135	1,331,236	1,415,021	1,381,344	954,013	834,590
%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

出所： Republica Dominicana en Cifras 1986; Secretariado Técnico de la Presidencia Oficina Nacional de Estadística; Santo Domingo.

表Ⅲ-10 学校形態と程度による児童生徒在籍数

Total	就学前	小学校	中学校	成人学校	師範学校	技術学園学校
合計	<u>1,357,605</u>	<u>46,377</u>	<u>1,055,501</u>	<u>191,914</u>	<u>59,705</u>	<u>7,593</u>
(男)	711,263	46,377	437,657	173,898	49,223	3,602
(女)	646,342	-	617,844	18,016	10,482	-
Porcentajes por Zona						
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(男)	52.4	100.0	41.5	90.6	82.4	100.0
(女)	47.6	-	58.5	9.4	17.6	-

* Cifras Preliminares.
a/ Corresponden al año 1985-86

出所：ドミニカ共和国教育省資料

れを終える者はこの国ではエリートであることがわかる。この傾向は女子に著しい。

(2) 学 制 改 革 後

1986年に学制が改革された。これによって若干教育現場に様変りが生じている。教育・芸術・宗教省 (Republica Dominicana Secretaria de Estado de Educacion, Bellas Artes y Cultos) のミゲル氏 (Lic. A. M. Miguel) からの聞き取り調査、並びに同氏から入手できた諸資料によって具体像を画いてみることにする。

全国に小学校 (Escuela Primaria) が約 5,600校、高等学校 (Escuela Secunoaria, または (Colegio) が約 400校ある。制度改革前の Primaria, Secunoaria, の呼稱と改革後の呼稱には相違が認められる。

表Ⅲ-12によると, Primaria に通学している児童は都市部 (Urbana) が 437,657名, 農村部 (Rural) が 617,844名で合計 1,055,501名である。その百分比では前者が41.46%, 後者が 58.54%であり, 児童は, どちらかと言えばRural に多く通学している。

しかし, この現象は全国を9ブロックにわけてみると違ってくる。Urbana が多いのはサンファン (San Juan) とサント・ドミンゴ (Santo Doming) が多く, あとの7地域は児童数はRural が多い。けれど, 児童の実数を比率に直すと, Urbanaの方では Santo Doming が全体の 38.72%と群を抜いて多く, 次のサンチアゴ (Santiago) の 12.20%を遥かに離している。その他の地方には10%に達した地域はなく, サン・ペドロ・デ・マコリス (San Pedro de Macoris) が9.91%, ラ・ベガ (La Vega) の9.65%が続くのみで, その数値も低い。Rural 眼を転じると, 実数で多い順に Santo Doming (113,827), La Vega (104,622), Santiago (92,037), それに San Francisco de Macoris (89,136) と続く。ドミニカ共和国の地勢図では主要な山脈が2本北西から南東にかけて走っており, (図1-2 参照), その間にある平野に南東から順に Santo Doming, La Vega, Santiagoと並び, La Vegaの北東に San Francisco de Macoris があることを考えるとき, 人口もこれらの地域に集中している為と考えることができる。全体的にみると, これら4地域の合計が実数で 669,823名, 百分比で 66.30%即ち3分の2の児童がこれらの地域にいたることがわかる。そこへ, Santo Doming の東にある San Pedro de Macorisを加えるとドミニカ共和国の児童の70%以上が地勢に沿って, しかも東の方へかけて生活を営んでいることが理解できよう。

仮に, 全国に約5,600あるPrimariaの70%がこの地域にあるとすれば, 約4,000が計えられよう。また5地域の児童総数が 763,527名であることから, 1校あたり 190名程の児童が通学していると考えることが可能である。勿論これは児童がその地域学区に均等に分布して生活しており, 学校の規模も同程度と考えての上である。表Ⅲ-10では教育機関と対比も考えて, これらの合計数と百分比がしめされている。

国立 (Publica) の他に私立 (Privada) の児童がいることが表 III-11 でしめされている。

図 III-1 MAPA de REPUBLICA DOMINICANA

ドミニカ共和国の地図

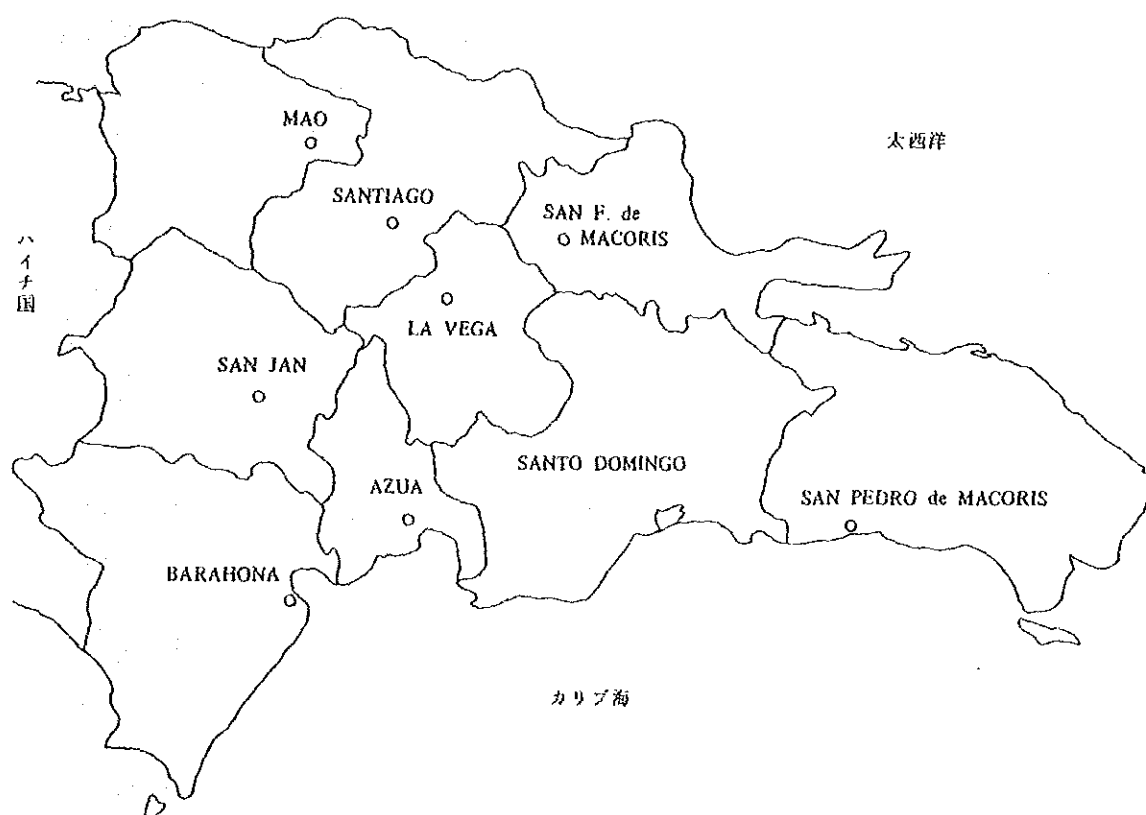


表 III-11 学校形態と程度による児童生徒在籍数

Total	就学前	小学校	中学校	成人学校	師範学校	技術専門学校
1,768,835	125,780	1,296,376	262,226	59,705	3,602	21,156
(国立) 1,364,682	46,377	1,055,501	191,914	59,705	3,602	7,593
(私立) 404,153	79,403	240,875	70,312	-	-	13,563

出所：ドミニカ共和国教育省

センター毎の百分比

Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(国立)	77.2	36.9	81.4	73.2	100.0	100.0	35.9
(私立)	22.8	63.1	18.6	26.8	-	-	64.1

出 所 : ドミニカ共和国教育省

表-12 Number of School-children in Dominican Republic, 1986-87

District	小 学 校			中 学 校		
	都	郡	合 計	都	郡	合 計
Bsrahona	32,152	29,223	61,375	8,074	289	8,363
	% 3.35	4.73	5.81	5.66	1.61	5.20
San Juan	17,915	52,951	70,866	4,864	533	5,397
	% 4.90	8.57	6.71	3.41	2.97	3.35
Azua	22,370	40,717	63,087	6,470	748	7,218
	% 6.43	6.59	5.98	4.53	4.16	4.48
Sant Domingo	169,466	113,827	283,293	59,069	2,560	61,629
	% 38.72	18.42	26.84	41.55	14.24	33.29
San Pedro de Macoris	43,358	49,746	93,704	11,954	364	12,318
	% 9.91	8.05	8.88	8.38	2.02	7.65
La Vega	42,251	104,622	146,873	16,428	6,058	22,486
	% 9.65	16.93	13.92	11.51	33.70	13.97
San Francisco de Macoris	35,070	89,136	124,206	11,534	1,896	13,430
	% 8.01	14.42	11.77	8.08	4.98	8.34
Santiago	53,412	92,037	145,449	16,529	3,058	19,587
	% 12.20	14.91	13.78	11.58	17.01	12.17
Mao	21,063	45,585	66,648	7,792	2,460	10,262
	% 4.81	7.38	6.31	5.46	13.68	6.38
Total	437,657	617,844	1,055,501	142,714	17,966	160,680
	% 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出 所 : ドミニカ共和国教育省

それによると 240,875名の児童が通学しており、合計では 1,296,376名、約 130万人に達している。また、私学への通学生は全体の18.6%である。

表Ⅲ-10, 11, 12にみるSecundaria在籍生徒数は160,680 と191,914 という数値上の相違が認められる。ここでは一応 191,914名を基準として採用し、160,680の方は傾向をみるために使用することにする。

Primariaと同様に、Secundariaも1学校年度が2期から構成されている。前期は9月から12月、後期は2月から6月までの期間で、それぞれ16週間の授業を行なうことになっている。

Secundariaの生徒在籍傾向はPrimariaの傾向と同じである。やはり北西から東南へのびる平野に多数の生徒があり、学校がある。Miguel氏の談では全国に400校程ある由であるから、1校あたりの生徒数は約470名程になる。Secundariaは4ヶ年であるから、1学年平均120名程度になろう。

表Ⅲ-13 小学校における学年毎の進級・落第・退学の指数 1986-87

Indice	Total	1	2	3	4	5	6
退学	9.6	13.1	9.1	8.4	8.1	7.3	6.8
進学	65.3	—	53.8	79.3	83.5	83.0	82.3
原級	18.5	31.6	16.9	13.8	11.8	10.9	9.4

Se refiere a la desercion que se dio principio a fin del ano letivo 1986-87

出 所 : ドミニカ共和国教育省

表Ⅲ-2, 3, 4, 5も示されているように、Primariaすら通えずあるいは途中で学業を放棄せざるを得ない人口があることが分かる。それは表Ⅲ-13においても認められる。このような人口に対して試されている教育手段が表Ⅲ-10, 11にある成人学校(Escuela Adultos)である。Escuela Adultosは全国で何校設置されているか不明であるが、そこで学ぶ成人は市部で49,223名、郡部で10,482名あり、合計59,705名である。成人学校は全て国立であり、私立のものはない。

一方同じ表から、師範学校(Escuela Normal)に学ぶ生徒が3,602名いることが理解される。Escuela Normalは市部のみ存在し、全て国立である。

同様に技術専門学校(Escuela Tecnico, Profesional)に通っている生徒がいる。これも校数は不明であるが通学生は国立校が7,593名、私立校が13,563名を教育している。そして、国立校は全校市部にだけ存在している。

1538年に創立されたサント・ドミンゴ自治大学(Universidad Autonoma de Santo Domingo = UASD)が唯一の国立大学であり、その他に私立大学がSanto Domingoに12, Santiago, La Vega, San Francisco de Macoris,そしてSan Pedro de Macorisにそれぞれ1校ずつの計17校がある。

これらの大学へ入学するためには予備コース(Preparatorio Curso)へ入らなければなら

い。このCursoはSecundariaでの4年間の学習の総復習を行なうもので、在籍期間は1年間、取得必要単位は27単位である。この要求を充足しないとUASDへは入学できない。私立大学は一応入学させるといふ形をとり、1年間に27単位をとらせるように指導し、この間に3回試験を行ない篩にかける。しかも、エンリケ・ウレーニャ大学(Universidad Pedro Henríquez Ureña = UNPHU)ではこのcursoへ入るために数学とスペイン語の適性テストを行なっている。また、その他の私立大学も大同小異である。

Primariaについては定かではないが、Secundaria以上のEsuelaでは学習教科目は全て必修で、選択科目はない。1科目でも失敗すれば、それを取得する年月だけ進級、卒業が遅れる(同じ科目が同一年度の前後期に2度配当されることはない)。成績は最低は70Markであり、それ以下は単位が貰えない。

Secundariaと同様に大学でも1年が2期制であり、それぞれ16週間から構成されている。医学部を除き他の学部は4年間在籍し、卒業要件を満たすと資格を得て卒業する。また、授業料は単位ごとに決定され、徴収される。

1987年8月現在、農学部に関する限り大学院はない。この資格は国外留学によって獲得されている。

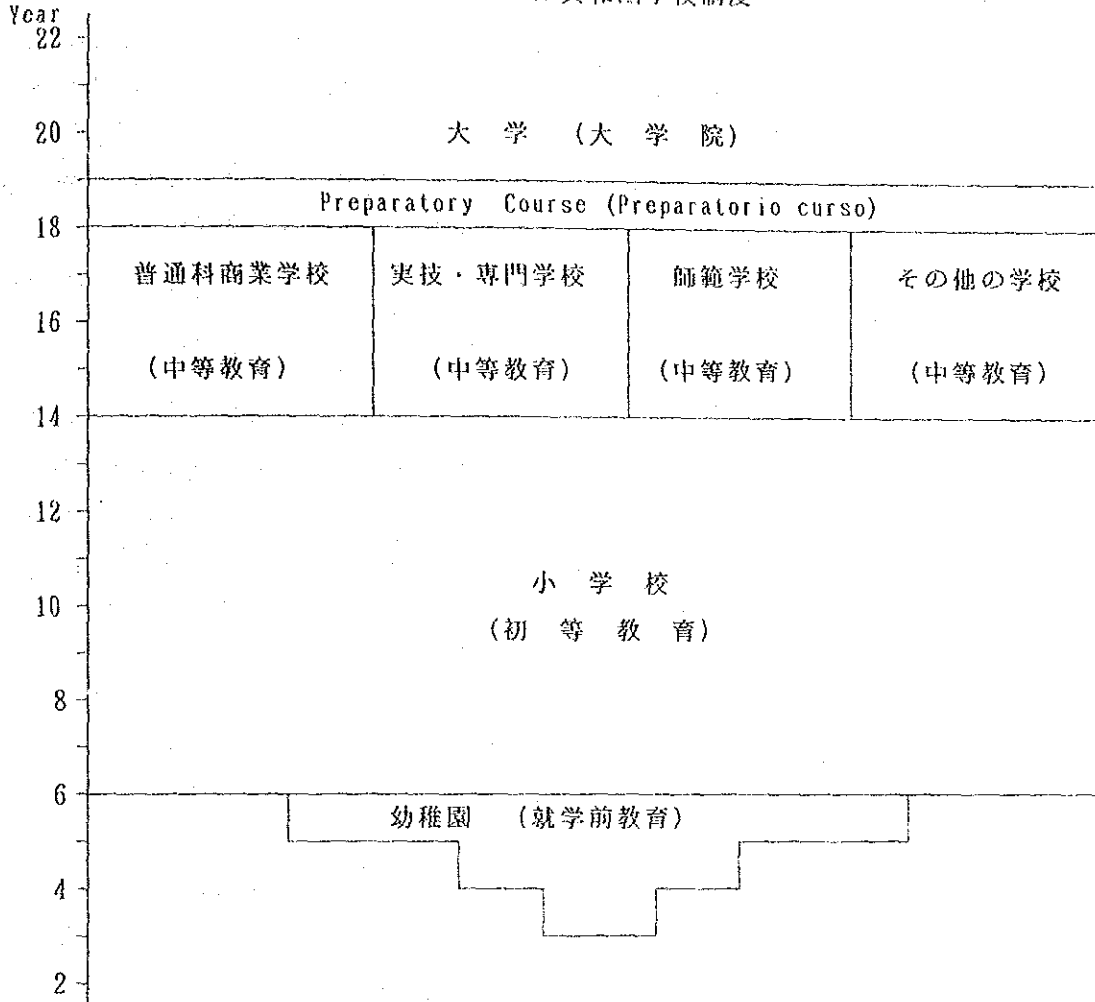
2. 教 育 制 度

教育制度は図Ⅲ-2に示すような形に1986年改革された。その理由は添付資料1のように、工業、農牧、漁業面における中級技術者の教育、育成にある。ここへ焦点を合わせた理由は、ドミニカ共和国の社会経済を発展させることにある。

改革以前は、Primaria6年、Intermedio2年、Secundaria4年であったが、Intermedioの2年がPrimariaへ吸収されて8年となり、これが義務教育期間になっている。その上に普通課程(General)、師範課程(Normal)、工業、農牧、漁業などが含まれる。その他(Otro)がある。これらは全て在学期間が4年である。これらの課程を終了した者たちは、全て分け隔てなく予備コース(Preparatorio curso)へ進める。その上にあるのが大学(Universidad)であり、履修期間は4年間になっている。農業の場合、1987年8月現在大学院はない。

図Ⅲ-2

ドミニカ共和国学校制度



幼稚園 (Pre-Escuela)は、国立と私立とがある。国立の場合は全てが在園期間が1年間である。私立の場合は数年に及ぶ。

3. 学 校 教 育

(1) 就 学 前 教 育 (Pre-Escolar)

全国に何園あるかは不明であるが、国立の幼稚園へ通園している児童は表Ⅲ-10によると46,377名あり、全て市部になっている。また、表Ⅲ-11では、私立の幼稚園もあることが分かり、通園児は79,403名で、その比率は36.9%と高い。Primariaとの比較で考えると、国立の場合僅か4.39%、私立の場合32.96%、平均して僅か9.70%に留まるのみである。

表Ⅲ-14によると、国立の幼稚園には全国で1,187名の教師がいることがわかる。このうちの409名(34.46%)は資格(Formal)があるが、778名(65.54%)はそうでない。幼稚園は国立の場合全て市部にあるから、総数の2/3の教師が有資格者でない。特に、Barahona, San Juan, Azna, Maoの西部各市にその傾向が顕著である。

(2) 初 等 教 育 (Primaria Escolar)

全国に 5,600ある国立のEscuela Primariaのうち、市部の Escuela Primaria へ通学している児童は 437,657名、郡部のE. Primariaへ進学している児童は617,844名いる。合計1055,501名の児童の他に、私立へ通学している児童が 240,875名いるから、合計で1,296,376名が通学していることがわかる。

国立のみであるが、市部に教員が 9,189名いることが表Ⅲ-14で分かる。教師ひとりあたりの受持童数は、学校の規模、通学地頭数が均等化されていると考えた時、教師ひとり当たり約48名の児童数になる。郡部では教師が12,591名いるから、教師ひとり当たり約49人の児童数になる。

一方、表Ⅲ-13から、小学校1年生から2年生へ進級する児童は1年生全体の53.8%で、落第する者が30.1%、退学する者が13.1%である。更に2年生から3年生へ、4年へと進級する者、落第する者、退学する者が相つぎ、6年生から上へ進む者が6年生全体の82.3%になっていることが分かる。ただ、表Ⅲ-13の数値を順に積算していくと、1年生に入学した者を仮に100とすると、その24.33%の者が6年生を終える勘定になる。前述のMiguel, A. M. 氏の言ではPrimariaからSecundariaへ進学する者は全体の20-25%程度である由なので、E. Primariaの児童数は凡そ130万人であるから、このうちの約31万6,200人程がE. Secundariaへと進むことがわかる。

(Incorporación de Escuelas Primarias y Medias al Programa Nacional de Huertos Escolares)

Miguel氏によると上記のProject が1987年9月から1990年9月つでの3年間にわたり、全国約5,600校の小学校を対象に逐次実施されることが決定しており、そのために、4,335,778ペソが予算化されている。

① このProject の目的

小学校児童並びにその親のグループを対象に、彼らの子弟が通学しているEscuela Primariaに農業技術員(Agronomia Tecnico)を派遣して、農産物の実地や理論の指導を行なわせ、父兄や子どもなどに農業の喜びを体得させるとともに、地方の教育問題(小学校課程を終えられなかった者がそのまま都市へ流入し、定職を持たずに生活している有様から、それら青少年の都市流入を何とか食い止めようという心積り)の解決を計ろうというものである。

② このProject の方法

初年度は全体の約45%にあたる250校を選択し学校菜園を作る。1校あたり10名程度の親グループを作る。そこへAgronomia Tecnicoを派遣し、親や教師に農業の理論、実践を指導する。

Agronomia Tecnico 1人につき、30~40校を配当する。Agronomia Tecnicoは、その半数が大学農学部卒、残りの半分は実際経験で学歴不足を補っている。要は農民や教師に農業指導が可能なことである。Tecnicoは教師ではない。このProjectの実施に際し、学校側と連絡をとり、学校暦の中にこの為の時間を割いて貰い、その実現に力を払うのである。

③ 親がグループメンバーになるための条件

Tecnicoが巡回指導するのであるから農業面での理論、技術はさほど高度なものを持っていくともよい。自分の土地があり、資力があることが条件である。

表Ⅲ-14 *学校課程別の教員数 " AÑO ESCOLAR 1986-87 "

DIRECCION REGIONAL	就学前高校の教員 有資格		小学校の教員 (無資格)		中学校教員	
	有資格	(無資格)	都	市	都	市
BARAHONA	15	265	686	569	453	23
SAN JUAN	12	220	438	862	341	22
AZUA	13	130	441	738	372	40
SANTO DOMINGO	171	13	3,792	1,951	1,946	92
SAN PEDRO DE MACORIS	22	14	713	1,072	631	28
LA VEGA	63	-	689	2,422	576	219
SAN FRANCISCO DE MACORIS	17	-	709	2,024	428	74
SANTIAGO	47	-	1,198	1,921	668	135
MAO	49	136	523	1,032	353	116
TOTALES	409	778	9,187	12,591	6,068	749

* Tasa de nuevo ingreso para el año escolar 1986-87 = 19.85%

* Tasa de repitencia para el año escolar 1985-86 = 18.5 %

出所：ドミニカ共和国教育省

④ 予測される効果

学校菜園は収益が目的ではない。収益は学校財政を潤すが、それよりもこのProjectによって子どもたちが勤労の尊さを実感し、額に汗して働くことへの喜びを身につけさせることである。

以上のようにドミニカ共和国は農業国であることの自覚を小学校段階から児童に農産物を観察し、実践することによって勤労への喜びを得さしめようと努めている。

このようなProjectの是非はともかく、Projectが学校教育課程の中に入り込めること自体、小学校教育が固定化された課程にのっとって為されていない証しである。

(3) 中等教育

国立中等教育施設で学ぶ生徒は、1986-87では総数が191,914名で市部に173,898名、郡部に18,016名いることがわかる。また、私学へ通学している生徒が70,312名いるので、合計262,226名が中等教育を受けている。一方、教師数をみると、市部に6,068名、郡部に749名、合計6,817名の教員が数えられる。ドミニカ共和国の中等教育機関は既述のように約400校を数えるから、1校あたり17人程の教師がいることになる。一方児童数との対比をすると、教師1人あたり、児童は28.2名を教育している現状であることがわかる。私学の場合は教師数が不明であり、学校数もよく分からないので、大体同傾向にあるものと考えたい。

4. 参考資料・参考文献

(1) 参考資料

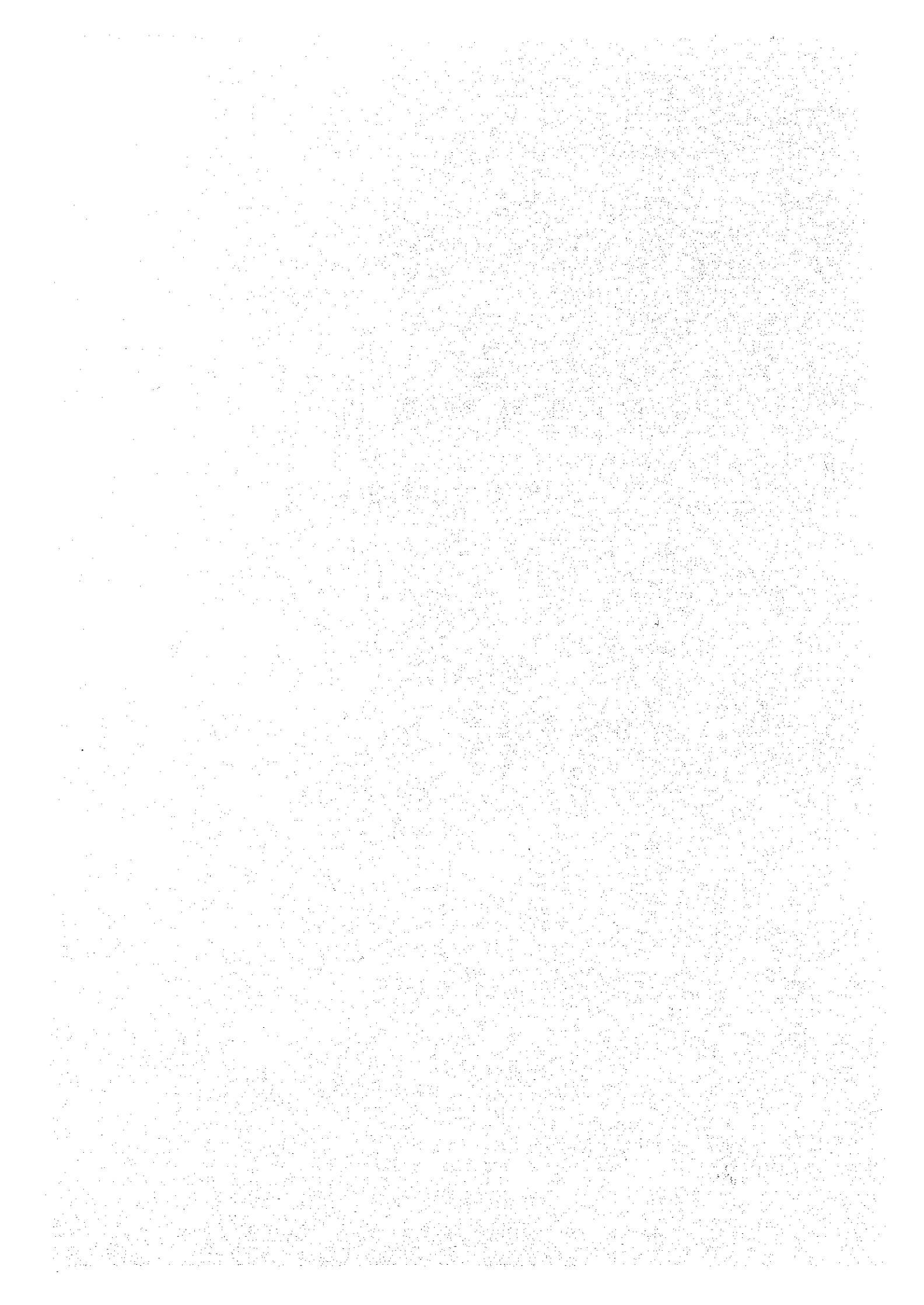
- ① Republica Dominicana en Cifras 1986 ; Secretariado Tecnico de la Presidencia Oficina Nacional de Estadistica ; Santo Domingo , R. D.
- ② Republica Dominicana Secretariado de Estado de Educacion, Bellas Artes y Cultos; Año de la Superacion Nacional ; 1987.
- ③ Republica Dominicana Secretaria de Estado de Educacion, Bellas Artes y Cultos; Ordenza Nol-87.
- ④ Republica Dominicana Secretaria de Estado de Educacion, Bellas Artes y Cultos; Ordenza Nol-84.
- ⑤ Republica Dominicana Secretaria de Estado de Educacion, Bellas Artes y Cultos Estadistica Escuela.
- ⑥ ドミニカ移住15年史, 1972, ドミニカ移住史編集委員会
- ⑦ カリブの島の拓人たち, ドミニカ移住25周年史, 1981, ドミニカ日本人連合会

(2) 参考文献

- ① ドミニカ共和国見たままの姿, 1986, 国際協力事業団ドミニカ共和国事務所
- ② ドミニカ共和国におけるJICAの事業実績, 1985, 国際協力事業団ドミニカ共和国事務所
- ③ ドミニカ共和国事情と事業実績, 1986, 国際協力事業団ドミニカ共和国事務所
- ④ ドミニカ共和国任国情報, 1987, 国際協力事業団
- ⑤ 高橋幸春, 1987, カリブ海の楽園, 潮出版社

IV. 農 林 業 教 育

岸田 博



IV. 農林業教育

約5,600あるPrimaria Escuelaに政府が行ないつゝあるProjectは、ドミニカ共和国が農業国であることを示すものである。中等教育において、この傾向は表IV-1によると、次のようになっていることがわかる。

1. 中等教育 (Secundaria Escolor)

(1) サレシアナ農業高等学校 (Instituto Agronomicos Salesiana = IAS)

IAS は1984年の法令 I' 84でそれまでのLa Escuela Agricola Salesiana から、I, A, S へと変った。同校は1925年にアイナ (Haina)に創設された。以後1938年にモカ (Moca) に移転し、現在のラベガ (La Vega) へ移転したのは1968年である。以来この地に於て農業教育並びに普及活動を行っている。

表IV-1 農業科パッチェラー、農業科ベリトのための教育課程

	SEMESTRES							
	1	2	3	4	5	6	7	8
A. 人間性セクション								
1. スペイン語 I	X							
2. スペイン語 II		X						
3. 文学理論とスペイン文学			X					
4. ドミニカの文学と歴史				X				
5. 英語 I	X							
6. 英語 II		X						
7. 社会 I (文化史)	X							
8. 社会 II (ドミニカ地理)		X						
9. 社会 III (ドミニカ史)			X					
10. 一般・農村社会学								X
B. 数学科学セクション								
11. 数学 I (代数)	X							
12. 数学 II (代数)		X						
13. 数学 III 平面幾何			X					
14. 数学 IV 立体幾何				X				
15. 数学 V 三角函数					X			
16. 農業数学								X
20. 物理 I					X			
21. 生物 I	X							
22. 生物 II		X						
23. 植物学		X						

1) IAS の教育施設

IAS は敷地を120 ヘクタール所有している。そのうち、建物に10ヘクタール、農地に35ヘクタール使用し、75ヘクタールを牧草地としている。

a. 建物

主に校舎である。校舎はコンクリート製で6棟である。内訳は、

A棟：管理棟

B棟：研究教育棟（教室、AV室、農芸化学、自然科学、昆虫学および植物病理学の研究室）

C棟：研究、生活棟（物理化学研究室、図書館、学生寮、カフェテリア）

D棟：宗教棟（教会、宗教奉仕室）

E棟：生活棟（食堂、倉庫）

F棟：教育棟（講堂）

その他、農業機械収納室、搾乳所、養鶏所、養豚所、農器具庫などがある。

b. 設備

b. - 1 学校部門の設備

① 図書館

30メートル×12メートル（36m²）の部屋で、司書を置いている。蔵書数6078冊、定期刊行物125種類である。IASは学校内に印刷所を有し、生徒が使用するテキストは全てここで作っている。

② 視聴覚室

50人収容可能な部屋、IASの農業教育に必要な設備をそなえている。

③ 講堂

300人収容可能、舞台、スクリーンおよび35ミリ映写機を有する。

④ 自然科学研究室

生物学、解剖学、動物学、植物学、遺伝学などの研究室並び階段教室

⑤ 昆虫学、植物病理学、農芸化学、物理化学研究室、

それぞれに必要な設備を有する研究室で、生徒の授業や実習指導なども考えて作られている。

b. - 2 農業部門の設備

① 農業機械

開墾機、播種機、耕運機、コンプレッサーなどの農業実習に必要な機械類。

② 養蜂用

養蜂、蜜と蜜臘製造のための設備

③ 家畜、家禽

豚舎、牛舎、鶏舎、兎舎

④ 苗床、温室、

観賞用植物、果実植物用の苗床、温室

⑤ デモンストレーション、実験圃場

生徒が獲得した知識を身につけるための小規模農地。

⑥ 野菜畑，果樹園

野菜の播種，花壇作成，レモン栽培，などに利用される農地

⑦ 農業気象

自記熱・水位計，自記雨量計，露量計，蒸気計，地熱計，自記気圧計など。

2) IAS の教育目的

本校はキリスト教による教育を施す。故に，

- a. 農業技師(Perito Agronomo) の育成
- b. 学生の人格的，キリスト教徒的教育
- c. 他者への奉仕の教育

らがそれである。この3つの目的は下位概念を有し，夫々4ないし5項が述べられている。

- a - 1 農村および農村地帯労働者への知識を豊かにし，理解を深化する教育
- 2 農業機械器具，農薬，圃場などで農業を具体的に教育する。
- 3 高等学校の間に基本事項を徹底的に教育する。
- 4 図書館を利用し，一般，専門の教養を深化させる。
- 5 卒業学年には農業実習，他学年には野外実習を義務として課す。
- b - 1 環境条件を克服し，教育により「教育協同体」を強化する。
- 2 時間割の中に「宗教」を含ませ，サーレス会教育を施す。
- 3 サーレス会の精神を身につける
- 4 青年期における友情の醸成。
- 5 生徒の資質を発見し，伸展させうるような教育環境の創造
- c - 1 勤労の素晴らしさの創造
- 2 勤労，奉仕の魅力の確立
- 3 他者奉仕が容易に可能な生徒の内面の資質を育成する。
- 4 奉仕と責任の体現

がそれである。

3) IAS の教員

キリスト教による教育活動を行っているので，教員は各自の専門分野の知識技術の他に神父であることが必要である。そのためにサーレス会の本部（ローマ）でイタリアについての学習（養成の前半），派遣国の状況についての学習（養成の後期）を行なう。採用，昇格などの全ては本部の指令によっている。

4) IAS の経営

前記の教育目的を達成するために，法令1'87の規定にもとずきカリキュラムを作成している。週35時間の配当で18週継続することか法令で決定されているものに沿って作成されていることが分る。

これらのカリキュラムの他に以下の活動をカリキュラムの中に組み込んで実施している。

a. 技術訪問

学校における学習を補うために各コースの生徒は農業センターへ技術訪問を行う。

b. 講演

営外、学内の専門家によって農学をテーマに講演会、発表会を開催し、生徒の文化的専門的知識を豊かにする。

c. 地域への奉仕

農業クラブ、農協、農業普及、土壌分析、獣医、その他の奉仕を行う。

d. 校内スポーツ大会

校内のスポーツ施設を利用し、各種球技の大会を開催する。

表IV-2 サレンアナ農業高等学校教育課程10

PLAN DE ESTUDIOS :

1 学年生

第 1 学 期	時間/週	第 2 学 期	時間/週
神学 I	3	神学 II	3
スペイン語 I	4	スペイン語 II	4
英語 I	2	英語 II	2
代数 I	5	代数 II	5
農学 I	3	農学 II	3
ドミニカ史	3	ドミニカ地理	3
生物概論	3	動物学	2
人体解剖学	2	植物学	3
技術実習 I	10	技術実習	10
TOTAL	35	TOTAL	35

2 学年生

第 3 学 期	時間/週	第 4 学 期	時間/週
神学 I	3	神学	3
スペイン語	3	スペイン語	3
文化理論		スペイン文学	
幾可 I	3	幾可 II	3
物理 I	3	物理 II	3
植物 I	2	植物 II	4
気象学	3	遺伝学	3
動物 I	3	動物	3
英語 III	2	英語 IV	2
花卉園芸	3		
技術実習 III	10	技術実習	10
TOTAL	35	TOTAL	35

3 学年生

第 5 学期	時間/週	第 6 学期	時間/週
神学 V	3	神学	3
スペイン語	3	スペイン語	3
ドミニカ文学		ヒスパニオラ島文学	
農業数学 I	3	農業数学	3
三角函数 I	2	三角函数 II	2
無機化学	4	有機化学	4
植物 III	3	植物 IV	3
病虫害 I	3	病虫害 II	3
簿記 I	4	簿記 II	2
技術実習	10	農村経済	2
		技術実習	10
TOTAL	35	TOTAL	35

第 4 学年生

第 7 学期	時間/週	第 8 学期	時間/週
神学 VII	2	神学 VIII	2
社会学 I	1	社会学 II	1
測量学 I	4	測量学 II	4
製図技術		製図技術	
農業化学 I	3	農業化学	3
植物 V	2	技術学	3
農学 I	2	農学 II	2
畜産	3	畜産 II	3
農業機械	3	食品学	2
植物病理	3	植物病理学 II	3
農業普及	2	農業普及	2
技術実習 VII	10	技術実習	10
TOTAL	35	TOTAL	35

出所：Escuela Agrícola Salesiana, La, Vega, R. D. 1982

e. 父兄との連絡

毎月父兄とその子弟との会合を開催し、子弟の状況を把握してもらう。

f. 宗教活動計画

本校の特質として生徒の道徳的、社会的、宗教的教育を実施する。礼拝、神学の講義などがある。

g. レクリエーション活動

休憩時間に、カフェテリア、遊戯室、TV観賞ができる。毎週校内で長編映画を上映する。

5) 学校暦

法令1'84で認められているようにIASは4年間、8学期の在学期間をもつ高等学校である。学校年は9月1日から翌年の6月15日までである。それは前期と後期とに分れる。

前期 9月1日より12月31日まで、

後期 2月5日より6月15日まで、

であり、各期は18週より構成されている。

卒業式は例年8月に挙行されている。

(学科目)

各学期は夫々独立したものになっている。次の学期に進級するためには当該学期の教科目を全て合格していなければならない。つまり、教科目は全て必修科目になっており、選択科目はない。

6) 入学・進級・卒業条件

a. 入学条件

Primariaを卒業していること、または認可改革第3コース (Der curso de la Reforma-aprobado) を終えている者が受験資格を持つ。それらの者に対し、①入学試験②身体検査を行ない、入学者を決定する。

b. 進級条件、卒業

前述の教科目を履習し、全ての教科目に70点以上の評価を得ること、評価基準は国の法令第1'87号にもとづいて実施される。

6学期 (Semestre 6) を70点以上の評価で終えた者には、7期から実習が始まる。これは、農業普及 (Extensión Agrícola) と技術実習 (Trabajo Técnico) である。7学期も8学期もこの両科目のために合計週12時間を割いている。この実習は卒業試験に替るもので、この実習が成功裡に終了した者にはMadurez という賞が与えられる。

具体的には、1年生の入学定員は90名である。1年生の2つのSemestreの時は、90名を45名ずつのA、B、クラスにして教育を行なう。

2年生になると、これらの生徒は半数になってしまう。それは、全科目必修、合格点70点が大いに関係している。3年生 (Semestre 6) から4年生 (Semestre 7) への間の2ヶ月間に実習時間が与えられる。この実習に失敗した者には再度Trial の機会が与えられる。勿論実習の試験がある。

これらの全てに合格した生徒には、8月に挙行される卒業式時には、Perito Agronomoの称号が与えられる。

このように厳しい学習条件があるので、入学時は90人の生徒も卒業時には、24人位になるのが普通である。

農業普及実習は次の要領で実施される。即ち、Santa Maria 放送局を通じ、全国の農村と連絡をとり乍ら、全国で普及活動の実習を行なう。そのため、教師はあらかじめ当該生徒に普及実習で農民に伝えるProgram を教授しておき、それを実習生が農民に伝達するという形をとる。

7) 卒業後の進路

Ingeniero Agronomoの称号を獲得するために大学へ進学する者20%、政府機関へ就職する者、ほぼ80%、民間企業へは非常に僅かである。

8) 奨学金

経済的に恵まれない学生がいるので、この制度はIASとして保有している。内容は、4種類に分かれている。

a. 農務省から出るもの

これは1ヶ月あたり1人につき50ペソである。生徒の生活費の30%程が賄える。

b. 民間企業(タバコ会社、コーヒ会社)から出るもの、

これは生徒が1ヶ月間賄えるだけの金額が用意されている。

c. 財団(Gaso Gaso Mundi)から出るもの

これは生徒の1ヶ月分必要経費の70%が賄える。

d. 学校が用意するもの

これは生徒が1ヶ月間賄える30%が用意されている。

奨学金は全てCreditである。卒業後返還しなければならないが、在学生の80%がこの支給を受けている。

9) 留学生

外国からの学生の入学も受け付けているが、僅かである。1986年度はプエルトリコ人の学生が在学しており、Perito Agronomoの資格をとって卒業した。

(2) 農業専門高等学校(Instituto Superior Academico Secundario)

この農業教育施設はもうひとつのISA(Instituto Superior Academico)と呼ばれる教育施設と同じ敷地内にある。学校の機構、教員の組織などについてはAcademicoと同じものを使用しているので、ここでは触れない。

1) 入学

IASの資料によると、Secundariaの入学生は毎年120人である。全国規模で募集を行っている。入学をスムーズに行なうために、毎年2月から4月にかけて、教員が全国26県へ出向き募集を行っている。

入学試験は実施している。それは2段階に分けている。

・ 第1段階

① 知能テスト

② 一般教育をどの程度受けてきたかのテスト

・ 第2段階

第1段階の試験に合格した者が受験する。

① 諸々の情報をキャッチする能力

② 表現能力

これに合格した生徒を120人1年次生として入学を許可している。この学校には女子生徒も在学している。ただし、数は少ない。

2) 進 級

表Ⅳ-3は諸々の原因で退学した生徒を示している。1985年度の数値であるが、1年次のうちに退学した者は26名で、全入学生の34.2%になっている。120名入学するのであるから2年次へ進級できる生徒は単純計算で94名になる。この中には留年生徒は考慮されていない。仮りに全生徒が2年次生になると、2年次で退学する者は5名であるから、3年次へ進級する生徒は89名ということになる。

学期(Semestre)毎に試験があり、この試験に70点以上の成績をとらないと進級はできない。そのような生徒は留年か退学かの道をとる。

表Ⅳ-3 1985年度内で学校から去って行った者の一覧表

Razones	1 年 次		2 年 次		3 年 次	
	合 計	%*	合 計	%	合 計	%
	26	34.2	5	1.2	0	0
学業能力劣	13	19.1	3	0.7	0	0.0
自発的退学	10	14.7	0	0.0	0	0.0
規則上	3	0.4	2	0.5	0	0.0

* Los porcentajes estan basados en el numero de estudiantes retirados del total de estudiantes de cada promoción en ese año académico.
出所：Instituto Superior de Agricultura Memoria 1986 S. D. R. D

1 学年暦

表Ⅳ-4で分るように、単1年度は3学期に分れている。第1学期は8月21日から12月14日、第2学期は1月7日から5月15日、第3学期は5月25日から8月3日までである。他のPrimaria, Secundaria(Colegio)と異なり、この学校は3学期制を採用しているよにみえる。各学期は、学期開始直後の試験が2回、中間試験、期末試験がそれぞれ1回の計4回試験が行なわれている。表Ⅲ-18を注意してみると、第3学期の長さが約半分になっていることに気が付く。

4) 学習活動

表Ⅳ-5には、各学期毎の教育計画が載っている。各年次は3期に分れており、第3期目は夏期講座になっており、継続期間も半分である。基本的に他のレベルの学校と同じく2期制をとり、夏期講座で実力養成を計っていることも考えられる。下級学年ほど教養科目が多く、上級へいくに従い、専門的特殊的傾向を示している。それは、理論と実技の週当り時間配当が学年を追って変り、実技の時間が増加していることでも判るし、3年次生では実技の時間の方が理論の時間より多くなっている。ここに学校当局の教育方針の一端をみる。

5) 学生生活

a. 学寮

IAS 農業高等学校は全寮制をとっている。400名収容可能の寮である。食事代と洗濯代は無料で1ヶ月あたり45ペソ支払えば生活可能である。

b. 奨学金制度

奨学金制度はない

表IV-4. 農業専門高等学校年間行事予定表 (1985)

第1学期	8月	21 22-24 23 26	新入生登録 新入生のためのオリエンテーション 在校生登録 授業開始
	9月	2-6 16-20 24	第1回目の試験 第2回目の試験 聖母の恩恵の日 (休業)
	10月	7-11 12 13	中間小試験 アメリカとの出会記念日 (週末休暇) 授業再開
	11月	6 7 27 30	憲法の日 (休業) スポーツの日 成績判定 授業終了
	12月	2-13 14	期末試験 期末休暇開始
第2学期	1月	7 8 15-20 21 26 29 4	期末休暇終了 授業開始 第1回目の試験 聖母の日 (休業) 祖国の父ファン・パブロ・デュアルテの記念日 (休業) 第2回目の試験
	2月	18 20-26 27	学生の日 中間小試験 ドミニカ共和国独立記念日 (週末休暇)
	3月	2 27 28 30	授業再開 聖週間開始・聖なる木曜日 (聖週間休暇) 聖木曜日 (休日) サンチャゴ戦戦勝記念日 (聖週間休暇終了)
	4月	18 23 25	成績評価 授業終了 期末試験開始
	5月	8 1 6 15	期末試験終了, 学期最終日休暇開始 労働の日 (休日) 樹木の日 農業の日
第3学期		25 26 29 30-31	母の日 休暇終了 キリスト聖体の祝日 (休日) 第1回目の試験
	6月	6-7 12-14 18-21 21 30	第2回目の試験 スポーツと文化の週間 中間試験 中米, カリブ大会 (休暇開始) 先生の日
	7月	7 25-26 27 30 31	休暇終了 校内清掃 第21回目卒業式 授業終了 期末試験開始
	8月	2 3	期末試験終了, 夏期休暇開始 スポーツと文化活動

表IV-5. 全国教育審議会の決議に則ったテクニコ職業的農業教育の教育計画

Pensum por Semestre Segun Resolucion 1-84 del CNE Primer Ano

クラス	科	目	理論	実習	クレジット	
第1期 (16週)	SRC-101	R*	スペイン語 I	4	0	4
	SEC-102	R	英語 I	3	0	3
	SEC-103		算数	4	0	4
	SEC-104	R	生物	3	2	4
	SEC-105	R	社会科 (文明の歴史)	3	0	3
	SEC-106		農学入門	3	0	3
	SEC-107					
	SEC-108					
	SEC-109					
	SEC-110		製図	2	2	3
	SEC-111		オリエンテーション	1	0	1
	SEC-114	R	野外実習 I	0	6	2
	SEC-115		体育	0	2	1
	SUBTOTAL			23	12	28
	第2期 (16週)	SEC-121		スペイン語 II	4	0
SEC-122			英語 II	3	0	3
SEC-123			数学 I (代数)	4	0	4
SEC-124			生物 II, (解剖, 生理衛生)	3	2	4
SEC-125			社会学 ドミニカ地理	3	0	3
SEC-126			植物学	3	2	4
SEC-127						
SEC-128						
SEC-129						
SEC-130			農学建築・(大工と家具製造)	1	3	2
SEC-131			公民	2	0	2
SEC-134			野外実習 II	0	6	2
SEC-135			体育	0	2	1
SUBTOTAL			23	15	29	
夏期講座 (8週)		SEC-141		スペイン語 III	3	0
	SEC-142		英語 III	3	0	3
	SEC-143		数学 II (代数)	4	0	4
	SEC-150		農業建築 II (電気・溶接)	1	3	2
	SUBTOTAL			11	3	12
TOTAL			57	30	69	

出所: Instituto Superior Agricultura, Memoria 1986, Santiago, R. D.

6) 進路

殆どの卒業生が政府機関に就職する。30人から40人が毎年Technico になっているが、この数が農業高校の卒業生総数である。

2. 高等教育

ここには大学などの高等教育機関が含まれる。今回の調査では、イサ大学、東部中央大学、ウソフ、サントドミンゴ自治大学から資料を得たので、順次述べてみる。

(1) 農業専門大学 (Institute Superior Academica)

1986年7月31日、法令651-86によって、この学校は大学として公認された。この学校が創立されたのが1962年であるから、大学昇格まで24年の歳月が存在していたことが分る。

1) 学部の機構

この大学は農学部だけの単科大学である。大学昇格当時の開設コースは

- a. 農業行政 (Administracion Agricola)
- b. 農業経済 (Economia Agricola)
- c. 農業教育 (Educacion Agricola)
- d. 園芸 (Horticultura)
- e. 農業機械 (Mecanizacion Agricola)
- f. 森林開発 (Recursos Forestales)
- g. 灌漑 (Sistema de Riego)
- h. 畜産 (Produccion Animal)

の8コースであった。1987年現在ではこれらの他にi. 農村管理が加わっている。また、今後開設したいコースとして

- j. 森林技師養成
- k. 淡水魚増殖
- l. 農業管理
- m. 農業の企業化

が考えられている。

大学院はない。将来森林開発と植林のコースでマスター程度のもを望んでいる。

2) 教員機構

1986年現在教授の役割を果している専任教員が37名、助教授の役割を果している専任教員が9名、合計46名の教員がいる。

新任教員を採用するに当たっては次のような条件がある。

- a. 農学関係のコースを卒業していること
- b. Master, Doctor の称号があることが望ましい
- c. 現在開設されているコースのうち、必ずひとつのコースと当該個人の専門分野が合致していること
- d. 研究業績を有し、研究能力を有する者
- e. 教育能力がある者

この条件を満たしている者の中から採用者を決定する。(採用決定者については回答を得られなかった)。

教員は公式に全て横一線であり段階区分(教授, 助教授, 講師, 助手, 副手など)はない。ただ教員が昇格していくために勤務評定が為されている。

ISA では,

a. 4ヶ月(1学期)ごとに

- ① 担当教科目の学生
- ② 同僚

b. aの内容は

- ① 教材研究
- ② 学級の組織化・運営の仕方
- ③ 出校率
- ④ 努力の有無とその狙い
- ⑤ 教育方法

である。最終評定者は、経営の責任者と教育の責任者が行なう。勤務の内容によって昇給の基準が決定され、ポストも約束される。反対に辞職に追い込まれる者もいる。

3) 入学

入学試験を実施している。内容は口述と筆記である。第1次, 第2次試験が毎年実施されている。

第1次試験は表IV-6に示されている全国18の都市で実施されている。内容の詳細については不明であるが, 392名の受験者のうち127名が合格している。ISA 高等学校の教値は脇へ置くとして, ネイバ (Neiba), サン・クリストバル (San Cristobal), サン・ファン・デ・マグアナ (San Juan de Maguame), ダハボン (Dajabon), マオ (Mao)などの都市名からして, サンクリストバル以外は, どちらかといえば首都から遠く隔たった場所である。この第1次テストは, 大学の水準に合格しているか否かを調べるもので, 予備試験の性格をもつ。

第2次試験(本試験)では, この中から65名が合格した。

表IV-7に1981年度からの新入生数と在學生総数が載っている。1986年度は65名であることを考えると, 新入生は年毎に漸減の傾向にあることが分る。また, 年度初めの學生総数と年度半ばの學生数, 更には年度末の學生総数を見ると, 1985年度のSemestre 1の間に退学した者70名, Semestre 2の間に退学した者(1985年から推計すると)約20名, 合計約90名程が1年間で大学を去っている。

ISAの在学期は4年であるが, 国立ではないので, 独自のPreparatorio cursoを持っている。在学期間は5年間である。表IV-6, 21で明らかなように, 入学定員はない。

4) 進級

ISA 高等学校と全く同じ方法を採用している。即ち, 全教科目は必修科目であり, 次のSemestreへ進む為にはこの必修科目に70点以上の成績をとっていることである。前述の学科個々に学習内容が展開していくので, 進級は可成り困難である。

(卒業と進路)

表IV-8は, 1985年度に学内10の専攻コースから卒業していった者の総数である。この表

表IVの6 入試結果の表

両方の試験			
場 所	志願者	入学許可者	Total
Barahona	19	3	22
Neyba	67	17	84
San Juan de la Maguana	54	13	67
San Cristobal	16	14	30
La Romana	—	—	—
Santo Domingo	2	1	3
Monte Plata	0	1	1
Bonao	1	1	2
San Fco. de Macoris	6	1	7
Nagua	12	7	19
Montecristi	5	5	10
Dajabon	17	13	30
Santiago Rodriguez	12	0	12
Mao	12	8	20
Moca	6	2	8
La Vega	1	1	2
Salcedo	5	4	9
ISA	30	36	66
TOTALES	265	127	392

出所: Instituto Superior de Agricultura Memoria 1986, SANTIAGO, REPUBLICA DOMINICANA.

から1月づけと6月づけの2種類の卒業生があることが分る。学校行事予定はISA 高等学校と同じであるので、卒業式は1回である。

卒業生はほとんど全てが政府機関で働くようになっている。卒業すると開設されている学科の名が付いて称号が与えられる。即ち、第1の学科生ならば、Ingeniero Agronomo de Administracion Agricola である。即ち、この大学を卒業するとIngeniero の称号が与えられるのである。

5) 学生生活

a. 女子学生の有無

女子学生は少数であるが在学している。

b. 通学方法

大学生は学内の寮に入らない。全員通学生である。

表IV-7 1981年-85年次までの新入生と在籍学生数

Ano Academico	在籍学生数		
	新入生	第1学期	第2学期
1981-1982	121	410	397
1982-1983	109	439	438
1983-1984	73	416	373
1984-1985	37	354	314
1985-1986	76	367	297

Fuente: Instituto Superior de Agricultura, Sub-Dirección Académica.

出所: Instituto Superior de Agricultura Memoria 1986, SANTIAGO REPUBLICA DOMINICANA.

表IV-8 1985-1986年の卒業生数

Codigo	専攻分野	卒業生数			Total del Programa
		1986			
		1月	6月	合計	
AG 1	農企業管理	13	3	16	174
AG 2	農業経済	4	3	7	35
AG 3	農業教育	5	4	9	86
AG 4	花卉園芸	1	10	11	81
AG 5	農業機械	0	0	0	48
AG 6	森林復興	8	4	12	25
AG 7	Reforma Agraria	0	0	0	7
AG 8	灌漑システム	4	9	13	54
AG 9	飼育技術	0	2	2	29
AGA	家畜生産	0	0	0	0
TOTAL		35	35	70	539

Fuente: Dirección del Registro, Universidad Católica Madre y Maestra (UCMM)

出所: 表IV-7と同じ。

c. 1ヶ月当り生活費

本学々生は概して貧困家庭の学生が多い。大学附近に下宿して通学する場合は月に85ペソ、遠方、たとえばSantiagoからの通学生は、2食つきで月に250ペソが平均である。

d. 奨学生制度

これについてはない。

e. 留学生

現在スペイン人の留学生が1人在学している。

f) 図書館

独立した建物になって存在している。蔵書は約16,000冊、雑誌は約20種類である。

(2) 東部中央大学 (Universidad Centro de Este=UCE)

1970年10月、ホセ・アシム・アザール博士 (Dr Jose Nazim Azar) によって、サント・ドミンゴ (Santo Domingo) の東、サン・ペドロ・デ・マコリス (San Pedro de Macoris) に創立された。創立の目的は、ドミニカ共和国の経済的社会的発展に資する、各種の専門分野に活躍しうる専門家と技術分野を養成することで、そのモットーは献身、研究、責任である。

1) 学部構成

学部は全部で5学部に分れている。それらは、

- a. 医学部 (Facultad de Ciencias Medicas)
- b. 法政学部 (Facultad de Ciencias Juridicas y Sociales)
- c. 経済社会学部 (Facultad de Ciencias Economicas y Sociales)
- d. 工・建築学部 (Facultad de Ingenieria y Arquitectura)
- e. 人文学部 (Facultad de Humanidades)

であり、博士課程は、aとbにのみ認められる。農学はdに1学科として属している。農学科長からの聞きとり調査では、1987年9月に独立するという話であった。

2) 工・建築学部

1977年1月に創立された。学部は10の学科に分れている。

- a. Ingenieria Agronomia
- b. Ingenieria Electrica
- c. Ingenieria Civil
- d. Ingenieria Industrial
- e. Arquitectura
- f. Ingenieria Mecanica
- g. Medicina Veterinaria
- h. Tecnologo Azucarero
- i. Ingenieria Azucarero
- j. Tecnico en Zootecnia

がそれで、a, g, h, i, jの5学科が農学関係学科である。

それぞれの学科には数個のコースがある。それらは

- a. ① Produccion Animal
- ② Manejo y Produccion el Cultivos
- ③ Recursos Naturales
- ④ Riego y Drenaje

- g. ① Clinica Veterinaria
- ② Zootecnica
- ③ Salud Publica
- ④ Produccion y Mejoramiento Animal
- h. ① Control y Produccion de Azucar
- ② Evaporacion en la Industria Azucarera
- ③ Equipo de Molienda de Caña
- i. ① La Misma area de Los Ingenieria Azucareros a Nivel Tecnico
- j. ① Produccion Animal
- ② Adm. Agropecuaria
- ③ Extension Agropecuaria

になっている。

これらの学科、コースを充実した内容にするために、サン・ペドロ・デ・マコリスから4 km離れた所に実験農場がある。広さは33,000タレア（1タレアは0.063ha）で、3000頭の家畜を飼育し、10,000 タレアの砂糖キビ、砂糖畑が確保されている。この農地のなかに実験研究棟、管理棟、倉庫などが全て整っている。

3) 年間行事予定

表Ⅳ-9に示されているように年間行事予定が入っている。1987年度は、学期の開始が3回（1月5日、5月2日、9月1日）ある。年度始まりは9月からと他校が決めているので、当大学もそうであろうが、1年が3期に分れていることが分る。故に卒業式も3回（2月13日、6月12日、10月9日）である。新学期が始まるとすぐに試験があり、次の月の後半から翌月にかけて中間試験があり、学期始まりから4ヶ月目の中旬に期末試験があって10日程の休みがくることになっている。中間試験と期末試験の間に実技（地）試験が2回予定されている。学生は学期開始から終了までの間に都合4回の試験を受験しなければならず、それに比べて休暇が少ないことが理解されよう。

恐らく他大学は殆んど2期制であろうに、何故UCEが3期制なのかは理解に苦しむ。

4) 教員採用

教員を新規に採用するに当っては、学歴を重視する。候補者に履歴書を提出させ、同時に教師としての経験年数を尋ねる。最終的には①総長（Rector）、研究部長（Director Escuela）、当該学科長（Decano de la Investigacion）の3者が談合の上決定する。

（教育課程）

表Ⅳ-10はa. ①の学科のものである。他の4つの学科にもこれと酷似したものがある。表Ⅲ-24, 25, 26に示した。1年が3期制であることもあり、1学期の科目総数は6で、1科目は4 Creditである。ここからみて、選択科目はひとつもなく、全て必須科目であることが分り、次のSemestreに同じ科目が記載されていないから、ISA大と同じに得点の満たない学生は落第、退学を余儀なくされることがうかがい知れる。

5) 入学

学生の入学に際しては、入学試験を行っているという記述はなかった。詳細については不

UNIVERSIDAD CENTRAL DEL ESTE

SAN PEDRO DE MACORIS, R. D.

CALENDARIO DE ACTIVIDADES

表IV-9 東部中央大学年間行事予定表

1987

ENERO							FEBRERO							MARZO							ABRIL						
DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					26	27	28	29	30		

MAYO							JUNIO							JULIO							AGOSTO						
DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO
					1	2	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7						1	2	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29		

SEPTIEMBRE							OCTUBRE							NOVIEMBRE							DICIEMBRE						
DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO	DOMINGO	LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES	SABADO
		1	2	3	4	5				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	29	30						27	28	29	30	31			

- | | | |
|------------------------------|--|----------------------------------|
| (学期開始)
Inicio de Docencia | (実技試験開始)
Inicio de Exámenes de Práctica | (短休暇又は休暇)
Asueto o Vacaciones |
| (学期終了)
Fin de Docencia | (期末試験)
Exámenes Finales | Exámenes 特別試験
Extraordinarios |
| (卒業式)
Graduación | (休日)
Días Feriados | (年間試験)
Exámenes Parciales |

出所：東部中央大学農学科長より入手

表IV-10 東部中央大学建築工学部 農業工学学科

NOMBRES		APPELLIDOS		MAT	
RECIBO NO.		FECHA		SEMESTRE ACAD.	
符号	教科目	単位	符号	教科目	単位
<u>第1学期</u>			<u>第4学期</u>		
1-01	数学	4	4-01	社会学哲学	2
1-02	文学	5	4-02	計算I	4
1-03	物理学	4	4-03	有機化学	4
1-04	生物学	4	4-04	昆虫学I	4
1-05	製図	2	4-05	地形学I	5
1-06	温潤気象学	4			19
		23			
<u>第2学期</u>			<u>第5学期</u>		
2-01	数学	4	5-01	昆虫学II	4
2-02	化学	4	5-02	植物遺伝学	4
2-03	文学	4	5-03	地形学II	5
2-04	物理学	4	5-04	計算II	4
2-05	植物学概論	4	5-05	野菜生理学I	4
2-06	遺伝学概論	4	5-06	農業機械	4
		24			25
<u>第3学期</u>			<u>第6学期</u>		
3-01	ドミニカ社会史	2	6-01	写真複写術	3
3-02	代数・分析	4	6-02	野菜生理学II	5
3-03	無機化学	4	6-03	農業生態学I	5
3-04	物理学概論	4	6-04	土壌I	5
3-05	植物分類学	4	6-05	牧草・まぐさ	3
		18	6-06	動物概論	4

第7学期

7-01	農業生態学Ⅱ	4
7-02	土壌Ⅱ	5
7-03	水力学Ⅰ	5
7-04	栽培Ⅰ	5
7-05	生物総計	4
7-06	家畜生産Ⅰ	4
		<u>22</u>

第10学期

10-01	線虫ビールス学	4
10-02	肥沃学Ⅱ	4
10-03	土壌の維持	4
10-04	果樹園芸	4
10-05	農業経済	4
10-06	雑草防除	4
10-07	栽培Ⅳ	4
		<u>28</u>

第8学期

8-01	栽培Ⅱ	5
8-02	植物病理学Ⅰ	4
8-03	灌漑Ⅰ	5
8-04	排水Ⅰ	5
8-05	農業分析	4
8-06	家畜生産Ⅱ	4
		<u>27</u>

第11学期

11-01	植物繁殖学	5
11-02	自然回復評価	4
11-03	実験計画	4
11-05	灌漑操作	5
11-06	農牧管理	4
11-07	天然資源Ⅰ	4
		<u>26</u>

第9学期

9-01	栽培Ⅲ	5
9-02	植物病理学Ⅱ	4
9-03	灌漑Ⅱ	5
9-04	排水Ⅱ	5
9-05	肥沃学Ⅰ	4
9-06	経済学Ⅰ	3
		<u>26</u>

第12学期

12-01	農業計画	4
12-02	農牧普及	4
12-03	天然資源Ⅱ	4
12-04	生産システム	4
	専門コース又は論文	4
		<u>20</u>

NOTA: LA MATERIA CULTIVO IV (10-07) (CAFE Y CACAO) SUSTITUYE A ANALISIS NUMERICO Y PROGRAMACION (10-04). LAS MATERIAS RECURSOS NATURALES I Y II Y SISTEMAS DE PRODUCCION SUSTITUYEN A LOS SEMINARIOS PENSUM QUE REGIRA A PARTIR DEL SEMESTRE ENERO/ABRIL/1987
8/86-VY/

出所: 表Ⅲ-21と同じ

表IV-10

東部中央大学建築工業部獣医学科

NOMBRES		APELLIDOS		MAT	
RECIBO NO.	FECHA	SEMESTRE ACAD.			
符号	教科目	単位	符号	教科目	単位
<u>第1学期</u>			<u>第4学期</u>		
1-01	数学	4	4-01	生化学I	5
1-02	文学	4	4-02	生物統計学	4
1-03	物理学	4	4-03	獣医解剖学II	4
1-04	生物学	4	4-04	獣医生理学I	4
1-05	発生学史I	5	4-05	遺伝学概論	4
1-06	植物学概論	4			21
		25			
<u>第2学期</u>			<u>第5学期</u>		
2-01	数学	4	5-01	地形分析学	4
2-02	化学	4	5-02	獣医生理学	5
2-03	文学	4	5-03	微生物学	5
2-04	物理学	4	5-04	寄生虫病学	5
2-05	動物学	4	5-05	生化学II	5
2-06	発生学史II	5	5-06	バイオ技術概論	4
		25			28
<u>第3学期</u>			<u>第6学期</u>		
3-01	社会学・哲学	4	6-01	獣医生理病理学	3
3-02	ドミニカ社会史	4	6-02	微生物学・免疫学	5
3-03	獣医解剖学I	4	6-03	寄生虫病学II	5
3-04	幾何・分析	4	6-04	薬学と治療学	4
3-05	有機化学	4	6-05	家畜栄養学	4
		20	6-06	家畜繁殖学	3
					24

<u>第7学期</u>			<u>第10学期</u>		
7-01	薬学・毒学	5	10-01	再生産病理学	4
7-02	伝染性疾患 I	4	10-02	公衆衛生 I	6
7-03	牧草とまぐさ	4	10-03	養鶏及養鶏実習	4
7-04	寄生虫疾患	4	10-04	家畜工学	4
7-05	獣医病理学 I	5	10-05	飼料衛生	3
7-06	家畜生産 I	4	10-06	通気・代謝・栄養	4
		<u>26</u>			<u>25</u>

<u>第8学期</u>			<u>第11学期</u>		
8-01	獣医病理学 II	5	11-01	医学病理学	13
8-02	発生学 II	3	11-02	臨床外科	10
8-03	医学病理学 I	3	11-03	同位元素	3
8-04	産科学	4			<u>25</u>
8-05	外科学と手術技術	4			
8-06	家畜生産 II	4			
		<u>23</u>			

<u>第9学期</u>			<u>第12学期</u>		
9-01	疾病病理学 II	3	12-01	医学臨床 II	10
9-02	臨床病理学	5	12-02	外科臨床 II	10
9-03	外科学と手術技術 II	4	12-03	公衆衛生 II	
9-04	記号学	5			3
9-05	生理学と繁殖	4			
9-06	家畜生産 III	4			
		<u>25</u>			

Pensum que comenzo a regiren enero / Abril / 84
 vy / 8 / 86
 出所：表IV-7と同じ

NOMBRES _____ APELLIDOS _____ MAT _____
 RECIBO NO. _____ FECHA _____ SEMESTRE ACAD. _____

符号	教科目	単位	符号	教科目	単位
<u>第1学期</u>			<u>第4学期</u>		
1-01	数学	4	4-01	社会学・哲学	2
1-02	文学	5	4-02	計算	5
1-03	物理学	4	4-03	物理学Ⅱ	4
1-04	化学	4	4-04	無機化学Ⅱ	5
1-05	地理	3	4-05	製糖産業史	2
1-06	英語技術Ⅰ	2			18
		22			
<u>第2学期</u>			<u>第5学期</u>		
2-01	生物学	4	5-01	計算Ⅱ	5
2-02	数学	4	5-02	物理学Ⅱ	4
2-03	文学	4	5-03	有機化学Ⅰ	5
2-04	物理学	4	5-04	Mec. Racional I	5
2-05	製図Ⅰ	3			24
2-06	英語技術Ⅱ	2			
		21			
<u>第3学期</u>			<u>第6学期</u>		
3-01	ドミニカ史	2	6-01	微分積分学	4
3-02	無機化学Ⅰ	4	6-02	有機化学Ⅱ	5
3-03	物理学Ⅰ	4	6-03	定量分析Ⅱ	5
3-04	分析・地理	4	6-04	物理化学Ⅰ	5
3-05	高等代数	4	6-05	物質の抵抗	5
3-06	製図Ⅱ	3	6-06	エレクトロ技術	4
		21			28

<u>第7学期</u>			<u>第10学期</u>		
7-01	機械器具	4	10-01	Peinc. Adm. y Contb.	3
7-02	物理・化学	5	10-02	製糖調整論	4
7-03	高等数学	4	10-03	オートマ化	5
7-04	砂糖キビの生理学	5	10-04	実験技術器具II	5
7-05	熱力学I	4	10-05	経済I	<u>3</u>
7-06	生化学I	<u>5</u>			30
		27			
<u>第8学期</u>			<u>第11学期</u>		
8-01	熱力学II	4	11-01	経済技術	4
8-02	野外機械器具実習	4	11-02	産業心理	2
8-03	砂糖キビ栽培	5	11-03	実験技術器具III	5
8-04	統計学I	3	11-04	アルコールと誘導体	<u>4</u>
8-05	製糖技術I	5			15
8-06	製糖分析I	<u>5</u>			
		26			
<u>第9学期</u>			<u>第12学期</u>		
9-01	カロリーの転移I	4	12-01	砂糖キビ植付案	5
9-02	製糖技術II	5	12-02	産業誘導体	4
9-03	製糖分析II	5	12-03	製糖経済学	4
9-04	砂糖生産化学	4		産業安全	<u>4</u>
9-05	実験技術器具I	<u>5</u>			17
		23			

出所：表IV-7と同じ

表IV-11 東部中央大学 建築工業学部 製糖技術科学科 製糖技術

NOMBRES _____ APELLIDOS _____ MAT _____
 RECIBO NO. _____ FECHA _____ SEMESTRE ACAD. _____

符号	教科目	単位	符号	教科目	単位
<u>第1学期</u>			<u>第4学期</u>		
1-01	数学 I	4	4-01	社会学・哲学	2
1-02	文学	5	4-02	計算 I	5
1-03	物理学	4	4-03	物理学 II	4
1-04	化学	4	4-04	無機化学 II	5
1-05	地理	3	4-05	製糖工業史	<u>2</u>
1-06	英語技術 I	<u>2</u>			19
		22			
<u>第2学期</u>			<u>第5学期</u>		
2-01	生物学	4	5-01	計算 II	5
2-02	数学	4	5-02	示性力学 I	5
2-03	文学	4	5-03	有機化学 I	5
2-04	物理学	4	5-04	定量分析	<u>5</u>
2-05	製図 I	3			20
2-06	英語技術 II	<u>2</u>			
		21			
<u>第3学期</u>			<u>第6学期</u>		
3-01	フミニカ社会史	2	6-01	統計学 I	3
3-02	無機化学 I	4	6-02	有機化学 II	5
3-03	物理学 II	4	6-03	定量分析	4
3-04	分析・地理学	4	6-04	物理化学 I	5
3-05	高等代数	<u>4</u>	6-05	製糖分析 I	<u>5</u>
		18			22

第7学期

7-01	機械器具	4
7-02	製糖技術 I	5
7-03	製糖分析	5
7-04	砂糖キビの生理学	5
7-05	製糖工場の設備技術 I	<u>5</u>
		24

第8学期

8-01	製糖簿記	4
8-02	製糖技術 II	5
8-03	オートメーション化	5
8-04	製糖化学	4
8-05	製糖工場の設備技術	<u>5</u>
		23

Nota: Pensum que regira a partir a enero/abril 87

出所: 表IV-7と同じ

明であるが、入学条件として次の事柄がある。それらは、

- a. 入学事務所の指示に従って学生登録料を支払い済みであること。
- b. 以下の書類を提出していること。
 - ① 高等学校からの証明書、または大学での単位の写し
 - ② コスタリカ国人であることの証明書
 - ③ 健康診断書
 - ④ 性行証明書
 - ⑤ 身分証明書用写真3枚

がそれであり、そのほかの記載はない。

現在は農学科の学生は総数 800名である。

6) 授業料

授業料は4ヶ月毎(1学期毎)に240ペソ必要である。但し、留学生は同時期に2400U.S.ドルを支払う。留学生からの授業料は当該学科の収益になっている。大部分の学生は奨学生であるので、これを天引されるため、101ペソ支払う。故に年間で303ペソ、留学生は7200U.S.ドルという事になる。

7) 奨学生制度

この制度は2種類に分れている。

- a. 大学で行なうもの

これは貸与 (Credit) ではないので、卒業後返還しなくてもよい。これらの該当者は、大学の文化部 (コーラス部) やスポーツ部に入って活動し、大学に大いに貢献したと認められたものである。

b. 企業から出るもの

附近に半官半民の製糖会社があり、そこから奨学金が貸与される。これはCreditの性格を持つので卒業後Tuicionとして50%返還の義務を負う。但し、この会社に就職すると、給料から天引される。奨学金は全学生の90%が支給されている。

8) 学寮

学寮はない。全ての学部生、大学院生は自宅、下宿、アパート、親戚の家などから通学してくる。

9) 留学生

現在ベネズエラ人の留学生が3人農学科に在学している。

10) 施設

農学部専用の図書館ではなく、全学共通利用の図書館である。蔵書数6000冊、雑誌1000部 (種類は不明) ある。

11) 外部からの援助

政府から農学科に月20,000ペソの援助があるが、不足である。

(3) サントドミンゴ自治大学 (Universidad Autonoma de Santo Domingo = UASD)

1538A. D. にパウロ3世によって創設されたUASDは、中南米最古の大学である。而もドミニカ共和国唯一の国立大学である。この大学に農学部 (Facultad de Ciencias Agronomicas y Veterinarias) が出来たのは1971年である。

1) 農学部の機構

農学部には、2つの学科がある。

a. 農学科 (Ingenieria Agronomica)

b. 獣医学科 (Ingenieria de Medicina Veterinaria)

がそれである。

農学科は次の専攻に分れている。即ち、

① 作物栽培と作物保護 (Mencion Fitotecnia y Fitomejoramiento)

② 土壌科学 (Mencion en Ciencias del Suelo)

③ 健康野菜 (Mencion en Sanidad Vegetal)

④ 灌漑と農業機械 (Mencion en Riegos y Mecanizacion Agricola)

⑤ 動物生産 (Mencion en Produccion Animal)

の5専攻である。入学後直ちにここへ分れるのではなく準備・予備教育 (Propedeuticas e Introductorias) の期間がある。

準備・予備教育は、日本に於ける基礎教養課程に相当するようであるが、教育課程をみると、Semestre 1とSemestre 2の教科目がSemestre 3以降のそれと異なっていることから、ここが俗にいわれるPreparatorio cursoであることが理解できる。それ以後の2年間は基礎科目で、表IV-11に示してある。これを終えて3年次生からそれぞれの専門科目の学習に入る

のである。表Ⅳ-12, 13, 14, 15, 16に3年次以降の専門課程の教育計画を示しておいた。

一方、獣医学科は1科から構成されている。農学科とは別な教育計画があることが表Ⅳ-17から判明する。即ち、この学科には専門課程が農学科よりも長期にわたって実施されているように記されている。それは即ち、Semestre 1を見ると、Peparatorio curso に於て学習すると想定されている教科目が見当らず、いきなり専門課程の科目が並んでいることによつて明らかである。これは恐らく3年目からSemestre 1が開始されると受けとった方が誤りがないようだという推論を導き出す。

学科、学部によつて学習期間が変わることがこの例で判明したと考えている。

2) 教員組織

農学科を例にとつて考察すると、この学科には108名の教員がいる。彼らは全てProfesorであり、日本のように教授、助教授、講師、助手という地位の差は認められていない。故に昇格ということもない。

新任教員を採用する際には、独得の方法がある。

教員応募者は、それまでに学習し習得したものによつて持ち点が決っている。それは、「Ph. D. ……10点、M. ……5点、卒業後2年間の教師体験 ……4点etc」というものであり、外国留学や教師の経験を可成り重要視している。候補者が出ると2つの段階で採用の適否を決定する審議会が開催される。

第1段階 (Consejo Tecnico)

このConsejoを構成しているのは、① Decano, ② Vice-Rector, ③ 3 Directors, ④ 3 Represent Profesores, ⑤ 33% OK en Estudiantes, ⑥ 5 Estudiantes, ⑦ Director de Investigacionの合計14名である。この第1段階を通過すると、第2段階へ進む。

第2段階 (Consejo Universitario)

このConsejoを構成するのは、① Rector, ② Vice-Rector (Academico), ③ Vice-Rector (Administrativo), ④ Cada Decano de Facultad (5学部なら5人, 10学部なら10人)である。構成メンバーの数は最低4人, 最高はその時によって異なる。教員の候補者は、これらのメンバーの前で2 horas 演説をすることが要求される。最終決定はここで行なわれる。

教員は勤務評定を行なう。それは、①毎月研究報告書を提出すること、②特定研究に従事している者はその研究が終了した後に報告書を提出することであり、あくまでも自己申告制度をとっている。ここは他大学と異なる。

このように熱心に教育活動に従事していても、この学部には大学院がない。1990年までにはNatural Resources CourseをMaster Courseでいいから作りたいときいた。ただ3年毎に学長 (Decano) が変わるので少しむずかしいようであった。

表IV-11 インヘニエロアグロノモ学習計画 基礎学年用

教科目	週ごとの時間					教育課程の符号
	コード	前提条件	理論	実習	単位	
<u>第1学期</u>						
高等代数学	Mat-230	Mat-012 CU	4	2	5	90201
統計分析 I	Mat-257	Mat-012 CU	4	2	5	
無機化学	Qui-111	Qui-011 CU	4	3	5	
植物学	Bio-121	Bio-011 CU	3	3	4	
地形学 I	Agm-131	Mat-012 CU	2	6	4	
			17	16	23	
<u>第2学期</u>						
統計・分析 II	Mat-258	Mat-257	4	2	5	
有機化学	Qui-121	Qui-011 CU	3	3	4	
地形学 II	Agm-132	Agm-131	2	6	4	
植物学 II	Bio-122	Bio-121	3	3	4	
実験生物統計	Est-132	Mat-012 CU	3	2	4	
動物学 I	Bio-131	Bio-011 CU	3	3	4	
			18	19	25	
<u>第3学期</u>						
一般農業遺伝	Iag-132	Bio-011 CU	3	3	4	
農業分析 I	Iag-216	Qui-011 y Qui-121	3	3	4	
農業機械 I	Iag-252	Fis-012 y Mat-230	3	3	4	
植物物理学 I	Iag-237	Qui-121 y Bio-122	4	3	5	
農業経済概論	Ecn-134	Mat-258	3	2	4	
土壌発生物学	Iag-215	Qui-111	4	3	5	
			20	17	26	
<u>第4学期</u>						
土壌学 I	Iag-316	Iag-215	3	3	4	
灌漑 I	Iag-251	Iag-215 y Mat-258	3	3	4	
植物物理学 II	Iag-238	Iag-237	4	3	5	
植物遺伝学	Iag-235	Iag-132	4	3	5	
農業分析 II	Iag-315	Iag-216	3	3	4	
農業機械 II	Iag-352	Iag-252	3	3	4	
			20	18	26	

第5学期

土壌学Ⅱ	lag-317	lag-316	3	3	4
灌漑Ⅱ	lag-351	lag-251	3	3	4
土壌微生物学Ⅰ	lag-319	Qui-121 y lag-316	3	3	4
農業病害虫	lag-271	Bio-131	3	3	4
農業生態学Ⅰ	lag-336	lag-316	4	3	5
一般動物学	Zoo-114	lag-132	3	3	4
			19	18	25

第6学期

農業病害虫Ⅱ	lag-371	lag-271	3	3	4
培養学Ⅰ	lag-330	lag-230 y lag-317	4	3	5
肥料Ⅰ	lag-318	lag-316	3	3	4
農業実験	lag-340	Est-132	3	3	4
植物病理Ⅰ	lag-372	lag-238	3	3	4
農業普及	lag-320	Ecn-134	3	3	4
			19	18	25

出所: Serie OPLAU, 90201, 1979--1981 Ciclo basico 150 creditos.

3) 入学・進学・卒業

前記の如く Preparatorio cursoへ無試験で入ってくる。このcurso は1年間の期限で、在学中に Secundaria の4年間の総復習をすることになっている。表Ⅲ-27にも示したように、その合計単位は前後期併せて51である。このうち24単位を所得すると正規の1年次生になれるのである。

第1回目で欠点をとった学生は当該科目を再度受講して(後期に受講)第2回目のテストを受ける。これでも欠点の学生は、半年正規生になることを延期し、6ヶ月後に第3回目のテストを受ける。ここで合格すれば半年遅くではあるが正規生になる。欠点をとった場合は大学生にはなれない。

表Ⅲ-28以降に示されているように、basicoでない教科目には必ず「prerequisitos」という字がついている。これは、例えば、「Aを受講する資格は必ずBを受験し、合格していなければならない」ということであるから、表からは1科目と言えども、選択科目が存在していないことが伝わってくる。

即ち、「次のSemestreへ進むためには、前のSemestreの教科目を全て修得済みであること」という決まりがあるとみてよい。それは、教科目は全て必須科目であることを意味している。「植物栽培・保護学科」を例にとると、基礎教養のうえに合計231単位を所得することが義務づけられており、これが卒業単位になる。進級には学級担任と相談することもある。学期の間に集中講義がある。開講される講義は2科目まで受講することができる。

専門コースはそれぞれ個別化されており、そこで卒業論文を作製するが、これは最終学期

を費してなされる。論文がパスすると卒業でき、Ingeniero の称号が与えられる。

表IV-12 植物・植物改良学科のコース

教科目	符 号	前提条件	理論	実習	単位
<u>第7学期</u>					
農業生態学Ⅱ	Iag-440	Ecol. A. I-Iag-336	3	3	4
栽培Ⅱ	Iag-337	Cult. I-Iag-330	4	3	5
栽培Ⅲ	Iag-431	Cult. I-Iag-330	4	3	5
植物生理学Ⅲ	Iag-339	Fisiol. Veg. II-Iag. 238	3	3	4
養蚕学Ⅰ	Iag-334	Ecol. A. I-Iag-336	3	3	4
植物セミナーⅠ	Iag-232		1	—	1
			18	15	23
<u>第8学期</u>					
栽培Ⅳ	Iag-435	Cult. I-Iag-330	4	3	5
果樹栽培Ⅰ	Iag-442	Edfol. II y Fis. V. II-Iag-238	3	3	4
露路栽培Ⅰ	Iag-432	Edfol. II y Fis. V. II-Iag-238	3	3	4
植物改良Ⅰ	Iag-437	Fitoge. -Iag-235	4	3	5
養蚕学Ⅱ	Iag-438	Silv. I-Iag-334	3	3	4
植物セミナーⅡ	Iag-236		1	—	1
			18	15	23
<u>第9学期</u>					
栽培Ⅴ	Iag-436	Cult. I-Iag-330	4	3	5
植物改良Ⅱ	Iag-439	Fitom. I-Iag-437	4	3	5
果樹栽培Ⅱ	Iag-445	Frut. I-Iag-442	3	3	4
露路栽培Ⅱ	Iag-444	Olcar. I-Iag-432	3	3	4
雑草防除	Iag-483	Cult. I-Iag-330	3	3	4
植物セミナーⅢ	Iag-239		1	—	1
			18	15	23

植物コースの理論実習 12単位

コースの単位 69単位

植物コースを履修したインヘニエロアグロノモ資格獲得の為の総単位 231単位

出所：表IV-11と同じ

表IV-13 土壌科学コース

教科目	符 号	要既修得教科目	理論	実習	単位
<u>第7学期</u>					
栽培Ⅱ	lag-337	Cult. I-lag-330	4	3	5
地層地形学	lag-310	G. de Suel. -lag-215	3	3	4
土壌学Ⅲ	lag-411	Edaf. II-lag-317	3	3	4
養蚕学Ⅰ	lag-334	Ec. Agric. -lag-336	3	3	4
農業	lag-452	Riegos II -lag-351	3	3	4
土壌科学セミナー	lag-214		1	-	1
			17	15	22
<u>第8学期</u>					
栽培Ⅲ	lag-431	Cult. I-lag-330	4	3	5
土壌保全	lag-410	Edaf. II-lag-317	3	3	4
土壌消毒	lag-414	Edaf. II-lag-317	3	3	4
土壌微生物学Ⅱ	lag-412	Micr. Suel. I-lag-319	3	3	4
農業分析Ⅲ	lag-416	A. Agric. II-lag-315	3	3	4
土壌科学セミナーⅡ	lag-217		1	-	1
			17	15	22
<u>第9学期</u>					
肥料・鉱物質肥料Ⅱ	lag-415	Abon. y E. I-lag-318	3	3	4
土壌作図	lag-415	Edaf. II-lag-317	3	3	4
農業計画の立案と評価	lag-417	Abon. y E. I-lag-318	3	3	4
土壌科学セミナーⅡ	lag-218		1	-	1
			10	9	13
土壌科学コース理論の実習					12単位
コースの単位					57単位
土壌科学コースを履修したインヘニエロアグロノモ資格獲得のための総単位					219単位
出所：表IV-11と同じ					

表IV-14 農業灌漑・機械コース

教科目	符号	前提条件	理論	実習	単位	教育課程符号
<u>第7学期</u>						
栽培II	lag-337	Cult. I-lag-330	4	3	5	90205
農業陸水業	lag-350	Riegos II-lag-351	3	3	4	
農業機械III	lag-453	Maq. Agric. II-lag-352	3	3	4	
土壌保全	lag-410	Edaf. II-lag-317	3	3	4	
製図	Arq-104		2	4	4	
農業灌漑・機械セミナーI	lag-253		1	-	1	
			16	16	22	
<u>第8学期</u>						
栽培III	lag-431	Cult. I-lag-330	4	3	5	
土壌作図	lag-415	Edaf. II-lag-317	3	3	4	
灌漑III	lag-451	Riegos II-lag-351	3	3	4	
農村建設	lag-353	Calc. y Analit. II -Mat-258	3	3	4	
植物遺伝工学I	lag-354	Maq. Agric. -lag-252	3	3	4	
農業灌漑・機械セミナーII	lag-254		1	-	1	
			17	15	21	
<u>第9学期</u>						
農場活動論	lag-454	Maq. Agr. III -lag-453	3	3	4	
農業機械管理	lag-455	Maq. Agr. III -lag-453	3	3	4	
植物遺伝工学II	lag-456	Ind. Fitogenas -lag-354	3	3	4	
灌漑操作システム	lag-457	Riegos III-lag-451	3	3	4	
農業排水法	lag-458	Riegos II-lag-351	3	3	4	
農業灌漑・機械セミナーIII	lag-255		1	-	1	
			16	15	21	

農業灌漑・機械理論実習

12単位

コース総単位

65単位

農業灌漑・機械コースを履修したインヘニエロアグロノモ資格獲得のための総単位 227単位

出所：表IV-11に同じ

表IV-15 野菜衛生コース

教科目	符号	前提条件	理論	実習	単位	教育課程符号
<u>第7学期</u>						
線虫学 I	lag-374	Fitop. I-lag-372	3	3	4	90204
植物病理学 II	lag-373	Fitop. I-lag-372	3	3	4	
昆虫防除化学	lag-376	Ent. Agro. II-lag-371	3	3	4	
栽培 II	lag-337	Cult. I-lag-330	4	3	5	
野菜衛生セミナー I	lag-272		1	—	1	
			14	12	18	
<u>第8学期</u>						
線虫学 II	lag-471	Nemt. I-lag-374	3	3	4	
昆虫生態学	lag-472	Control Quimico de Insectos-lag-376	3	3	4	
野菜ビークルス学	lag-473	Fitop. I-lag-372	3	3	4	
植物病理学 III	lag-481	Fitop. II-lag-373	3	3	4	
栽培 III	lag-431	Cult. I-lag-330	4	3	5	
野菜衛生セミナー	lag-273		1	—	1	
			17	15	22	
<u>第9学期</u>						
植物改良 I	lag-437	Fitogen. lag-235	4	3	5	
栽培 IV	lag-435	Cult. I-lag-330	4	3	5	
昆虫防除物学	lag-432	Ecologia de Insectos lag-472	3	3	4	
雑草防除	lag-433	Cult. I-lag-330	3	3	4	
疾患防除	lag-434	Fitop. II-lag-373	3	3	4	
野菜衛生セミナー	lag-274		1	—	1	
			18	15	23	

野菜衛生理論の実習

12単位

コースの単位

63単位

野菜衛生コースを履修したインベニエロアグロノモ資格獲得のための総単位

225単位

出所：表IV-11に同じ

表IV-16 畜産コース

教科目	符号	前提条件	理論	実習	単位	教育課程符号
<u>第7学期</u>						
家畜解剖	Vet-110	Bio-011	3	4	5	90201
家畜生理学	Vet-118	Bio-011	3	2	4	
伝染性寄生虫学	Vet-325	Microb. de Suelos I -Iag-319	4	6	7	
家畜栄養	Zoo-212	Zootecnia Gral-Zoo-114	3	3	4	
牧畜改良学	Zoo-136	Genetica Agricola y Bioest. -Est-132	3	2	4	
			16	17	24	
<u>第8学期</u>						
家畜繁殖学	Zoo-332	Fisiol. An. -Vet-118	3	6	6	
牧草・乾草	Zoo-223	Edaf. II-Iag-317	3	4	5	
肉・乳用畜獣	Zoo-334	Nut. Ani. -Zoo-212	3	3	4	
養豚	Zoo-335		3	3	4	
牧畜経営	Zoo-232		-	4	2	
特別な問題	Zoo-214		-	4	2	
			12	24	23	
<u>第9学期</u>						
農場経営	Zoo-211	Nociones de Econ. Animal-Ecn-134	3	2	4	
養鶏学	Zoo-333	Nutricion Animal Zoo-212	3	3	4	
養羊・山羊・兔・鶏学	Zoo-336	Nutricion Animal Zoo-212	3	3	4	
農場経営学II	Zoo-233	Manejo Ganado I -Zoo-232	-	4	2	
牛乳加工技術	Zoo-341	Microb. de Suelos I y Quim. organica. -Iag-319-Qui-121	3	3	4	
牧場経営と利用	Zoo-225	Pastos y Forrajes Zoo-223	3	4	5	
			15	19	23	

畜産理論の実習	12単位
コースの単位	70単位
畜産コースを履修したインヘニエロアグロノモ資格獲得のための総単位	232単位
出所：表IV-11と同じ	

卒業生は政府期間に90%、民間企業に10%の傾向で就職する。在学中の学業成績優秀な者は大学に残り、教官への道を進む。彼らは卒業すると国外へ留学する。留学先は、

- ① アメリカ
- ② コスタリカ
- ③ メキシコ
- ④ プエルトリコ

の順であり、その財源はa. USAID, b. ドミニカ政府, c. 大学当局に負っている。

4) 奨学生制度

学業成績のよい者に支給される。故に奨学生があるSemestreで1科目でも落第点をとれば、即刻奨学生取り消しになる。奨学金の財源は大学と民間とに求められている。大学のそれはCreditではないので、将来返還の義務はないが、民間のものはCreditであるので返還の義務を負う。

5) 学生生活

IASDには寮はなく、学生は全て自宅か下宿から通学している。ただ勤労学生には宿舎が用意されている。

6) 外国との提携

フランス、キューバ両国との間に協定を結んでいる。外国からの援助は、FAO, CEA, IAS のものがある。これらの援助は大統領府が決定をする。

7) 教育職員の研修制度

大学職員が研修を行う場合には、大学は当該教員に研修費を特別支給している。例えば、留学の場合には、その職員の給料は全額支給される。それは帰国後に給料から差し引かれる。また、国内で研修、研究している場合、実践面、実際面と多様であるが、毎月報告書を大学当局あて提出しなければならない。特別研究の場合は、それが終了してから提出しなければならない。

8) 図書館

農学部固有の図書館がある。蔵書は5000部である。これは古いものが多いので、新しいものを購入する予定である。また、不定期であるが農学部からCiencia Agronomia y Veterinariaという雑誌を刊行している。

表IV-17 獣医学科学生コース

OASDの獣医学教育課程学習計画

符 号	単 位	教科目	前提条件	理論時数	実習時数
1) EST-132	4	実験生物統計学	MAT-012	3	2
2) VET-135	5	発生学と組織学 I	B10-011	3	4
3) VET-111	4	家畜解剖学 I	B10-011	2	6
4) QUI-121	4	有機化学	QUI-011	3	3
5) IAG-133	4	牧畜遺伝概論	B10-011	3	3
<u>第2学期</u>					
6) VET-112	4	家畜解剖学 II	3	2	6
7) VET-139	5	発生学と組織学 II	2	3	4
8) CFI-231	5	生物化学 I	4	4	3
9) VET-116	5	家畜生理学 I	3 y 4	2	4
10) ZOO-114	4	動物学概論	1 y 5	3	3
<u>第3学期</u>					
11) VET-117	5	家畜生理学 II	9	3	4
12) VET-227	5	家畜微生物学 I	2 y 3	3	4
13) VET-225	5	家畜寄生虫病学 I	2 y 3	3	5
14) ZOO-123	4	<不明・印字判読不能>	B10-011	3	3
15) CFI-232	5	生物化学 II	8	4	3
16) VET-111	4	家畜解剖学 III	6	2	6
<u>第4学期</u>					
17) VET-311	5	家畜薬理学 I	11 y 15	4	3
18) ZOO-116	4	動物栄養学	10, 15	3	3
19) VET-228	5	家畜微生物学 II	12	3	4
20) VET-226	5	家畜寄生虫病学 II	13	3	5
21) VET-233	3	家畜生理病理学	11, 16	3	-
<u>第5学期</u>					
22) VET-312	5	家畜薬理学 II	17	4	3
23) VET-324	3	寄生虫疾患	20	3	-
24) VET-322	3	伝染性疾患 I	19	3	-
25) ZOO-133	4	養蜂	5, 12, 18	3	4
26) VET-235	4	家畜病理学 I	6, 7	3	4

<u>第 6 学期</u>						
27)	VET-236	4	家畜病理学 II	26	3	4
28)	ZOO-142	3	乳製品生産	12	2	3
29)	VET-431	3	医学病理学 I	21, 23, 24	3	-
30)	VET-341	3	外科・手術技術 I	16	2	4
31)	VET-323	3	伝染性疾患 II	24	3	-
32)	VET-241	3	家畜産科	7, 16	2	4
33)	VET-531	3	養鶏病理学	23, 24, 25	2	4

<u>第 7 学期</u>						
34)	VET-432	3	医学病理学 II	29	3	-
35)	VET-441	3	家畜病理臨床	7, 23, y, 31	2	5
36)	ZOO-113	5	繁殖生理病理学	2	3	6
37)	VET-342	3	外科・手術技術 II	30	2	4
38)	VET-343	4	家畜記号学	21	3	4

<u>第 8 学期</u>						
39)	VET-421	3	食物衛生学	23, 31	2	2
40)	ZOO-132	2	畜産学 I	18, 36	-	35
41)	VET-422	7	家畜公衆衛生学 I	23, 31	3	12
42)	VET-442	2	臨床医学 I	26, 34, 35y, 38	0	30
43)	VET-446	2	臨床外科 I	29, 31, 37y, 38	-	30

<u>第 9 学期</u>						
44)	ZOO-135	2	畜産学 II	40	-	35
45)	VET-443	2	臨床医学 II	42	-	30
46)	VET-448	2	臨床外科 II	43	-	30
47)	VET-423	7	家畜公衆衛生学 II	41	3	12

COMPANERO ESTUDIANTE: Has tu ayudado vez la Asociacion en la ejecucion de tareas que beneficia a todos los estudiantes ? Piensalo, luego, critica todo lo que creas debes. - 出所 : CASD 農学部次長より入手

(d) ペドロ・エンリケス・ウレーニャ大学 (Universidad Nacional Pedro Henriquez Urena = UNPHU)

UNPHU は1666年に創立された私立の総合大学である。図III-3で示した機構を持っており、農学部はその第3番目に位置している。

農学部は、

- a. 獣医学科 (Veterinaria Medico)
- b. 農学科 (Agronomia)
 - ① 作物生産学専攻 (Produccion Cultivos)
 - ② 土壌灌漑学専攻 (Suelos y Riegos)
 - ③ 農学教育・普及学専攻 (Educacion y Extension Agricola)
 - ④ 農業経済学専攻 (Economica Agricola)(この他に農業技術者のプログラム (Tecnico Agricola) がある)
- c. 畜産学科 (Produccion Animal)
 - ① 動物飼育専攻 (Zootecnista)
 - ② 畜産専攻 (Produccion Animal)

に分かれている。

また、1987年9月から熱帯作物生産のPost Graduate Course (Master) を開設の予定である。

農学部の教育課程は表III-34に示すようになっていく。この表からも、CASOと同様に、選択科目はひとつもなく、Semestre 2以後は必ずPre-Requisiteの条件が1教科目多いものは2教科目もついていることが分かる。

1) 教員組織

農学部の教員は総数60名である。全てが Profesor と呼ばれており、日本のような職階制が認められないのは、他の大学と同じである。昇格に関しても全く同様である。

教員を新規採用する時には、研究分野と実践分野に条件がついている。即ち、候補者はLicenciadoを持っていることがそれである。Ph. D. があれば非常に好ましい。また、担当予定の学問分野における実際経験の量と質とが問題になる。

採用の決定は ①総長、②学長、③3名のRector、④採用候補者が所属すると考えられる学科の最高責任者の合計6名の会議の結果行われる。また、新たに本学の教員になろうと志す者はフランス語と英語に堪能であることが条件として付加されている。

2) 学期 = Semestre

1学年度は2期に分かれている。前期は毎年8月中旬に始まり12月第3週に終了、後期は1月中旬に始まり5月末日までである。

この他に夏季セッションがある。これは6月初旬から7月末日までの集中コースである。各学期は18週から成り立っている。

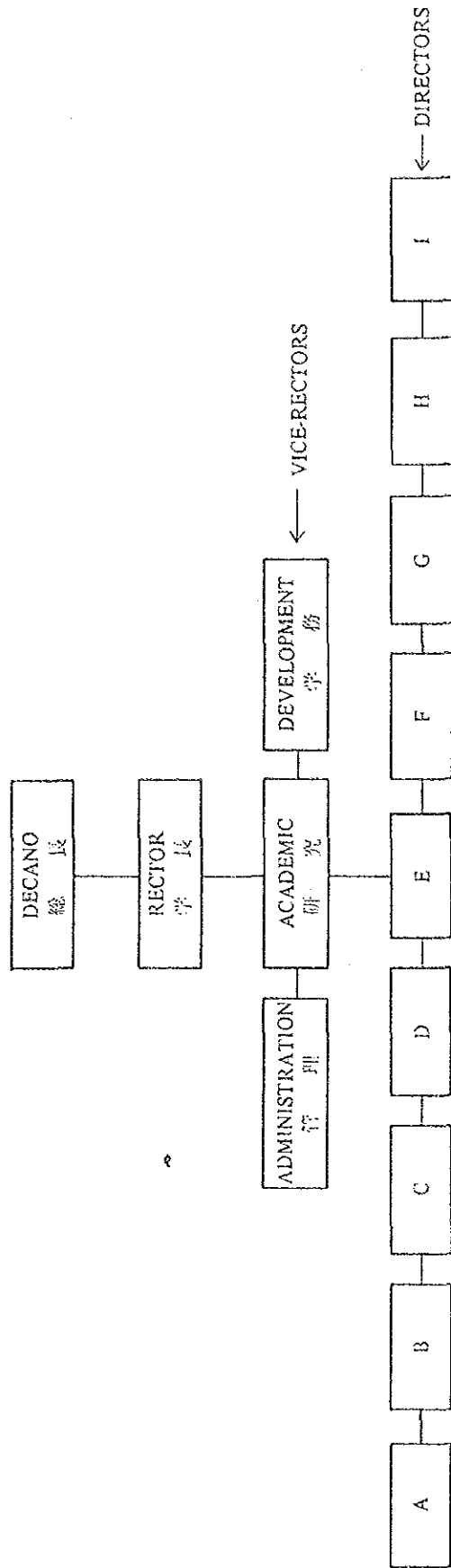
3) 入学、在学、進級、卒業

a. 入学

本学へ入学しようとする者は、高等学校を卒業しているか、Tecnico の肩書を持つ者に限る。

志願者は願書提出前に「適性検査 (Aptitud Academica)」を受けなければならない。

図 IV-1 UNPHU GOVERNMENT



- A : Sciences (理学部)
- B : Humanities (人文学部)
- C : Agricultural and Natural Resources Sciences (農業と天然資源学部)
- D : Educational Sciences (教育学部)
- E : Legal and Political Science (法律政治学部)
- F : Economic and Social Science (経済・社会学部)
- G : Engineering and Technology (機械工学部)
- H : Health Science (保健学部)
- I : Architecture and Arts (建築・芸術学部)

出所 : UNPHU・農学部長より聞きとり、非・UNPHU Proyecto Universidad Agraria の合作

願書は次のものが必要である。

- ① 出生証明書
- ② 高等学校の成績証明書
- ③ IDカードまたはパスポート (写し)
- ④ 最終学年施行の職業テスト結果
- ⑤ 父親または保護者の納税証明書
- ⑥ 父親または保護者の所得証明書 (給与証明書)
- ⑦ 2×2の写真3枚

大学は、これら条件を満たした志願者に試験を実施する。その内容は、教学の能力と、正確なスペイン語の能力についてのものである。

志願者は本人の意志で志望先を決定して受験するのが一般である。

b. 在学

Preparatorio Cursoに相当する期間も含めて、5年間である。

c. 進級

Somestreの教科目の試験に全て合格することが全てである。

教科目の評価基準は次のようになっている。

90点以上	優等	A
80点から89点まで	非常に良い	B
70点から79点まで	良い	C
60点から69点まで	不十分	D
59点以下	不合格	F

この基準に合格しなかった者は、次の年度前期再試験を受験できる。これに失敗した者は同じ年の後期に2度目のチャレンジができる。然しこれにも失敗した者は3年次前期に最終挑戦をし、合格すればよし、不合格の場合は、退学か、Tecnicoへ方向変換か何れかになる。

d. 卒業

学科によって必要単位は多少異なるが、無事に卒業すると、Ingeniero Agronomoの称号が与えられる。

4) 卒業後の進路

政府機関 80%

民間企業 20%

他 僅かであり、この傾向はIASDと同じである。

一方、母校へ教員になって残る者もいる。その場合は、研究室に残る → 外国留学 → 大学に戻る → UNPHUの教員という順路を辿る。

留学に当たっての諸経費は政府または財団が負担 (月 30000 E.S. \$ で3ヶ月から6ヶ月分) する。留学先は①北米、②コスタリカである。現在15名が留学している。

5) 学生数

全学で大体10,000名から12,000名在学している。サントドミンゴの本校に7,000名、マグアナ (Maguana) とラ・ベガと併せて3,000名から5,000名である。マグアナとラ・ベガはTecnico養成の施設である。

農学部全体では 550名である。1年次生は 150名 2年次以上になると、70名から80名位になってしまう。

6) 学生生活

a. 奨学生・特待生制度

Scholarship のようなものはなく、全て Credit である。つまり、卒業後は返済の義務を負っている。

奨学生の条件は全て成績である。成績が格段によければ授業料免除の特典もある。

財源は、①国家、②大学、③企業である。

一方、大学は特待生制度も持っている。芸術、体育の分野で非常に優秀な学生に与えられている。彼らはこの活動によって、奨学生になれる資格をも得る。

7) 通学方法

UNPHU には寮がない。通学は全て自宅、親類、下宿、アパートなどからである。彼らの生活費は月あたり 300ペソであり、交通費はこの他に 100ペソ必要である。この 400ペソは、サンチアゴの ISAの学生の 250ペソに比べて高い。

8) 宗教活動

学生も大学側も特にいずれにも組せず、中立の立場をとっている。これは信仰の自由を尊ぶ姿と見た。

9) 図書館

現在新しい図書館を建設中である。蔵書は全学で60,000冊ある。雑誌については不明である。農学部独自のものはない。

10) 外国との関係

外国から援助がきている。財源は USAID, フランス, エルサルバドル, コスタリカなどの国々からのものである。また、オハイオ, コーネル, プリティッシュコロンビア各大学と姉妹校の制度を結んでおり、語学の教員にひとり外国人がいる。

11) 附属施設

UNPHU には、学生教育と地域社会奉仕のための付属施設がいくつかある。それらは、

① ニグアファーム (Nigua Farm)

ここは良質の遺伝形質をもった家畜を生産するためのセンターとして位置づけられている。また品質のよい牛肉や乳製品の利用を通して、農務省や国際開発銀行と協力しながら、小規模農家にドミニカ共和国の家畜の品質改良に貢献することを目的としている。

② 家畜診療所 (Veterinary Clinic)

これは獣医学科の力に負っている。これの基本的目的は良い獣医になるために学生が家畜を診断、治療、その他様々な外科的学習を行い能力を発展させるためにある。同時に地域社会の農民に低廉な価格で家畜の疾患を治療するというサービスも行っている。

③ ニグア実験圃場 (Nigua Experimental Farm)

これは教員や学生が、農業研究という立場から実習や調査研究を行うために設けられている。運営は農学科の教職員と上級学年の学生によって行われている。

④ 教育普及施設 (Educational Extensions)

ドミニカ共和国の様々な異なった地域で高等教育を普及させるために、UNPHU はラ・ベ

が (La Vega) とサン・ファン・デ・マグアナ (San Juan de Maguana) の 2 都市にそれぞれ普及所あるいはキャンパスを有し、活動している。更に、サンチアゴ (Santiago) 市とエル・セイボ (El Seybo) 市に普及所を設置する動きが進んでいる。

⑤ 大学普及活動・促進ユニット (University Extension and Promotion Unit)

これは、一般の学生にもまた地域の住民にも毎年個々の学期に文化活動計画を組織計画することで、彼らの科学的、文化的教養を促進しようとするものである。これは生徒の全人的発達に資することが目的である。

表IV-18 (a) インヘニエロ・アグロノモ教育計画

生産・栽培

Plan de Estudios de INGENIERIA AGRONOMICA
 MENCIÓN PRODUCCION DE CULTIVOS

Año: 1983

教育課程の符号 : 302

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語・実習 I	3	3	0	
HUM-150	文化史	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
BIO-110	生物学概論 I	5	4	2	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		21			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語・実習 II	3	3	0	LET-101
MAT-160	高等代数学	5	4	2	MAT-060
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-340	植物学概論	4	3	2	BIO-110
SOC-242	一般・農村社会学	4	3	3	

		20			
<u>第 3 学 期</u>					
HUM-160	ドミニカ国危機の歴史	3	3	0	
MAT-270	統計・分析	4	3	2	MAT-160

表 IV - 18. (a) 続

QU1-230	有機化学	5	4	3	QU1-112
B10-341	植物分類学	4	3	2	B10-340
FIS-011	基礎物理学 I	4	3	2	

20

第 4 学期

QU1-267	生化学	4	3	3	QU1-230, B10-110
QU1-250	定量分析化学	5	3	6	QU1-112
FIS-012	基礎物理学 II	4	3	2	FIS-011
CO-100	経済入門	3	3	0	
AGR-230	土壌学	3	2	3	QU1-112
AGR-240	昆虫学概論・分類学	3	2	3	B10-110

22

第 5 学期

ARQ-371	製図技術	2	0	4	
AGR-340	有用昆虫学	3	2	3	AGR-240
B10-230	遺伝学	4	3	2	B10-110
B10-353	農業微生物学	4	3	3	B10-110
AGR-320	野菜物理学	3	2	3	QU1-267, B10-340
AGR-231	土壌遺伝学	3	2	3	AGR-230
ECO-320	農業経済学	3	3	0	

22

第 6 学期

AGR-322	植物改良学	3	2	3	B10-230
AGR-350	農業気象学	5	4	3	AGR-320, FIS-012
PRA-355	動物学	3	2	3	B10-230
ADM-341	市場論	3	3	0	ECO-320

表IV--18 (a) 続

AGR-342	植物病理学 I	3	2	3	BIO-353, BIO-230
ING-111	地形学 I	4	3	2	

		21			

第7学期

ING-339	木材の構成分析	3	2	2	MAT-270
ING-112	地形学 II	4	3	2	ING-111
AGR-443	植物病理学 II	3	2	3	AGR-342
ADM-330	農牧管理	3	2	3	
AGR-420	熱帯栽培	5	4	3	BIO-431, AGR-230
					AGR-342, AGR-240
AGR-413	農業機械	3	2	3	FIS-012

		21			

第8学期

AGR-432	土壌肥料	3	3	0	AGR-230, QUI-253
ING-452	農業水利学	4	3	3	FIS-012, MAT-270
ING-410	農村改善	3	2	3	ARQ-310, ING-339
AGR-426	果樹園芸	4	3	3	AGR-420
AGR-421	商業栽培	5	4	3	AGR-420

表IV-18 (a) 続

第9学期

ING-453	灌溉・排水	3	2	3	ING-452
MAT-334	生物統計学	3	2	3	MAT-270
AGR-460	農業普及学	3	2	3	SOC-241
AGR-520	牧草・乾草	3	2	3	BIO-340
AGR-430	土壌保全学	3	2	3	AGR-231
AGR-540	雑草防除	3	2	3	BIO-341

18

第10学期

AGR-525	山林学	4	3	3	AGR-420
AGR-523	園芸学	3	2	3	AGR-420
MAT-335	投資技術	3	2	3	MAT-334
AGR-900	学年実習作業	6	0	0	

16

授与資格 インヘニエロ・アグロノモ
 総単位数 200
 出 所 Catalogue USPHU

表IV-18 (b) インヘニエロ・アグロノモ教育計画

土壤・灌漑

Plan de Estudios de INGENIERIA AGRONOMICA
 MENCIÓN SUELOS Y RIEGOS

Año: 1983

教育課程の符号 : 305

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語・実習 I	3	3	0	
HUM-150	文化史	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		16			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語・実習 II	3	3	0	LET-101
MAT-160	高等代数	5	4	2	MAT-060
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-340	植物概論	4	3	2	BIO-110
SOC-241	一般・農村社会学	4	3	3	

		20			
<u>第 3 学 期</u>					
HUM-160	ドミニカ国危機の歴史	3	3	0	
MAT-270	統計・分析学	4	3	2	MAT-160
QUI-230	有機化学	5	4	3	QUI-112

表IV-18 (b) 続

FIS-011	植物学概論 I	4	3	2	
BIO-341	植物分類学	4	3	2	BIO-340

20

第4学期

QUI-267	生化学	4	3	3	QUI-230, BIO-110
FIS-012	植物学概論 II	4	3	2	FIS-011
QUI-250	定量分析化学	5	3	6	QUI-112
ECO-100	経済学入門	3	3	0	
AGR-230	土壌学	3	2	3	QUI-112
AGR-240	昆虫学概論・分類学	3	2	3	BIO-110

22

第5学期

ARQ-371	排水技術	2	0	4	
BIO-230	遺伝学	4	3	2	BIO-110
BIO-353	農業微生物学	4	3	3	BIO-110
AGR-320	野菜生理学	3	2	3	QUI-267, BIO-340
AGR-231	土壌遺伝学	3	2	3	AGR-230
ECO-320	農業経済	3	3	0	

19

第6学期

AGR-322	植物改良学	3	2	3	BIO-230
AGR-350	農業気象学	5	4	3	AGR-320, FIS-012
ADM-341	市場論	3	3	0	ECO-320
AGR-342	植物病理学 I	3	2	3	BIO-353, BIO-230
ING-111	地形学 I	4	3	2	

18

表IV-18 (b) 続

第7学期

ING-339	木材構成分析	3	2	2	MAT-270
ING-112	地形学	4	3	2	ING-111
AGR-420	熱帯栽培学	5	4	3	BIO-341, AGR-230 AGR-342
AGR-433	土壤化学	3	3	0	AGR-230, QUI-250
AGR-413	農業機械学	3	2	3	FIS-012
AGR-431	土壤物理学	3	2	3	FIS-012, AGR-230

21

第8学期

AGR-432	土壤肥料学	3	3	0	QUI-253, AGR-230
ING-452	農業水利学	4	3	3	FIS-012, MAT-270
ING-410	農村改善学	3	2	3	AGR-310, ING-339
AGR-426	果樹園芸学	4	3	3	AGR-420
AGR-421	商業栽培学	5	4	3	AGR-420

19

第9学期

AGR-510	還元技術	2	2	0	LET-102
ING-453	灌漑・排水	3	2	3	ING-452
MAT-334	生物統計	3	2	3	MAT-270
AGR-520	牧草・乾草学	3	2	3	BIO-340
AGR-430	土壤保全学	3	2	3	AGR-231
BIO-356	土壤微生物学	3	2	3	BIO-353
AGR-530	土壤, 植物, 水の分析化学	3	1	6	AGR-432, AGR-433

20

表IV-18 (b) 続

第10学期

AGR-232	土壌管理	3	2	3	AGR-430
ING-454	排水設計	3	3	2	AGR-430
AGR-525	山林学	4	3	3	AGR-430
AGR-523	園芸学	3	2	3	AGR-420
MAT-335	研究技術	3	2	3	MAT-334
AGR-900	学年実習作業	6	0	0	

22

授与資格 インヘニエロ・アグロノモ
 総単位数 197
 出 所 表IV-18に同じ

表IV-18 (c) インベニエロ・アグロノモ教育計画

農業教育と普及

Plan de Estudios de ING. AGRON.

Año: 1983

MENCION EDUCACION Y EXTENSION AGRICOLA

教育課程の符号 : 303

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語・実習 I	3	3	0	
HUM-150	文化史	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
BIO-110	生物学概論	5	4	2	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		21			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語・実習 II	3	3	0	LET-101
MAT-160	高等代数学	5	4	2	MAT-060
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-340	植物学概論	4	3	2	BIO-110
SOC-241	一般・農村社会学	4	3	3	

		20			
<u>第 3 学 期</u>					
HUM-160	ドミニカ国危機の歴史	3	3	0	
MAT-270	統計・分析学	4	3	2	MAT-160

表IV-18 (c) 続

QOI-230	有機化学	5	4	3	QOI-112
FIS-011	基礎物理学 I	4	3	2	
EDU-100	教育学入門	3	3	0	

19

第4学期

BIO-220	動物学概論	4	3	3	BIO-110
FIS-012	基礎物理学 II	4	3	2	FIS-011
ECO-100	経済学入門	3	3		
EDU-130	教授学概論	4	3	2	EDU-100
AGR-230	土壌学	3	2	3	QOI-112
AGR-240	昆虫学概論・分類学	3	2	3	BIO-110

21

第5学期

AGR-340	商業昆虫学	3	2	3	AGR-240
BIO-230	遺伝学	4	3	2	BIO-110
BIO-353	農業微生物学	4	3	3	BIO-110
ECO-320	農業経済学	3	3	0	
SOC-242	先駆的農村社会学	3	2	3	SOC-241
EDUC-211	視聴覚教材	2	1	2	EDU-130

19

第6学期

AGR-350	農業気象学	5	4	3	FIS-012
PRA-355	動物学	3	2	3	BIO-230
ADM-341	農牧事業学	3	3	0	ECO-320
AGR-342	植物病理学 I	3	2	3	BIO-353, BIO-230

表 IV-18 (c) 續

PSI-103	心理学入門	3	3	0	
EDU-240	特殊農業教育教授学 I	2	1	2	EDU-130

19

第 7 学期

ADM-330	農牧管理学	3	2	3	
AGR-420	熱帶栽培学	5	4	3	BIO-341, AGR-230 AGR-240, AGR-342
AGR-443	植物病理学 II	3	2	3	AGR-342
AGR-413	農業機械	3	2	3	FIS-012
EDU-334	發達心理学	3	3	0	PSI-103

19

第 8 学期

AGR-432	土壤肥料	3	3	0	AGR-230
ING-452	農業水利学	4	3	3	FIS-012, MAT-270
AGR-426	果樹園芸	4	3	3	AGR-420
AGR-421	商業栽培学	5	4	3	AGR-420
EDU-335	特殊教育教授学 II	3	1	4	EDU-334

19

第 9 学期

ING-453	灌溉・排水	3	2	3	ING-452
MAT-334	生物統計学	3	2	3	MAT-270
AGR-460	農業普及学	3	2	3	SOC-241
AGR-430	土壤保全学	3	2	3	AGR-231
AGR-540	雜草防除	3	2	3	BIO-340
EDU-443	特殊農業教育教授学 IV	3	1	4	EDU-335

18

表IV-18 (c) 続

第10学期

AGR-525	山林学	4	3	3	AGR-420
AGR-523	園芸学	3	2	3	AGR-420
MAT-335	研究技術	3	2	3	MAT-334
AGR-461	応用農業普及	4	2	6	AGR-460
AGR-900	学年実習作業	6	0	0	

20

授与資格	インヘニエロ・アグロノモ
総単位数	195
出 所	表IV-18 (a)と同じ

表IV-18 (d) 農業経済リサーチ用教育計画

Plan de Estudios de LICENCIATURA EN
ECONOMIA AGRICOLA

Año: 1983

教育課程の符号 : 304

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語・実習 I	3	3	0	
HUMM-150	文化史	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
MAT-160	高等代数	5	4	2	MAT-060 o Ex. de
BIO-110	植物学概論 I	5	4	2	nivel
CON-111	簿記概論 I	4	3	2	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	
		21	6	22	
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語・実習 II	3	3	0	LET-101
FIS-010	教養の物理学	3	3	0	
MAT-171	統計・分析学	4	3	2	MAT-160
CON-112	簿記概論 II	4	3	2	CON-111
ECO-101	経済学原論 I	3	3	0	CON-111, BIO-340
		17			
<u>第 3 学 期</u>					
MAT-172	統計・分析学	4	3	2	MAT-171
ECO-102	経済学原論 II	3	3	0	ECO-101

表IV-18 (d) 続

HUM-160	ドミニカ危機史	3	3	0	
MAT-131	記述統計学	3	2	2	MAT-060 o Ex, de
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	nivel

17

第4学期

MAT-173	統計・分析学 III	4	3	2	MAT-172
MAT-260	幾何学	3	2	2	MAT-160
MAT-132	統計法	3	2	2	MAT-131
ECO-210	貨幣・銀行入門	3	3	0	ECO-102
SOC-241	社会学概論と農村	4	3	3	
AGR-230	土壌学	3	2	3	QUI-111

20

第5学期

MAT-231	複合後退の分析	3	2	2	MAT-132, MAT-160
ECO-301	微経済学	4	4	0	ECO-102, MAT-171
ECO-311	巨視経済学 I	4	4	0	ECO-102, MT-171
BIO-230	遺伝学	4	3	2	BIO-110

15

第6学期

ECO-411	会計政策 I	3	3	0	ECO-102
ECO-510	国際経済	3	3	0	ECO-102
ADM-330	農牧管理	3	2	3	
ECO-530	土地経済学	3	0	3	ECO-102
AGR-420	熱帯栽培学	5	4	3	BIO-342, AGR-342

17

表IV-18 (d) 続

第8学期

ECO-400	金融理論政策	3	3	0	ECO-311
ECO-412	会計政策II	3	3	0	-411
ECO-451	経済発達I	3	3	0	ECO-102
AGR-421	商業栽培	5	4	3	AGR-420
ECO-555	農牧生産の経済学	3	3	0	ECO-301

17

第9学期

ECO-511	経済計画技術I	3	3	0	ECO-102
ECO-520	計画の準備と評価	3	3	2	
ECO-500	計画経済学	4	4	0	MAT-231
ECO-552	経済発達II	3	3	0	ECO-451
AGR-460	農業普及	3	2	3	SOC-241

16

第10学期

ECO-512	経済計画技術II	3	3	0	ECO-512
ECO-570	企業経済	3	3	0	ECO-301
ECO-580	経済体系比較	3	3	0	ECO-102
AGR-525	山林学	4	3	3	AGR-420
AGR-900	学年実習作業	6	0	0	

19

授与資格 農業経済リセシアド

総単位数 180 又は 181

出 所 表IV-18 (a)と同じ

(注：第7学期記述なし)

表IV-18 (c) テクニコ・アグリコラ教育計画

Plan de Estudios de TECNICO AGRICOLA

Año: 1983

教育課程の符号 : 301

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	特殊表現法・特殊技法	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
BIO-110	生物学概論 I	5	4	2	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	

		18			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	特殊表現法・特殊技法	3	3	0	LET-101
MAT-160	高等代数	5	4	2	MAT-060
SOC-241	一般・農村社会学	4	3	3	
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-340	植物学概論	4	3	2	BIO-110

		20			
<u>第 3 学 期</u>					
MAT-270	統計・分析	4	3	2	MAT-160
FIS-011	基礎物理学 I	4	3	2	
ING-210	地形学	4	3	2	
AGR-240	昆虫学概論・分類学	3	3	2	BIO-110

表IV-18 (c) 続

ECO-100	経済学入門	3	3	0	
AGR-230	土壌学	3	2	3	001-112

21

第4学期

HUM-160	ドミニカ危機史	3	3	0	
BIO-230	遺伝学	4	3	2	BIO-110
BIO-353	農業微生物学	4	3	3	BIO-110
AGR-420	熱帯栽培	5	4	3	BIO-340, AGR-240
AGR-432	土壌肥料	3	3	0	AGR-230

19

第5学期

AGR-523	園芸	3	2	3	AGR-420
PRA-355	動物学	3	2	3	BIO-230
AGR-342	植物病理学 I	3	2	3	BIO-353, BIO-230
AGR-421	商業栽培	5	4	3	AGR-420
MAT-334	生物統計学	3	2	3	MAT-270
AGR-460	農業普及	3	2	3	SOC-241

20

総単位数 98
出 所 表IV-18 (a)と同じ

表IV-18 (C) 獣医学博士教育計画

Plan de Estudios de MEDICINA VETERINARIA

Año: 1983

教育課程の符号 : 311

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語・実習 I	3	3	0	
NUM-150	文化史	3	3	0	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
QUI-111	化学概論 I	4	3	2	
BIO-111	生物学概論 I	4	3	2	
PRA-150	牧畜科学入門	2	2	0	
ORI-100	大学オリエンテーション	1	1	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		21			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語・実習 II	3	3	0	LET-101
MAT-062	大学前の代数	3	2	2	MAT-061
SOC-241	一般・農村社会学	4	3	3	
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-112	生物学概論 II	4	3	2	BIO-111
ECO-100	経済学入門	3	3	0	

		21			
<u>第 3 学 期</u>					
QUI-230	有機化学	5	4	3	QUI-112

表IV-18 (f) 統

B10-220	動物学概論	4	3	3	B10-112
HUM-160	ドミニカ危機史	3	3	0	
FIS-030	簡約基礎物理学	3	2	2	
B10-230	遺伝学	4	3	2	B10-112
ECO-320	農業経済	3	3	0	ECO-100

22

第4学期

PRA-355	動物学概論	3	2	3	B10-230
QUI-265	生化学	4	3	3	QUI-230
PRA-460	家畜繁殖学	4	3	3	B10-230 ELECTIVA
PRA-210	人間関係論	2	2	0	ELECTIVA
B10-554	家畜微生物学 I	4	3	3	B10-112
VET-221	解剖学 I	4	3	3	B10-112

21

第5学期

VET-322	解剖学 II	4	3	3	VET-221
B10-263	生物組織・発生学	4	3	3	B10-112
B10-355	家畜微生物学 II	3	3	0	VET-210
B10-221	家畜寄生虫病学	4	3	3	B10-112
PRA-340	栄養学 I	4	3	3	QUI-265

23

第6学期

VET-323	局所解剖学	3	2	2	VET-322
VET-341	寄生虫発生学	4	3	3	VET-340
VET-351	動物生理学	4	3	3	QUI-265
VET-325	外科学	4	3	3	VET-322
PRA-341	栄養学 II	3	2	2	PRA-340

表IV--18 (f) 続

PRA-201	整復技術	2	2	0	LET-102, ELECTIVA
---------	------	---	---	---	-------------------

20

第7学期

VET-352	繁殖整理学	4	3	3	VET-351, VET-350
VET-460	症候学 I	3	2	3	VET-350, VET-351
VET-432	病理学概論	2	2	0	VET-331
AGR-520	牧草・乾草	3	2	3	BIO-112
VET-412	伝染性疾患 I	3	3	0	VET-311
PRA-561	乳用獸牧畜学	4	3	3	PRA-341, ELECTIVA

19

第8学期

VET-513	伝染性疾患 II	3	3	0	VET-311
VET-462	症候学 II	3	2	3	VET-460
VET-433	特殊病理学	3	2	3	VET-331, VET-432
VET-463	医学病理学 I	3	3	0	VET-460
FAR-361	薬理学 I	3	2	3	VET-351
PRA-564	養鶏学	3	2	3	PRA-341
VET-420	病理外科学	3	2	3	VET-325

21

第9学期

VET-461	鳥類組織学	3	2	3	PRA-564
VET-564	医学病理学 II	3	3	0	VET-460, VET-462
FAR-362	薬理学 II	3	2	3	VET-453
VET-565	産科学	4	3	3	VET-352, VET-464
VET-570	家畜公衆衛生学	3	2	3	BIO-355
PRA-560	肉用獸牧畜学	4	3	3	PRA-341, ELECTIVA

表IV-18 (f) 続

VET-567	臨床歩行学	4	1	12	VET-462, 513, 412, 460, 420

		24			

第10学期

VET-571	栄養衛生学	3	2	3	VET-311
VET-572	臨床歩行学	6	0	18	VET-567
PRA-592	乳製品生産学	3	2	3	VET-210 ELECTIVA
PRA-590	肉加工学	3	2	3	VET-210 ELECTIVA
PRA-562	養豚学	4	3	3	PRA-341 ELECTIVA

		19			

授与資格 獣医学博士
 総単位数 211
 出 所 表IV-18 (a)と同じ

表IV-18 (g) 動物学インヘニエロの教育計画

Plan de Estudios de ZOOTECNIA

Año: 1983

教育課程の符号 : 321

<u>符 号</u>	<u>教 科 目</u>	<u>単 位</u>	<u>理 論</u>	<u>実 習</u>	<u>前 提 条 件</u>
<u>第 1 学 期</u>					
LET-101	スペイン語 I	3	3	0	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
BIO-110	生物学概論	4	3	3	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
	牧畜科学入門	2	2	0	
AGR-100	農牧オリエンテーション	2	1	3	
HUM-150	文化史	3	3	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		23			
<u>第 2 学 期</u>					
LET-102	スペイン語 II	3	3	0	HUM-115
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
MAT-062	大学前程度代数	3	2	3	MAT-061
BIO-300	植物学概論	3	2	3	BIO-110
SOC-241	一般・農村社会学	4	3	3	

		17			
<u>第 3 学 期</u>					
MAT-270	統計・分析学	4	3	3	MAT-062
QUI-230	有機化学	5	4	3	QUI-112

表IV-18 (g) 續

BIO-220	動物學概論	4	3	3	
FIS-030	簡約基礎物理學	3	2	3	NUM-116
PRA-201	編集技術	2	2	0	

18

第4学期

QUI-265	生化學	4	3	3	QUI-230
BIO-350	微生物學概論	4	3	3	BIO-110
ECO-100	經濟學入門	3	3	0	
AGR-230	土壤學	3	2	3	QUI-112
PRA-230	解剖學概論	4	3	2	BIO-110

18

第5学期

BIO-230	遺傳學	4	3	2	BIO-110, QUI-300
AGR-520	牧草·乾草	3	2	3	
BIO-221	寄生蟲病理學概論	4	3	3	BIO-220
VET-350	家畜生理學 I	3	3	0	QUI-265, QUI-300
PRA-340	營養學 I	4	3	3	QUI-265

18

第6学期

PRA-341	營養學 II	3	2	3	PRA-340
ING-211	地形學	4	3	3	MAT-270
VET-509	家畜疾患	3	3	0	VET-305
AGR-350	農業氣象學	5	4	3	FIS-111
VET-351	家畜生理學 II	3	3	0	QUI-265 ELECTIVA

19

表IV-18 (g) 続

第7学期

AGR-560	生物統計学	3	2	3	MAT-270
PRA-420	伝染性疾患学	3	3	0	PRA-220
PRA-450	繁殖と人工受精	4	3	3	VET-350
AGR-413	農業機械	3	2	3	FIS-030
HUM-160	ドミニカ国危機史	3	3	0	
ECO-320	農業経済	3	3	0	ECO-100

19第8学期

AGR-561	研究技術	3	2	3	AGR-560
PRA-460	家畜改良学	4	3	3	AGR-560, BIO-230
PRA-470	乾草の評価・取り扱い・使用法	5	4	3	AGR-520
PRA-480	牧畜計画・管理	4	3	3	ECO-320
VET-571	食品衛生	3	2	3	QUI-265, PRA-220

ELECTIVA

19

第9学期

PRA-580	家畜市場論	3	3	0	PRA-480
AGR-460	農業普及	3	2	3	SOC-340
PRA-560	肉用獣牧畜学	4	3	3	PRA-341, PRA-470
PRA-561	乳用獣牧畜学	4	3	3	PRA-341, PRA-470
PRA-562	豚類牧畜学	4	3	3	PRA-341
PRA-563	養鶏	3	2	3	ELECTIVA

21第10学期

PRA-564	養蜂	3	2	3	PRA-341
PRA-565	養兔	3	2	3	PRA-341 ELECTIVA

表IV-18 (g) 続

PRA-590	食肉加工学	3	2	3	QUI-265, VET-210
PRA-592	乳製品生産学	3	2	3	VET-210, QUI-265
PRA-600	学年の実習作業	5	0	0	

17

授与資格 インヘニエロ・ズーテクニスタ
 総単位数 188
 出 所 表IV-18 (a)と同じ

表IV-18 (h) 畜産テクニコの教育計画

Plan de Estudios de TECNICO EN PRODUCCION

Año: 1983

教育課程の符号 : 310

符 号	教 科 目	单 位	理 論	实 習	前提条件
<u>第1学期</u>					
LET-101	スペイン語・実践 I	3	3	0	
QUI-111	化学概論 I	4	3	3	
BIO-110	生物学概論	5	4	2	
AGR-100	農牧オリエンテーション	2	1	3	
MAT-060	基礎数学	4	3	2	
ECO-100	経済学入門	3	3	0	
EDF-100	体育又は芸術	1	0	2	

		22			
<u>第2学期</u>					
LET-102	スペイン語 II	3	3	0	LET-101
QUI-112	化学概論 II	4	3	3	QUI-111
BIO-300	生物学概論	3	2	3	BIO-110
SOC-241	社会学概論	4	3	3	
BIO-220	動物学概論	4	3	3	BIO-110
ECO-320	農業経済学	3	3	0	ECO-100

		21			
<u>第3学期</u>					
PRA-480	牧畜計画・管理	4	3	3	ECO-320
QUI-230	有機化学	5	4	3	QUI-112

表IV-18 (h) 続

BIO-350	微生物概論	4	3	3	BIO-110
AGR-230	土壌学概論	3	2	3	QUI-112
PRA-230	解剖学概論	4	3	2	BIO-110

20

第4学期

PRA-201	還元技術	2	2	0	
BIO-230	遺伝学	4	3	2	BIO-110, QUI-230
AGR-520	牧草・乾草	3	2	3	
PRA-339	家畜栄養学	4	3	3	QUI-230
PRA-350	家畜生理学	3	3	0	PRA-230, QUI-230

16

第5学期

PRA-470	乾草の評価・取り扱い・使用法	5	4	3	AGR-520
AGR-460	農業普及	3	2	3	SOC-241
BIO-221	寄生虫病学概論	4	3	3	BIO-220
PRA-459	記号学概論	3	2	3	PRA-350
PRA-450	繁殖・人工受精学	4	3	3	PRA-350

19

第6学期

PRA-560	肉用獣牧畜学	4	3	3	PRA-339, PRA-470
PRA-561	乳用獣牧畜学	4	3	3	PRA-339, PRA-470
PRA-564	養鶏学	3	2	3	PRA-359
PRA-565	養兔学	3	2	3	PRA-339
PRA-460	家畜改良学	4	3	3	AGR-560

18

表IV-18 (h) 続

授与資格 畜産テクニコ

総単位数 106

出 所 表IV-18 (a)と同じ

4. 農林業教育の問題点

農業は国の根幹産業である。農業は無学文盲の者の携わる職業ではなくなりつつある。最も先端の技術を応用していく分野に脱皮しつつある。

ドミニカ共和国では、専従農家の質を高め、先端技術を駆使して先進国の仲間入りをするためには、大学農学部が設立されたのがあまりにも遅すぎる。やっと設立後20~30年位である。これら大学は設備、施設の充実、人員の確保の時期をようやく乗り越えようとしている。UNPHU にその心意気を見、UASDに期待をつなぎ、ISA に声援を送りたい気持があるのはこの国の方向性がそこにあらわれているからと見る。しかし、蔵書の数をひとつとってみても、あまりにも少なすぎることから、研究活動に実りを早急に期待できないように思える。大学にはこの充実が急務である。

同時に、高等学校のレベルをみると、教育の内容が農牧に偏し、林業林産を学び教える分野が極端に少ない。ISA に認められ、UNPHU に一科目あっただけで、他の大学には何も見受けられなかった。ここにも問題点がある。

UNPHU でも、UCE でも、「近頃農学部にくる学生が少しずつ減少してき始めた」ときいた。ISA の志願者の傾向にも示されているように思う。これは大きな問題であろう。一次産業の農業が他の産業の中へ吸収されていくのであろうか。農業国で、粗農産品の輸出の他に貿易手段を持たないこの国の問題点である。

4-1. 参考資料

- ① Republica Dominicana Secretaria de Estado de Educacion, Bell as Artes y Cultos, Curriculo Escuelas Agricolas, 1987.
- ② Escuela Agricola Salesiana, Diez Anos en La Vega, 1978, Instituto Agricola Salesiana, La Vega R. D.
- ③ UNPHU, A University for Development, 1983, UNPHU, pp19-20.
- ④ Proyecto Educativo Pastoral, 1980, Escuela Agricola Salesiana, La Vega R. D.
- ⑤ Manual de Estudiantes, Programa Secundario, 1986, Instituto Superior de Agricultura Santiago, R. D.
- ⑥ Aprender para Servir Serrir para Construir, 1986, Instituto Superior de Agricultura, Santiago, R. D.
- ⑦ Calendario Academico 1987-1988, 1987, Instituto Superior de Agricultura Santiago, R. D.
- ⑧ Memoria, 1986, Instituto Superior de Agricultura Santiago, R. D.

- ⑨ Facultado de Ingenieria y Agricultura Plans y Programs de Estudios, 1986, Universidad Central de Este, San Pedro de Macoris, R. D.
- ⑩ Facultado de Ingenieria y Agricultura Programa de Catedra, 1987, Universidad Central de Este, San Pedro de Macoris, R. D.
- ⑪ Institucion, Nomina de Personal Academico Abserito a Investigaciones, 1985, Consejo Nacional de Educacion Superior, R. D.
- ⑫ Serie OPLAU, Plan de Estudios para la Carrera de Ingenieria Agronomia Codigo, 90201, Periodo 1979-1981, Asociacion de Estudiantes de Ing. Agronomia, Universidad Autonoma de Santo Domingo, R. D.
- ⑬ Catalogue, 1986, UNPRU
- ⑭ Informacion, 1986, Universidad Central del Este, R. D.
- ⑮ Publicaciones de la Universidad de Central del Este, 1986, Universidad de Central del Este, R. D.
- ⑯ 海外協力の現場から；青年海外協力隊員の記録；1985；国際協力事業団青年海外協力隊事務局

4-2. 参考文献

- ① ドミニカ共和国アグリボ地域農業開発計画事前調査報告書, 1980, 国際協力事業団
- ② 中南米農業協力プロジェクトファイニング調査報告書, 1981, 国際協力事業団
- ③ ドミニカ共和国アグリボ（エルボン）地域農業開発計画調査主報告書, 1982, 国際協力事業団
- ④ 海外農林業開発協力国別（地域別）方針基礎調査報告書（アルゼンチン，韓国，ドミニカ共和国，ボリビア），1983，財団法人国際開発センター
- ⑤ 中南米農業協力プロジェクトファイニング調査報告書（ドミニカ共和国）1984，国際協力事業団

